

平成24年度（平成23年度対象）

逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書

逗子市教育委員会

【 目 次 】

○はじめに
 1 趣旨 1
 2 点検・評価の対象 1

○学校教育
 1 点検・評価の実施方法 3
 2 点検・評価の記載方法 3
 3 報告内容の構成 4
 4 点検及び評価の結果

I	子どもたちの学力向上	5
	1 個に応じた指導の充実	5
	① 新学習指導要領の全面实施に向けた取り組み	5
	② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	8
	③ 「読解力」向上の取り組みの推進	11
	④ 読書活動の推進	14
	⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	17
	〈教育委員会分析結果〉	21
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	24
	2 健やかな心と身体の育成	26
	① 基本的な生活習慣の育成	26
	② 豊かな心を育む道徳教育の推進	30
	③ 豊かな体験活動の推進	33
	④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	36
	〈教育委員会分析結果〉	39
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	41
II	課題に迅速に対応する学校づくり	43
	1 多様な教育的課題への対応	43
	① 子どもの安全と安心の確保の推進～防災教育の推進～	43
	② いじめ・不登校等への対応の推進	47
	③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	50
	④ 国際教育の推進	53
	⑤ キャリア教育の推進	56
	⑥ 福祉教育の推進	59
	⑦ 環境教育の推進	62
	⑧ 情報教育の推進	65
	〈教育委員会分析結果〉	68
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	72
	2 地域に開かれた学校づくり	75
	① 地域への情報発信と学校公開の工夫	75
	② 地域教育力の活用～学校支援地域本部の設置～	78
	③ 学校評価を生かした学校の改善	81
	〈教育委員会分析結果〉	84
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	87

Ⅲ	教員の指導力向上	89
	1 教員研修・研究の充実	89
	① 授業研究の充実	89
	② 授業評価の活用	92
	③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	95
	④ 研修事業の充実	98
	〈教育委員会分析結果〉	101
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	103

○社会教育

1	点検・評価実施方法	105
2	点検・評価の記載方法	105
3	報告内容の構成	105
4	点検及び評価の結果	
	各種講座事業	107
	学校開放事業	108
	人権・同和教育等事業	109
	家庭教育推進事業	109
	小坪公民館まつり事業	110
	小坪公民館図書貸出事業/沼間公民館図書貸出事業	111
	小坪公民館学級講座事業/沼間公民館学級講座事業	111
	社会教育委員会議からの意見、助言	113

○参考資料

	平成23年度の教育委員会の活動状況	115
	逗子市学校教育総合プラン全体図	119
	平成21年度～平成23年度 学校による点検及び評価の推移	
	逗子小学校	120
	沼間小学校	126
	久木小学校	132
	小坪小学校	137
	池子小学校	142
	逗子中学校	147
	久木中学校	152
	沼間中学校	157
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	162
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について （抜粋）	163

〇はじめに

1 趣 旨

平成 19 年 6 月に公布された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成 20 年 4 月 1 日から、すべての教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

本報告書は、この法律の規定に基づき、委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関する学識経験者の意見及び助言をいただき、点検及び評価を実施し、結果を報告するものです。

本市の特色ある教育施策を広く市民の皆さまにお知らせすることにより、教育現場における課題や取り組みの方向性を明らかにし、また、社会教育の講座等の充実を図り、より一層効果的な教育行政の推進を図り、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象については、学校教育に関わる対象事業は、「21世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に策定された「逗子市学校教育総合プラン(第Ⅱ期)」(平成 22 年度改定)を対象とし、学校の教育活動に焦点をあてています。

また、今年度から社会教育に関わる事業について、「ずし生涯学習推進プラン」2011～2014 に基づく、社会教育に関する講座等の事業を対象としています。

○学 校 教 育

1 点検・評価の実施方法

学校教育に関わる対象事業は、「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅱ期）」に基づいて実施しています。

本計画は、「21世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に、逗子の公立学校の取り組む方向性を示す「逗子市学校教育総合プラン」を平成18年3月に策定しました。その際、変わり行く社会情勢や教育改革に対応できるよう、プランの期間を3年とし、2年経過後見直しを図ることとしたので、平成21年度中に改定作業を進め策定しました。

この第Ⅱ期のプランも第Ⅰ期同様、さらなる学校教育の充実に向け、これまでの本市の教育施策や各学校の取り組みを整理するとともに、理念的なプランではなく、「子どもたちの学力向上」「課題に迅速に対応する学校づくり」「教員の指導力向上」と大きく三つの柱を立て、これからの子どもたちに培う力、そのための学校教育の進め方などについて具体的・実践的なプランとなっています。

この三つの柱を中心に、基礎学力の定着、豊かな体験活動の推進、健康教育の推進、地域全体で学校を支援する体制づくりなどに重点がおき、平成23年度の取り組みについて点検・評価を実施しました。

* 予算や決算審査では見えにくい各学校の教育活動に焦点をあて、「逗子市学校教育プラン」の平成23年度における取り組みを点検・評価するものです。

2 点検・評価の記載方法

- (1) 「逗子市学校教育総合プラン」の三つの柱に基づいて定めた各行動プランについて、平成23年度に各小・中学校が取り組んだ状況を明らかにするとともに、教育委員会が各小・中学校が取り組んだ事項を総合的に分析した結果を記載しています。
- (2) 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方の意見、助言を記載しています。意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです

高木 展郎 氏（横浜国立大学教育人間科学部付属教育デザインセンター長）

久保田 貢 氏（元鎌倉女子大学非常勤講師 元鎌倉市立西鎌倉小学校長）

3 報告内容の構成

(1) 項目

点検・評価の対象を「逗子市学校教育総合プラン」の「三つの柱」をさらに次の五つに分けた項目ごとに点検・評価を行っています。

- ア 個に応じた指導の充実
- イ 健やかな心と身体の育成
- ウ 多様な教育的課題への対応
- エ 地域に開かれた学校づくり
- オ 教員研修・研究の充実

(2) 目標

項目及び行動プランごとの目標を掲げています。

(3) 各小・中学校の実施計画取り組み概要

各小・中学校ごとの行動プラン「平成23年度の取り組み目標」を「達成した」かどうか、「達成した」とした場合、その判断をした状況、「達成できなかった」とした場合、その目標への取り組み状況や明らかになった課題を、「評価と課題」としてまとめています。

(4) 教育委員会分析結果

各小・中学校の取り組みの進捗状況（項目別達成率）などを踏まえ、教育委員会が評価を行い、今後の課題や対応の方向をまとめています。

教育委員会の自己評価のうち評価は、市立全校の実践評価での項目別達成率が90%を超え、顕著な成果が見られるものをS、同じく実践評価での項目別達成率が80%を超え、多くの成果を挙げていると判断できるものをA、同じく実践評価での項目別達成率が70%を超え、一定の成果を挙げていると判断できるものをB、同じく実践評価での項目別達成率が60%を超えているものをC、同じく実践評価での項目別達成率が60%に満たないものをD、としています。

(5) 学識経験を有する者の意見、助言

外部からいただいた意見を掲載しています。

4 点検及び評価の結果

I 子どもたちの学力向上

<目 標>

学校が、子ども達の学力向上を果たすために、子どもの実態を踏まえた教育課程を編成し、個に応じた指導の充実をはかり、指導法・評価活動の工夫をすすめるとともに、基本的な生活習慣の育成を家庭とともに連携し、進めていきます。

1 個に応じた指導の充実

① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み

【 目 標 】

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養います。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①新学習指導要領の全面実施の中での課題の洗い出しと検討
- ②特定の教科に限定しての言語活動の充実に関する研究の推進
- ③前年度の検討に基づく授業実践

【評価と課題】

- ①達成した（新学習指導要領全面実施に向けて年度初めに全保護者に向けて説明会を持ち、学年懇談会でも説明した。特に「あゆみ」の改訂について重点的に取り組み、観点別評価への取り組みを始めた。）
- ②達成した（「道徳」に特化して授業研究等を進め、11月に湘南三浦教育事務所管内で公開授業を行った。また、2月に市教委主催の研究発表会において発表を行った。）
- ③達成した（担当を中心に研修会を行い、取り組んだ。）

沼間小学校【目標】

- ①新学習指導要領の全面実施
- ②全教科における言語活動の充実
- ③地域の特性を生かした授業の充実

【評価】

- ①達成した（移行措置に基づいた教育課程を実施した。）
- ②達成した（各教科での言語活動充実に向けて研修を深めた。）
- ③達成した（地域学習材活用に向けて研修を深めた。）

【課題】

言語活動の充実と目指す学力との関係について理解した上での授業づくりが必要である。

久木小学校【目標】

- ①新学習指導要領全面実施に対応した教育課程を編成する。
- ②小学校外国語活動の推進のため、実践研究を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（新学習指導要領に基づいた教育課程を編成した。）
- ②達成した（逗子市委託研究について外国語活動を中心とした研究を進め、研究発表会を開いて2年間の成果と課題を発表した。）

小坪小学校【目標】

- ①課題意識の明確な授業を目指し、言語活動の充実を図る。
- ②「聴く・話す」の段階指導の改善を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（年間指導計画を見直し、新学習指導要領で求められている言語活動の充実を意識して改善に努めた。）
- ②達成した（校内研究を継続し、聴いて考えつなげる研究授業を実施し、研究を進めることができた。）

池子小学校【目標】

- ①新学習指導要領の全面実施に伴い、言語活動の充実に向けた教育課程の見直しを図る。
- ②総合的な学習の時間の全体計画の改善に取り組む。

【評価】

- ①達成した（各教科・道徳・総合的な学習の時間等様々な学習の場面で言語活動の充実を意識した授業に取り組んだ。）
- ②達成した（総合的な学習の時間の全体計画を見直し、実態に即して改善を加え、共通理解を図った。）

【課題】

- ①全体で、各学年の指導計画を見合い、学年間のたてのつながりを意識する取り組みに着手したい。
- ②年度末に足跡カリキュラムを残すよう取り組んだが、まだ不十分であり今後の課題である。

逗子中学校【目標】

- ①新学習指導要領実施に伴う、指導計画・評価計画の準備をする。
- ②新学習指導要領の目標、及び内容に準拠した具体的な評価規準を作成する。

【評価と課題】

- ①達成した（新学習指導要領全面実施に備え、一年後を見越した今年度の指導・評価計画を手がけてきた。）
- ②達成できなかった（単元や題材ごとの、細部にわたる具体的な評価方法や基準設定は完成までには至らず、若干が新年度まで食い込む見通しである。）

久木中学校【目標】

- ①新学習指導要領にほぼそった内容で教育課程が編成されている。
- ②各教科等の年間指導計画が学習指導要領にそったものとなっている。
- ③言語活動の充実に向けた全教科単元計画の作成。

【評価と課題】

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none">①達成した②達成した③達成した | } { 指導計画・単元計画などが次年度の全面実施に際して、着実に実施できるようにする。 } |
| | |
| | |

沼間中学校【目標】

- ①週授業時数29時間を導入する。（試行）
- ②言語活動を取り入れた授業を実践する。
- ③体験活動を取り入れた授業を実践する。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（週29時間の全面実施を前に週程について考えることはできた。）
- ②達成した（研究授業を通して授業づくり・実践をすることができた。）
- ③達成した（宿泊行事、職場体験、ビーチコーミング等、体験を授業に取り入れた。）

② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実

【 目 標 】

学校が担う役割の一つは、子どもたちが他者との関わりの中で生きていく力、すなわち集団生活における社会性を身に付けることが挙げられます。その過程で、子どもたちは生きていくために必要な様々な力を習得していきます。しかし生活様式や価値観が多様化している現代において、画一的な一斉授業だけでは基礎学力を定着させることは難しい状況になってきています。

そこで本市では、学校の機能や教員の能力を最大限に活用し、子どもたち一人ひとりにあった学びに配慮し、指導の充実を図っていきます。具体的には教材や指導方法の工夫・改善に取り組み、発展的・補充的扱いを配慮した指導を行い、指導と評価の一体化を図ることで、学びの質の向上を目指します。

また、予習・復習を促し、子どもたちの学習習慣が確立するよう、家庭との連携を図ります。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①児童の学力の把握とそれに基づく傾向・課題の分析
- ②チームティーチングや少人数指導方法の工夫と改善
- ③オープンスペースの課題の整理と効果的な活用の検討
- ④長期休業期間中の学習支援の充実

【評価と課題】

- ①達成した（1年を除く各学年、国語・算数で学習状況の調査を行い、実態把握と分析を行った。）
- ②達成した（教員だけでなく学生ボランティアを活用し、教員の指示のもとで行った。また、巡回相談員や心の教室相談員とも連携を図り、個別指導なども実施した。）
- ③達成した（支援教室を活用したり、DEN を製作してオープンスペースの課題解決に向けて取り組んだ。）
*DEN：各階に置かれた子どもの為の隠れ家、基地のようなもの。
- ④達成した（1年生を除く各学年で取り組んだ。）

沼間小学校【目標】

- ①少人数指導、少人数学級の導入
- ②スキルタイムの有効活用で基礎学力定着

③発達段階に応じた学習の仕方の指導

【評価】

- ①達成した }
②達成した } (基礎基本の定着に向けた取り組みをした。)
③達成した }

【課題】

算数での少人数学習では、きめ細かな対応でどの子ども問題が解けるようには工夫されたが、集団での学び合いが弱くなってしまった。

久木小学校【目標】

- ①少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎基本の定着を図る。
②指導すべき内容等に応じた適切な教材の開発や繰り返し指導に努める。

【評価と課題】

- ①達成した(夏休みに学習支援期間を設定し、児童の学力向上に取り組んだ。また、スクールライフサポーター、ボランティアを活用し、基礎学力定着を図った。)
②達成した(継続的な課題であり、取り組み続ける。)

小坪小学校【目標】

- ①児童が課題を立てその課題に取り組み、定着が図れるように指導する。
②家庭学習においても家庭との連携を図り、個別の課題に沿った学習に取り組ませる

【評価と課題】

- ①達成した(各学年学級では、基礎学力の定着を意識した取り組みを進めていたので、落ち着いた学習環境で授業が展開できた。)
②達成した(学習内容については、個別の課題に沿った内容を個人面談や連絡帳等で家庭と連携をとり、学習の定着に向けて取り組んだ。)

池子小学校【目標】

- ①多様な学習形態による授業を計画し、互いに見合うことで、学習効果について検討する。
②ICTの活用場面に関する研修を校内でも行い、指導の充実を図る。

【評価と課題】

- ①達成した(2学年ずつのブロックで授業研究を進め、互いに見合う機会を設定し、多様な学習形態を工夫したり学習効果について検討したりした。)
②達成した(教材提示装置を活用した授業が増え、児童が学びあう場が工夫されるようになった。)

逗子中学校【目標】

- ①指導法の工夫改善を図り、基礎・基本や自ら学び考える力、言語活動の充実を深めていく。
- ②学習支援シート（個人学習カルテ）を作成し、教育相談等での支援体制の確立を図っていく。

【評価と課題】

- ①達成した（言語活動及び自己表現活動の充実については、教育課程全般を通して、その実現化を意識して取り組むことができた。）
 - ②達成した（各教科担任から出される、生徒個々への学習支援シートは、保護者との教育相談を進める上で、とても有効な存在となっている。）
- ・基礎・基本の充実を図るために、学習支援シートが重要な役割を果たしているが、三年前から取り組み始めている教科相談（各教科における学習方法の相談）の取り組みも含めて、個に応じた指導・助言を果たす役割を担っている。

久木中学校【目標】

- ①委託研究「授業のユニバーサル化」と連携し指導法の工夫改善を図る。
- ②少人数指導での習熟度別指導の充実と成果の明確化を進める。
- ③補習体制の充実＝長期休業中及び日常的な実施の工夫。

【評価と課題】

- ①達成した（研究を進める中で、視聴覚機器の利用などを始め充実した実践ができた。）
- ②達成した（クラス分け、担当の変更など柔軟な工夫を行った。）
- ③達成した（定期試験前や夏期休業中に補習を行った。多数の生徒が参加した。）

沼間中学校【目標】

- ①生徒一人ひとりの能力や学習状況に応じた補習や授業の有効性の検証に努め、さらなる工夫・改善を行う。
- ②生徒一人ひとりの学習状況の把握とそれに対応する授業を工夫する。
- ③個人学習カルテの改善を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（支援部が中心となり、夏季休業中のサマーチャレンジを10日間学校体制で実施することができた。）
- ②達成した（研究の5つの視点の中に「学習状況把握・課題分析」があり、それを盛り込んだ研究授業を行った。）
- ③達成した（カルテの項目や文言等を部内で話し合い、保護者・生徒が今後の学習に生かせるようにいくつか改善できた。）

③ 「読解力」向上の取り組みの推進

【目標】

学習活動を行っていく上で、テキスト（文章や資料）を読み解き、自分の意見を筋道を立てて述べることは大切です。このことは教科学習に限ったことではなく、社会生活を送っていく上でも、物事を考え、自分の考えを発信していく力が求められます。環境問題をはじめ様々な問題が山積している現代社会では、思考力や判断力を駆使して問題解決の方法を考え、それを自ら表現する力が不可欠になります。

これからの学習活動は、知識・技能を習得するとともに、知識・技能を活用することが求められます。一朝一夕に身に付く力ではありませんが、逗子市では、先に策定した『逗子市読解力向上プラン』をもとに、子どもたちの言葉の力の現状を把握し、必要な言語環境を整え、言語活動の充実を図ります。

各小中学校における平成23年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業実践
- ②発達段階に応じた読書活動の推進
- ③前年度の検討に基づく授業改善

【評価と課題】

- ①達成した（校内研究で取り組み、研究発表を行った。）
- ②達成できなかった（学校独自では課題図書を選定することはできなかった。）
- ③達成した（校内研究で取り組み、研究発表を行った。）

沼間小学校【目標】

- ①各教科で言語活動の充実を目指す。
- ②「自分の考えを表現できる」を指導目標
- ③「学び合い」を大切にした授業

【評価】

- ①達成した（校内研究で全職員が取り組んだ。）
- ②達成した（校内研究でサブテーマとして取り組んだ。）
- ③達成した（発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。）

【課題】

読解力の向上・定着に向け、取り組みの継続が必要である。

久木小学校【目標】

国語科・各教科・道徳・総合的な学習の時間を通して言語活動の充実を図る。

【評価と課題】

達成した（各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。教育研究所授業力向上研修会、校内授業づくり研修を通して取り組んだ。）

小坪小学校【目標】

「PISA型読解力」の育成を図る授業に取り組む。

【評価】

達成した（昨年度に引き続き、高木教授を講師として招き、職員全体でPISA型読解力についての授業を行い、理解を深めた。）

【課題】

- ・新しい学力観について、評価の考え方について検討することができた。今後は、授業づくりの充実を通し継続的に取り組んでいく。
- ・新しい学力観に基づき、従来の評価の考え方を変えていく必要がある。

池子小学校【目標】

- ①「読解力」の向上に関する年間計画および実践内容を学年ごとに集約する。
- ②学力調査などの客観的なデータを分析し、コミュニケーション能力育成の指導の改善を図る。

【評価】

- ①達成した（読解力の育成に向けた各学年の取り組みを集約することはできた。）
- ②達成できなかった（学力調査が実施されなかったことにより、データを分析して活用する機会がなかった。）

【課題】

「読解力」の向上に関する年間計画を毎年見直し、ねらいを達成するためにより充実した指導内容にしていく。

逗子中学校【目標】

- ①様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を作り、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ②各教科で、言語活動の充実を年間計画の中に取り込む。

【評価と課題】

- ①達成した（各教科および特別活動などを通じて、自らの言葉で意見表明したり書いたりすることには、こだわりを持って取り組むことができた。その発言や発表の聞き方や態度についても、評価シートなどを活用させ、具体的な効果が上がる方策がとれた。）

- ②達成した（各教科および各学年におき、年間を通じた計画的な実施が果たせていた。）

久木中学校【目標】

- ①久木中学校としての言語活動の充実を計画的に進める。
- ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。

【評価と課題】

- ①達成した
 - ②達成した
- }（各教科の年間指導計画に基づき、着実に実践した。）

沼間中学校【目標】

- ①各教科における「読解力」とはどのような能力か確実に周知する。各教科での実践計画を作成し、授業実践する。
- ②教科外での「読解力」育成が可能な内容を洗い出す。教科外での指導計画を作成し、実践する。

【評価と課題】

- ①達成した（校内研究会テーマとなっている言語活動と絡めて各教科ごとに授業実践することができたが、実践計画作成は次年度の課題である。）
- ②達成できなかった（次年度は教科外での指導計画も教科での実践計画と併せて作成し、実践していきたい。）

④ 読書活動の推進

【 目 標 】

子どもの活字離れが指摘されている今日ですが、本に接し読書に親しむことは、いろいろな考えに触れ、知識を蓄え、豊かな心を育むことの基盤となります。

学校においては、読書活動につながる教育内容・指導方法の工夫により、子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに、「朝の読書」「読み聞かせ」など読書の習慣づけを促進することが大切です。

また、学校生活をおくる子どもたちにとって、学校図書館は読書活動の重要な拠点と言えます。子どもの読書習慣の定着と読書意欲の向上のために、学校図書館を核として、市立図書館や地域の方々との連携を図り、子どもたちが活発に図書館を活用し読書に親しむことができるようネットワークの充実を図る必要があります。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①学校図書館の整備と充実
- ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの充実と活用の推進
- ③市立図書館の積極的な活用

【評価と課題】

- ①達成した（学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室は常に使いやすいように整理整頓されていた。）
- ②達成した（学校支援地域本部事業の中で整理をし、市民活動ポイントの対象とした。）
- ③達成した（市立図書館の活用が昨年よりも進んだ。）

沼間小学校【目標】

- ①読書活動の日常化
- ②読書環境の充実
- ③学習活動に読書活用を位置づける。

【評価】

- ①達成した（全職員が取り組んでいる。）
- ②達成した（読み聞かせや図書館ボランティアの活用等、地域支援も有効に機能している。）
- ③達成した（図書館指導員と連携した指導が展開された。）

【課題】

学習活動で有効な図書活用を工夫する。

久木小学校【目標】

- ①司書教諭・学校図書館指導員・学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する。
- ②お話会による読み聞かせ等の活動を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（前年度に引き続き年間計画に基づき実施した。）
- ②達成した（お話会（年間10回）を計画的に実施した。ボランティアとの連携を密にし、学校のニーズにあった内容にしていくことが課題である。）

小坪小学校【目標】

- ①朝読書の継続と、読書ノートの充実を図る。
- ②小坪選定図書の蔵書数を増やし、読書週間を設けて取り組みをする。
- ③家庭との連携を図り、日常的な家庭での読書習慣をつけさせる。

【評価】

- ①達成した（学校図書館指導員と協力し、どの学年も取り組み、読書活動が定着してきた。）
- ②達成した（市立図書館や地域の方々との連携を図ったり、子どもたちが活発に図書室を活用したりできるよう、期間や読みやすい場を提示することができた。）
- ③達成できなかった（図書室より図書だよりを出し、家庭へ情報提供をしたり、学級担任による読書の取り組みを進めたりすることにより、本を読む機会が増えてきた。）

池子小学校【目標】

- ①図書室の環境向上のため壁面の塗装を行うとともに、エアコンの設置を市に要望していく。
また、蔵書のデータをパソコンに入力し検索を容易にするため、校内でのデータベース化を目指す。

【評価】

- ①達成した（学校支援地域本部で図書室壁面の塗装を行うことができ、また市教委の事業でエアコンが設置されたことで環境面の改善が大きく進んだ。
書籍のデータベース化は、校内の蔵書のデータの一部をパソコンに入力している段階である。

逗子中学校【目標】

- ①学校図書館指導員と、各教科等との連携を推進していく。
- ②一人ひとりの読書量を増やすため、新たな読書実践を探求していく。

【評価と課題】

- ①達成した（司書教諭、図書館指導員が中心となり、委員会活動を通じて生徒の興味・関心となる意識を新聞にまとめた。それにもなって新刊を職員会議でも紹介していったりした。図書館運営については、図書ボランティアを募り、昼休みの開館・運営において、確かなる連携を果たしていた。総合的な学習の時間を中心に、調べ学習で図書館を利用した。）
- ②達成した（朝読書の工夫ということで、今年度は後期の取り組み後にアンケートをとり、読書の意義や効果についてふり返りをさせた。その中で、個々の実態を見つめることで読書活動の必要性和意義を追求していった。）

久木中学校【目標】

- ①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める。（ICT、市立図書館との連携）
- ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化する。（カウンター業務など。）
- ③朝の読書を推進する。（読み聞かせを進める。）

【評価と課題】

- ①部達成できなかった（学習情報センターとしての利用は十分に行った。しかし外部との連携については今後の課題である。）
- ②達成できなかった（学校支援ボランティアの活用はできなかった。）
- ③達成した（朝読書は着実に実施した。教職員による読み聞かせを計画的に行った。）

沼間中学校【目標】

- ①保護者や地域との連携をとりながら、図書委員会を中心とした読書活動を実施する。
- ②「学校版子どもの読書活動推進計画」を策定する。
- ③司書教諭・学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能を活性化する。

【評価と課題】

- ①達成した（年2回の読書週間の取り組みを通して、図書委員会が中心となって全校体制で読書活動を実施することができた。）
- ②達成できなかった（検討中の段階なので、今後も継続する。）
- ③達成した（学校支援ボランティアにご協力いただき毎日の開館を実現し、学校図書館の機能を活性化することができた。）

⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進

【 目 標 】

支援を必要としている子どもたちに対して、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学校を中心とした総合的な支援体制の構築が、今求められています。

それに応えるために、学校では校内組織の充実を図り、教育相談コーディネーターの活用を進めていくとともに、校内の支援体制の充実と外部の専門機関との連携を図る必要があります。

さらに、子どもたちの心の問題に迅速に対応できるよう、相談体制を充実させるとともに専門家や専門機関と連携し、協働することが大切です。

よりよい支援を行うために「支援シート」を活用し、子どもたちのライフステージを見通した指導の継続と様々な機関との連携による「縦」と「横」の支援が必要です。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①校内支援チームの取り組みの充実
- ②6年間の学びと育ちを踏まえた支援教育の検討と実践
- ③スクールカウンセラーなど外部専門機関との連携の充実

【評価】

- ①達成した（児童理解研修会を行うとともに、職員会議では支援の必要な児童についての情報交換を行った。また、校内支援委員会では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立てを検討し、実施した。）
- ②達成した（支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容について共通理解を図り、巡回相談員の手も借りて実践した。）
- ③達成した（心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスをいただいた。また、保護者の対応についても支援していただいた。）

沼間小学校【目標】

- ①校内支援体制を現状にあわせて構築する。
- ②支援ニーズの把握と指導の充実を目指す。
- ③児童理解に基づいたきめ細やかな支援の充実。

【評価】

- ①達成した（校内支援体制がようやく定着してきた。）

- ②達成した（児童の情報共有と役割分担が進んだ。）
- ③達成した（支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携が進んだ。）

【課題】

支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携をしっかりと進め、個に応じたきめ細かな取り組みをさらに工夫する必要がある。

久木小学校【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちのニーズに応じ具体的支援を行う。
- ②教育研究所・児童相談所・子育て支援課等の外部機関と連携を深める。
- ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする。

【評価と課題】

- ①達成した（課題を抱える児童についてケース会議等を開き、支援を行った。課題は、支援のための人材と時間の確保である。）
- ②達成した（各機関と連携を図り、支援に役立てることができた。継続的に取り組む。）
- ③達成した（児童に関する情報交換の場を設けて支援の参考にすることができた。）

小坪小学校【目標】

- ①教育相談コーディネーターの活用を中心として、校内支援体制の見直しと充実を図る。
- ②対外機関との円滑な連携をめざし、ネットワークを確立する。
- ③校内支援シートの充実

【評価】

- ①達成した（教育相談コーディネーターを中心とした小坪小学校の支援体制が確立できた。）
- ②達成した（教育相談コーディネーターを中心に、対外機関との連携を図り、支援を積極的に進めることができた。）
- ③達成した（校内支援体制が定着し、担任や保護者との連携も密になり、個々の児童の持つ課題について共有できるようになった。支援シートが完成し、支援シートの具体的な活用ができるようになった。）

【課題】

職員の構成に合わせて、毎年体制を見直し、柔軟に対応できるようにする。

池子小学校【目標】

- ①支援教育に関する研修の機会を増やし、児童理解を深め、情報の共有に努める。

②保護者・地域に対して校内支援体制についての情報を発信し、理解を深める。

【評価と課題】

①達成した（講師を招いての研修の機会を多く持ち、具体的な事例から児童理解を深めることができた。また、事例検討では、配慮が必要な児童の情報共有の場につながり、対応について共通理解を図ることができた。）

②達成した（学校説明会、地域教育協議会等の機会に教育相談コーディネーターを中心とした本校の支援教育のあり方について説明し理解を深めた。）

逗子中学校【目標】

①校内支援体制の運用を通じて、教育相談コーディネーター中心に個に応じた課題の共通理解を図り、解決に向けての手だてを工夫していく。

②ボランティアによる学習支援の推進を図っていく。

【評価】

①達成した（個に応じた指導計画につき、教育相談コーディネーターをはじめとする諸担当から、支援を要する生徒およびその具体的な指導が提示され、全教職員の協力で、チームティーチングや個別指導などの方策を講じていった。）

②達成できなかった（支援教育の充実は、現教職員の取り組みで運営していくのが精一杯であり、学習ボランティアを募る余裕がなかった。）

【課題】

多くの多種多様な生徒を抱えているために、外部者となる学習ボランティアを授業に入れることには、生徒の個人情報遵守の観点から考え、今後慎重に考えていきたい。

久木中学校【目標】

①生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究の成果に基づき支援教育を進める。

②生徒が安心して学べる学習集団を形成し、授業に意欲的に参加できる授業づくりを進める。

③学校支援地域本部との連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る。

【評価と課題】

①達成した（生徒の見立てや、情報の共有化を日常的に確実にを行い、支援教育を実践できた。特に地域講師による研修会などで、委託研究の目的の一つである教職員のパフォーマンス能力の向上が進められた。）

②達成した（委託研究の実践の中で着実に行った。）

③達成した（地域の方々から様々な支援を得て教育活動を進めることができた。）

沼間中学校【目標】

生徒・保護者・学校の共通理解のもとに、個別支援・共同学習を必要な生徒に行っていく。

【評価と課題】

達成した（支援ファイルを作成し、支援キャビネットに保管し職員の共通理解を図った。また、「気になる生徒一覧」を作成し、職員会議で情報を共有することができた。今後は支援教室をより有効に使えるよう努めていきたい。）

〈教育委員会分析結果〉

1 平成23年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な実施事業

- 少人数指導教員派遣事業（11人）
- 学校教育支援ボランティア(学校支援地域本部事業)(5,744人)
- 授業研究推進校委託
 - 逗子小学校⇒伝え合う心を育てよう
 - 沼間小学校⇒自分の考えを表現できる子をめざして
 - 久木小学校⇒協同的・創造的な学び合いを目指して
 - 小坪小学校⇒コミュニケーション力の向上を目指して
 - 池子小学校⇒生き生きと自主性のある子にするために
 - 逗子中学校⇒学ぶ意欲を引き出し、自ら学び考える力を育成する授業をめざして
 - 久木中学校⇒授業のユニバーサル化
 - 沼間中学校⇒自ら学び考え、行動できる力を育てる
- かながわ学びづくり推進地域研究委託事業（沼間中学校，沼間小学校）
- 学校図書館指導員派遣事業（8人）
- 日本語指導講師派遣事業(7人)
- 特別支援教育充実事業
(学習支援員50人、特別支援補助教員3人、ことばの教室補助指導員1名、巡回相談員1名)

(2) 主な指導内容

- ▲児童・生徒一人ひとりの課題に沿った学習指導のための教材や指導方法の工夫・改善
- ▲新学習指導要領全面実施にあたっての課題把握
- ▲中学校指導要録の改訂
- ▲学習評価の妥当性、信頼性の向上
- ▲「読書活動推進計画」の実施
- ▲教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制の確立
- ▲校内支援体制の構築に向けた各校の課題把握
- ▲教育相談コーディネーター、心の教室相談員、学校図書館指導員等への研修会の実施
- ▲支援教育推進校における支援教室の立ち上げ

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果

(1) 市立全校の実践評価 (項目別達成率 90%)

(2) 主な成果等

【基礎学力】

- ・中学校では年間を通して少人数指導を全ての学年において数学と英語で、小学校では一部の学年においてチームティーチング又は少人数指導を算数で実施した。中学校の少人数指導ではいずれも習熟度別グループで実施した。小学校では、単元や授業内容によってはT2がオープンスペース等で習熟度に応じて個別・グループ指導を行ったり、子どもたちに恣意性を感じさせないよう、担任が習熟度に配慮した編成で少人数指導を行ったりした。
- ・全ての小・中学校で夏季休業中に児童・生徒の実態に応じた補充的学習や発展的な内容を扱うサマースクールの取り組みを、学校体制として実施した。
- ・全ての中学校で、学習カルテ作成の取り組みが行われた。

【読書】

- ・地域住民や保護者のボランティアとの連携で、読み聞かせやお話会など、読書の習慣づけのきっかけになる活動を積極的に行った。
- ・学校図書館指導員は司書教諭と連携して、保護者のボランティアの協力も得ながら、学校図書館が子どもの学習環境として望ましい環境となるように整備や研修に努めた。

【支援教育】

- ・心理臨床の専門家を講師とした教育相談コーディネーター担当者会および学校訪問による研修を年間を通して行い、各学校の実態に合った支援のあり方を実践的に研修した。
- ・支援の必要な児童・生徒の把握と情報共有を教職員間で行うことができた。
- ・外部の専門機関との連携を深めることができた。
- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制を活用し、組織的取り組みをすすめた。
- ・外部ネットワークづくりと教育相談・ケース会議の充実を図った。
- ・小学校に支援教育推進のために巡回相談員を派遣した。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 新学習指導要領に対応した学力を育てる、個に対応した学習指導の充実を図ることができた

(2) 主な成果等

【基礎学力】

- ・平成 22 年度中に、全普通教室へのエアコン設置が完了したので、学習環境の改善が図られ、全ての学校において夏休み中の児童・生徒への学習支援が行われた。

【支援教育】

- ・特別支援教育充実事業において、校内支援体制の構築に向け、専門講師による年間 7 回の教育相談コーディネーター担当者会等及び各学校において学校の実態に合わせた研修を適宜実施した。
- ・幼・保・小連携推進会議における幼・保・小それぞれの授業・活動の参観、小学校・中学校教員による就学・進学前の児童観察、職員間での情報交換、指導主事による就学相談および教育研究所の教育相談などを通じて、小1 プロブレムや中1 ギャップ解消に向けて取り組んだ。

4 平成24年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 基礎学力

- ・平成 24 年度は、県の学習状況調査が小学校 4 教科、中学校 5 教科で実施されることになったので、それを受けて、平成 22・23 年度は休止していた逗子市学習状況調査を実施し、各学校におけるそれぞれ児童・生徒の学力把握のための一つの手段とし、個に応じたきめ細かい指導がより一層充実するように指導を行っていく。
- ・教職員の職務の合理化を図り、児童・生徒に直接向き合う時間を確保する。

(2) 読書

- ・小学校、中学校それぞれの実態に即して、読書活動の推進を行う。
→学校図書室蔵書貸し出し数の推移
(H23 年度 小学校 年間平均 30 冊／人、中学校 6 冊／人)
(H22 年度 小学校 年間平均 28 冊／人、中学校 7 冊／人)
(H21 年度 小学校 年間平均 26 冊／人、中学校 6 冊／人)

(3) 支援教育

- ・一人ひとりの教職員が共通理解を持ち、児童生徒・保護者に対し適切な対応を図るためにも、校内支援体制やフロー図が有機的に機能できるように、人的配置や研修が必要である。
- ・小・中学校 9 年間の支援教育が一貫性を持ち、小学校入学時および中学校卒業時における接続期の機関連携を含めて、児童生徒・保護者が安心して学校生活を過ごすことができるよう個に応じた支援や予防的な関わりを目指し、子育て支援課をはじめとする関係機関との連携を含めた環境調整を行い問題の未然防止を図る。
- ・全校での支援教室立ち上げに向けて、そのあり方を明らかにする。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈高木展郎 氏〉

平成 23 年度は、小学校では新学習指導要領が完全実施となり、中学校では移行期間最終となる年度でした。新学習指導要領に対応する教育課程を編成し、「生きる力」の知的側面である「確かな学力」の育成を図ることは、一朝一夕にできることではないと思います。しかしながら、「新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み」についての各学校の評価を見ると、ほとんどの学校が全ての目標を「達成した」としており、首をかしげざるを得ません。各学校は学校教育総合プランが目標としていることを的確に捉えた目標を設定していたのか、評価に当たって 1 年間の取り組み状況と成果を十分に吟味したのか、再考することを望みます。

「基礎学力定着のための個に応じた指導の充実」については、全体的に、基礎学力とは何かという捉え方が明示されていないように思います。学力についての学校の捉え方と保護者の捉え方には隔たりがあるのが実情です。その隔たりを埋めるための説明は丁寧に行うべきでしょう。また、昨年度も指摘したことですが、この項目の評価と課題が、まだ、少人数指導、チームティーチングに偏っていることを残念に思います。学校が育成すべき学力とは何かを踏まえた上で、一斉学習の中での個に応じた指導の在り方について研究を深めることを望みます。少人数指導、特に習熟度別の少人数指導については、先入観にとられず、ここ数年の国立教育政策研究所や OECD 等の客観的な調査結果から示される効果を理解した上で取り組んで下さい。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈久保田貢 氏〉

「新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み」について、小学校では全面実施1年目として、中学校では移行措置最終年として改訂の趣旨を踏まえて確実な取り組みがなされていることが伺えます。今回の改訂の基本姿勢は前回と変わらず、「生きる力」の更なる充実、とりわけ「確かな学力」の形成に重点が置かれており、その上で、新たに「言語活動の充実」や「〇〇的活動」が求められています。各学校共に、各教科等における言語活動場面の洗い出しや言語活動を位置付けた年間指導計画の作成に取り組んでおり、概ね新学習指導要領の趣旨を理解されているものと思われま。今後も、言語活動や〇〇的活動が強調された背景を押さえ、教育活動の充実に取り組むことを期待します。

「基礎学力定着のための個に応じた指導の充実」について、各学校共に習熟度別グループによる少人数指導、チームティーチングを主体に取り組み、一定の成果を上げているとのことですが、指導内容や学習効果、グループ分け等の面で課題も考えられます。改めて、指導方法や指導形態更には学習の個別化・個性化についても検討し、「一斉授業における個に応じた指導」のねらいについて追究して下さい。

「読解力」向上の取り組みの推進について、各学校共に、読書活動の一層の推進を図ると共に、資料や教科書以外の書物を活用した授業を展開するなど、「読解力」の向上に努めていることが伺えます。

「読解力」は、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力など「生きて働く学力」を育成する上での素地であり、そのためには、教師自身が「読解力」を身に付けることが重要かと思ひます。それによって、教材に対する多様な見方や考え方が生まれ、子どもの多様な考え方等に対応できるものと思ひます。パソコン、携帯、スマホ等の活用により、活字離れや書字能力・自己表現能力の低下などが指摘されて現在、活字を通して「読解力」を身に付けさせることは、これからの国際社会に生きていく上で極めて大切な資質と言ひます。今後とも、「読解力」と「言語活動」の関連を大切に、指導の充実を図って下さい。併せて、新聞等の活用にも力を入れて戴きたいと思ひます。

「校内支援体制の構築による支援教育の推進」について、各学校共に、教育相談コーディネーターの助言の下、子どもが安心して学べるよう、学級集団づくりに努めたり、教育相談体制の充実を図ったり、個別支援プログラムを作成したり、地域の教育力を活用した学習支援に取り組んだり、子ども一人ひとりに寄り添う支援体制づくりに努めてきたことが伺ひます。今後は、これまでの成果を踏まえ、臨床心理士以外の専門家の助言も取り入れた支援体制づくりを期待します。

2 健やかな心と身体の育成

① 基本的な生活習慣の育成

【 目 標 】

子どもたちの心身の健康問題は、深刻かつ多様化してきており、気力や学習意欲の低下など学校生活全般への影響が指摘されています。

基本的な生活習慣を確立し、子どもたちが活力ある生活を送るためには健康3原則（食事・運動・休養及び睡眠）を意識しながら、自らの生活課題を改善させるとともに、学校・家庭・地域が連携した取り組みを進めることが大切です。

学校では、子どもたちが規則正しい生活習慣を身に付けるように学校全体で協力して子どもに関わることが求められています。

「食事をしっかり食べる」「外遊びを推進する」「睡眠時間を十分とる」をはじめ、「挨拶をする」「ルールや時間を守る」など、子どもたちの暮らしに関心を向けた取り組みを進めます。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①あいさつ運動の推進
- ②基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく。
- ③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める。

【評価と課題】

- ①達成した（児童会中心に取り組みを進めた。学校評価アンケートでも保護者の思いを聞いた。）
- ②達成できなかった（日頃から児童には指導をしているものの、保護者向けに基本的な生活習慣育成のための情報発信をPTAと連携をとりながら積極的にすることはできなかった。）
- ③達成した（各クラスでできていた。）

沼間小学校【目標】

- ①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める。
- ②学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。

③小・中間における必要な情報の共有と連携を進める。

【評価】

- ①達成した（挨拶や話の聞き方について全職員の一致した取り組みができ、落ち着いた学習環境が保たれた。）
- ②達成した（保護者向け各種たよりやパンフレットで保護者への啓発を進めた。）
- ③達成した（小・中連携が深まり、ねらいをもって取り組みを進めたことで、互いの理解が深まってきた。）

【課題】

保護者との連携、小・中連携がキーポイントであることを確認してさらに取り組みを進める。

久木小学校【目標】

- ①学級指導の中で基礎的な生活習慣習得の指導を行う。
- ②学校・保健たより等を通して情報を発信する。
- ③学級懇談・個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める。

【評価と課題】

- | | | |
|-------------------------|---|-------------------------------------|
| ①達成した
②達成した
③達成した | } | 〔 日常的な取り組みを継続することが重要である。継続して取り組む。 〕 |
|-------------------------|---|-------------------------------------|

小坪小学校【目標】

- ①行動目標達成に向けた、家庭での取り組みをめざす。
- ②保護者、地域との双方向の取り組みをめざす。
- ③講演会等を開催し、発達段階に応じた家庭での取り組みを促す。

【評価】

- ①達成した（学校目標やめざす子ども像などを学校便りや懇談会等で積極的に伝えてきた。その結果について、保護者によく周知されている事が学校評価アンケート結果から読み取れた。）
- ②達成した（保護者・地域に向けて学校便りやホームページ、掲示板等で積極的に情報発信を進めることができた。）
- ③達成した（今年度のめざす子ども像について各家庭に学校便り、学年便り等で伝えてきた。講演会では、発達段階に応じた家庭での育て方について話し合い、情報交換を得る機会を持つことができた。）

池子小学校【目標】

- ①あいさつ運動を継続して行うなど、基本的な生活習慣の充実を図る。
- ②幼稚園・保育園との情報交換を密にしていく。

【評価と課題】

- ①達成した（学校評価アンケートの中でも、児童のあいさつについては評価されている。昨今の社会状況を考えると、今後は、校内での来校者へのあいさつを徹底するように指導を徹底していきたい。）
- ②達成した（新入学児童の観察と情報交換のため、今年度からは、教頭に代わり、教育相談コーディネーター、養護教諭、1年担任が幼稚園訪問を行うようになり、より具体的な情報交換ができるようになった。）

逗子中学校【目標】

- ①小学校との連携において、基本的な生活習慣の育成を果たしていく。
- ②学校だより・保健室だより等で、積極的に学校から家庭に向けて情報発信をしていく。

【評価】

- ①達成した（小学校との連携の柱は、授業参観したり直接授業を行ったりすることで、生徒個々の実態を把握することができた。それは教育相談コーディネーターや、スクールカウンセラーの訪問参観や英語の出前授業が主な事業であった。
基本的な生活習慣の確立を目指すために、小学生時代からの基盤づくりを見直し、中学生時代へ発展したものへとつなげていけるよう、一つひとつの事業が活かされた。）
- ②達成した（学級（各担任の実態は様々である）・学年・学校・保健室だよりは定期的に発行されていて、十分な役割を果たしている。特に学校だよりの内容については、各学年の活動が伝えられるよう計画・実行することができた。各家庭への情報提供の深化を図るためにプリント配付時には、その補助的な役割として、下半期はメール配信を多く利用してきた。）

久木中学校【目標】

- ①生徒指導マニュアルに基づき、全教職員の共通理解、保護者との連携のもと生徒指導を進める。
- ②学校からの積極的な情報発信により、保護者・地域との情報の共有化、課題の明確化により、家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める。

【評価と課題】

- ①ほぼ達成した（マニュアルが明文化できていないが、あらゆる連携のもとに生徒指導を行った。）
- ②達成した（地域教育協議会や青少年育成会などを通じて、地域と密接な連携が進められた。）

沼間中学校【目標】

- ①生徒による学級、学年の達成目標として位置づけ、自ら検証させるよう継

続指導していく。

②学校だより等を利用し、生徒の意識向上と家庭・地域の協力を促す。

【評価と課題】

①達成した（「学校生活のきまりプリント」を作成し、生徒に配布し、基本的な学校における生活習慣を徹底できるように努めた。）

②達成した（学校生活の様子、朝会等での校長・教頭の話が学校便りに載せ、家庭・地域に情報を提供することによって、協力を促した。）

② 豊かな心を育む道徳教育の推進

【 目 標 】

小・中学生のいじめや自殺等の問題が、大きく伝えられている現在、学校だけにとどまらず、社会や家庭生活において、人を思いやったり、相手の立場に立って考えたり、目上の人を敬い自分より小さい子を大切にすることを育てるとともに、規範意識や忍耐力や協調性などの社会性を身につけさせることは大切です。

学校では道徳教育の重要性を教職員間で共通理解し、教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度等の道徳性を養うように努めることが重要です。特に、道徳教育の要となる道徳の時間においては、他の学習活動と連携を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳の実践力を育成するように取り組みを進めます。

「いのち」を大切にすることを、他人を思いやる心、規範意識など児童生徒一人ひとりの豊かな心を育むために、学校・家庭・地域と連携を図りながら、様々な体験を通して心に響く教育を進めていくこと今まで以上に大切になってきています。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①各教科や総合的な学習の時間、特別活動などと内容の関連を図る
- ②児童会活動の活性化と充実を図る。
- ③異年齢集団の交流を推進する。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（各担任レベルでの取り組みで行っていることが多く、学年として学校として進めていく必要がある。また、外国語活動が入って来た分、総合的な学習の取り組みについて、今年度を振り返って組み直す必要がある。）
- ②達成した（児童会担当教員がよく児童を指導し、新しい縦割り集団や東日本大震災の募金活動などにも取り組むことができた。）
- ③達成した（今後、縦割り集団活動の内容を一層充実させていく必要がある。）

沼間小学校【目標】

- ①各教科、総合、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める。
- ②学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動を推進する。
- ③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める。

【評価】

- | | | |
|-------|---|---|
| ①達成した | } | 授業研究の日常化を目指す取り組みが進み、学年ごとに意識的に授業づくりが進められた。 |
| ②達成した | | |
| ③達成した | | |

【課題】

あいさつ運動等、日常的な取り組みを継続し、全教育活動の中で進める。

久木小学校【目標】

- ①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う。
- ②あいさつ運動等、コミュニケーションを深める取り組みを行う。

【評価と課題】

- ①達成した（道徳教育全体計画に基づき実践を行った。）
- ②達成した（昨年度より継続的に取り組みを行っている。）

小坪小学校【目標】

- ①道徳全体計画を見直しながら、指導の充実をめざす。
- ②体験的な学習や校外学習の中で、計画的に取り組む。

【評価と課題】

- ①達成した（道徳教育の日常化を目指し、学年ごとに発達段階に応じた取り組みを進めた。）
- ②達成した（縦割り行事の年間計画を立て、学校行事や児童会活動を通して、発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫している。）

池子小学校【目標】

- ①道徳の全体計画を見直し、その要としての道徳の授業の充実を図る。
- ②学校支援地域本部と連携し、地域の人材・環境を生かした道徳の授業実践を展開する。

【評価と課題】

- ①達成した（年間指導計画の中で、各教科と道徳との関連が示されるように担当が働きかけ、道徳の授業だけでなく、様々な学習場面の中で、道徳的価値を見直すように努めた。）
- ②達成できなかった（学校支援地域本部との連携は進んだが、道徳だけでなく学習面での新たな人材の掘り起こしまでは至らなかった。今後は様々な地域の人材・教材の掘り起こし、支援を求めていきたい。）

逗子中学校【目標】

- ①全校道徳等、道徳の時間の充実を図っていく。

②学校支援地域本部の協力による、地域人材活用の授業を発展させていく。

【評価と課題】

①達成した（全校道徳の存在と意義は学校の特色として定着し、効果も上がっている。）

②達成できなかった（地域教育力の活用については、その人材発掘をデータベース化することが、最優先として取り組んでいくべきものと思っている。担当者への指導・助言を深めていくことにする。）

久木中学校【目標】

①道徳教育の全体計画の整備、実践・活用しやすい道徳の時間の年間指導計画の作成・見直しを行う。

②体験活動を中心として道徳的心情、判断力、実践力を育てる。また地域講師の活用を進める。

【評価と課題】

①達成した（実践・活用しやすい年間指導計画の見直しを行った。）

②ほぼ達成した（様々な体験活動を通じて、指導を進めたが、さらに地域講師の活用を進める必要がある。）

沼間中学校【目標】

①道徳推進担当教諭がリーダーシップを取り、豊かな心を育む道徳教育を全教科・領域において実践する。

②学校支援地域本部の協力による地域人材活用の授業がカリキュラムに位置づけられる。

【評価と課題】

①達成した（学年のその時の状況に合わせて、年間指導計画をもとに、臨機応変に教材設定ができた。次年度に向けて使用教材の共有をするための準備を行なった。）

②達成できなかった（なかなか実施できなかったため、次年度は、年間計画に明記する必要がある。）

③ 豊かな体験活動の推進

【 目 標 】

少子化や地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、子どもたちの豊かな成長に欠かすことのできない多くの人々との出会いや社会・自然・芸術などと直接触れ合う様々な体験が乏しくなっています。様々な体験活動を通して、人や社会等とのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、信頼感を高めるようにすることが大切です。

体験活動は文字どおり、自分の身体・五感を通して実際に経験する活動のことです。子どもたちが、学校・家庭・地域社会を含めた生活空間の中で、他者、社会、自然、環境と直接的なかかわりを持ち、豊かな体験をすることが必要です。そして子どもたちが自分自身の体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいけるように、体験活動を計画的に位置付け、その充実を図ることが大切です。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める。
- ②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する。
- ③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める。

【評価と課題】

- ①達成した（文化庁の体験事業や市のアウトリーチ事業などに応募し芸術体験事業を行った。さらに学年独自で邦楽鑑賞なども行った。）
- ②達成した（職員室前の廊下を「逗子小美術館」として、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。また、地域の方々の作品展示や震災関係の展示コーナーも作った。）
- ③達成した（高学年で行った宿泊行事は成果を上げた。）

沼間小学校【目標】

- ①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める。
- ②地域の行事を大切に、社会奉仕活動に自ら参加して社会性を育むよう促す。
- ③校内において芸術鑑賞会を開催する。

【評価】

- ①達成した（行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。）
- ②達成した（子どもたちの中に気持ちは育って来ている。）
- ③達成した（芸術鑑賞会の継続開催や図工作品展示で互いの作品のよさを味わう工夫等により、学校環境を有効に使うことで豊かな体験活動が展開され、

子どもたちの日常が充実してきた。)

【課題】

豊かな体験活動を推進するために、学年間の教育課程を見直しながら、系統性ある取り組みを進めている。また、奉仕活動等は家庭の教育力が大きく影響することから、地域・家庭との連携をさらに深めていきたい。

久木小学校【目標】

- ①稲づくり・大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う。
- ②キャンプ・修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（学習支援ボランティアを活用し体験学習に取り組んだ。学習の発展として豆腐作り・味噌作り等の活動をすることができた。）
- ②達成した（年間計画通り実施した。）

小坪小学校【目標】

- ①小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る。
- ②様々な体験活動を通して、問題解決的な学習を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（小坪小の行事や体験学習等を活用して全学年で地域とのふれあい活動を展開した。）
- ②達成した（体験活動を年間計画に位置づけ、各学年で取り組んだ。）

池子小学校【目標】

- ①学校支援地域本部と連携し、地域教育力を活用した体験活動の充実を図る。
- ②授業時数を確保する中で、集団宿泊活動の内容を精選し、指導計画の改善に取り組む。

【評価と課題】

- ①達成した（学校支援地域本部が1年生の学習にズシップ（老人会）が協力し、昔遊びや紙飛行機飛ばしなど、体験が充実した。）
- ②達成した（キャンプ・修学旅行の実施場所を、実地踏査するなどして検討し内容の充実と安全確保を図り、体験活動の充実をめざした。）

逗子中学校【目標】

- ①逗子の豊かで恵まれた自然にふれるとともに、自然のすばらしさや大切さを学ぶ、自然体験学習を推進していく。
- ②発達段階に応じた勤労体験（職業体験）に取り組み、働くことや学ぶことの意義について地域の方から学習をしていく。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（学校の立地条件や環境から考えて、自然の恵みについ

ては十分に意識できている。それだけに改めてという場面を設定するところまで、指導者が必要に迫られるイメージが持てていない感がある。その分、二年生の自然体験学習には、課題解決型の工夫のある取り組みがなされている。）

- ②達成した（各学年におけるキャリア教育が進められている中で、実体験となると二年生の職業体験学習だが、年々保護者・地域の協力により、生徒の主体的な見地から、幅広い選択が成されるようになってきた。）

久木中学校【目標】

- ①行事、生徒会活動等の特別活動、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める。
- ②地域との連携による体験的な学習を積極的に進める、また各団体の行事等に積極的に参加する。

【評価と課題】

- ①達成した（職業体験など、地域との連携による体験学習を進めた。）
- ②達成した（計画通りに進めることができた。）

沼間中学校【目標】

様々な活動を通して、課題をみつけ、解決が自らの学習において図れるような企画・立案をしていき、学習を進める。

【評価と課題】

達成した（3年生修学旅行・2年生自然体験学習・1年生横浜めぐりなど、生徒組織を中心に自らの学習を進めることができた。）

④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進

【 目 標 】

社会状況の変化に伴い、子どもたちの健康を取り巻く問題が顕在化しています。基本的な生活習慣の問題・心の健康の問題・食習慣の問題・飲酒や喫煙、薬物乱用などの問題・性に関する情報の氾濫・運動能力の低下など様々な健康に関する課題に対して、家庭や地域と連携した教育を推進することが必要です。

近年、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向などが見られ、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においても積極的に食育に取り組んでいくことが必要となっています。

学校においては、これらの課題に対する指導の充実を図り、子どもたちが実践力を身に付けられるように、体力づくりとともに、心身の健康に十分配慮した健康教育を進めます。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①ほげんだより等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病予防に努める
- ②健康教育の全体計画に従い体力向上の取り組みを進めていく。
- ③食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく。

【評価と課題】

- ①達成した（養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。）
- ②達成した（運動能力の測定等を行い、実態を把握することができた。）
- ③達成できなかった（食育の啓発については、PTA 厚生委員会と連携をとって意識付けをすることができたが、食育を推進するところまではいかなかった。）

沼間小学校【目標】

- ①健康教育を学校全体で推進する。
- ②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する。
- ③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する。

【評価】

- ①達成した（体育や休み時間等での外遊びで健康づくりが展開された。）
- ②達成した（全学年で食の指導計画が示され、発達段階に応じた学習が実施されている。）
- ③達成した（各学年に応じて薬物乱用防止教育や安全教育を実施した。）

【課題】

健康教育や食育を意識して取り組もうという機運は高まってきているので、各学年とも教育課程を意識し、家庭とも連携して取り組みをさらに進めていきたい。

久木小学校【目標】

- ①保健安全年間計画・給食指導年間計画等に基づいた指導を進める。
- ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（年間計画に従って取り組んだ。）
- ②達成した（校庭全面芝生化により、校庭で遊ぶ子どもの数が倍増し、体力の向上に効果があった。暑い時期の地表温度も芝生化により低くなり、健康面においても成果があった。引き続き維持管理が課題である。）

小坪小学校【目標】

- ①食育の年間計画の改善を通していっそうの充実をめざす。
- ②発達段階や児童の実態に応じた性教育の年間計画の改善を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（食の指導の年間計画を作成し、各学年とも計画に即した取り組みを進めてきている。）
- ②達成した（全学年で性教育の指導計画を示すことができ、各学年とも発達段階に応じた取り組みを進めた。）

池子小学校【目標】

- ①食育の年間計画を見直し実践する力を育成する。
- ②健康的な生活に関心を持たせるような取り組みをし、家庭と共に推進する。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（前年度の継続として、様々な教科の中で食育への取り組みは見られたが、年間計画の見直しには至らなかった。年間反省の中でも教育課題に対する取り組みについて検討しているので、今後の課題としていきたい。）
- ②達成した（給食だより、ほけんだより、廊下の掲示物等を通して、児童の食に対する関心を深める働きかけはできた。食の安全に対する意識が社会的に高まる中、今後食育の重要性は増すと考えられるので、さらなる取り組みを検討していきたい。）

逗子中学校【目標】

- ①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践し、充実を図っていく。
- ②PTAとの連携による、食育の体系化を推進していく。

【評価】

- ①達成できなかった（学年ごとに健康教育として位置づけられていたが、今年度においては未消化（三年生の性感染症予防のみ実施）の学年があった。熱中症対策として、水分補給のすすめの取り組みが定着してきたのは大きな成果の一つととらえている。）
- ②達成できなかった（教育課程の中で、重点項目の一つにされているにもかかわらず、なかなか具体的な取り組みが滞っているのが実態である。家庭科の授業として一・二年生を対象に、管理栄養士を招いて一時間の食育の授業を行い、生徒たちの興味・関心を促してきた。この実績を起爆剤にして、PTA と連携した活動につなげていけるように次のステップとして考えていく。）

久木中学校【目標】

- ①食育全体計画に基づき、具体的な指導内容についての検討を行い、効果的な指導を行う。また外部団体との連携を進める。
- ②健康教育について、学習すべき内容、教科での取り組み、総合的学習の時間の活用など、全体的な見直しをする。

【評価と課題】

- ①達成した（外部団体との連携を進められた。）
- ②達成した（各学年で計画的に実施できた。）

沼間中学校【目標】

- ①心身の健康と食事の関係を理解させる。
- ②新体力テストの結果を活用しながら、自己の体力を伸ばす意識を持てるようにする。

【評価と課題】

- ①達成した（技術・家庭科、保健体育の授業内で扱い、理解を促すことができた。）
- ②達成した（保健体育の授業内で扱い、意識付けができた。）

〈教育委員会分析結果〉

1 平成23年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 就学時健康診断業務委託
- 児童健康管理事業（小学校）
- 生徒健康管理事業（中学校）
- 自然教室推進事業
- 学校支援地域本部事業（学校支援ボランティア 5,744人）
- 授業研究を柱とした特色ある学校づくり
- 芸術鑑賞推進事業
- 学校体育振興事業

(2) 主な指導内容

- ▲道徳教育全体計画作成
- ▲特別活動全体計画作成
- ▲食育に関する教育全体計画作成
- ▲健康教育に係る各種研修会の実施
- ▲学校支援地域本部実行委員会の開催

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 82%）

(2) 主な成果等

【基本的な生活習慣】

- ・家庭や地域との連携に向けての情報発信を積極的に行ったことにより一定の成果が見られた。今後とも、生活習慣改善のための努力を続ける必要がある。
- ・小・中が連携しての取り組みが増えてきている。

【豊かな心を育む】

- ・あいさつ運動が児童・生徒に定着している。
- ・学校が担うべきことを明確にした上での取り組みが進められ、家庭や地域との連携を深めようとしている。
- ・異学年集団とのふれあい活動等、集団として及び集団の一員としての行動の在り方を育てる取り組みが活性化してきている。

【豊かな体験活動】

- ・小学校・中学校全校で友だち同士の共同生活を通して自然にふれあうことをねらいとした自然体験学習を実施した（1泊5校、2泊3校）。

【健康教育】

- ・喫煙防止、薬物乱用防止等について、関係機関と連携しての取り組みが定着している。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

（1）教育委員会の自己評価〔B〕

コメント 学校支援地域本部を軸にして家庭・地域との連携を一層強化し、関係諸機関と連携した取り組みも広がり定着が見られる。今後も多様化する社会の中で生じてくる新たな課題に常に対応できるよう、取り組みを継続する必要がある。

（2）主な成果等

【基本的な生活習慣】

- ・平成21年度に悉皆で実施した「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果分析から分かった本市の児童・生徒の生活習慣に係る特徴を踏まえての取り組みを進める必要がある。
- ・家庭や地域への啓発と連携、及び小中学校の連携により、9年間を見通しての習慣づけを進める必要がある。

【豊かな体験活動】

- ・学年ごとに行われる体験学習のねらい、時期や期間の見直しを図り、特別活動全体計画の中でのそれぞれの活動の位置付けを確認して再構築する必要がある。

4 平成24年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

豊かな心・体験活動・健康教育

- ・道徳の時間、体験活動及び健康教育において、これまで以上に地域の人材を活用するよう支援していくため、学校支援地域本部事業の活性化を図る。
- ・「総合的な学習の時間」における体験活動の在り方を探る。
- ・児童・生徒の社会性育成につながる異年齢交流を進める。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

この項目については、全般的にどの学校も十分に取り組んでいることが伺えます。今後も取り組みの一つひとつについて、学校が主になって担うべきことなのか、家庭が主になって担うべきことなのかを明確にして、保護者や地域との連携の下に継続して行って下さい。

「豊かな心を育む道德教育の推進」では、東日本大震災を受けての取り組みや、学校支援地域本部と連携しての取り組みが目を引きました。繰り返し述べていることですが、道德教育は学校教育のみで担えないものです。その時々学校が置かれている社会状況や地域の実態を踏まえて、家庭、地域、社会との連携の中で推進するという意識を持ち続けて下さい。

「豊かな体験活動の推進」については、自ら学び自ら考える力、豊かな人間性などの「生きる力」を育成していく上での体験活動の充実という視点で取り組むことが必要です。新学習指導要領では小・中学校共に「総合的な学習の時間」の標準授業時数は減りましたが、その期待されている役割の重要性には変わりはなく、従前と同様に体験活動を行うことを重視し、積極的に学習活動に取り入れることとしています。各学校における評価と課題を見ると、特別活動における体験活動が主になっている印象を受けます。体験活動がそれだけで終わるのではなく、体験活動を行うことによって児童・生徒の学習が一層充実したものとなることを期待します。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

子どもたちの学ぶ意欲や学習習慣や規範意識の低下、社会性やコミュニケーション能力の不足等が指摘されている今日、基本的な生活習慣の育成や心の教育はますます必要であり、学校の果たす役割は極めて重要と言えます。各学校共により具体的な目標を掲げ、全教育活動を通して様々な取り組みを展開し、一定の成果を上げていることが伺えます。今後とも、学校・家庭・地域社会が連携し、それぞれの役割を認識し、意図的・計画的・継続的に実施して戴きたいと思います。

健康教育については、各学校とも食育を始め、安全教育、喫煙防止教育、薬物防止教育、性教育、体力づくり等に重点をおき、学年の発達段階に応じて力点を定めた取り組みがなされていることが伺えます。目標の中には中・長期的なものもあり、幼・保・小・中学校を通して系統的・継続的に指導することも大切かと思えます。特に、食育については、心身の健康づくりの視点から、全教育活動を通じて、家庭を巻き込んだ指導の充実を図ることを期待します。

道徳教育については、学校によって多少の差異はあるものの、昨年度よりもさらに充実した取り組みがなされていることが伺えます。今後とも、道徳教育全体計画の見直し・改訂・整備、道徳の時間の教材・資料の整備と活用、道徳の時間の確保、地域の教育力を活用した道徳の時間の展開にも配慮し、全教育活動を通してより充実した道徳教育の推進に当たることを期待します。

体験活動については、各学校とも全教育活動で取り組まれておりますが、特に、特別活動や総合的な学習の時間での取り組みが主になっている感じがします。体験活動は、子ども達の「生きる力」を育む上で重要な要素です。体験活動を通して子どもに何を育てたいのか、何を身につけさせたいのか、あるいは、子ども達に何が育ったか、体験活動から得たものをどう生かすかなどといったことを明確にして、教育活動を展開することが大切かと思えます。体験活動に終始するだけでは、真の教育活動とは言えません。このことをしっかり認識し、「生きる力」を育む教育活動を展開することに努めてください。

今、小・中学生のいじめや自殺等が問題視されています。「いのち」を大切にす
る心、相手を思いやる心や規範意識等社会性の育成は急務です。家庭や地域の教育力が低下している現在、学校の役割がますます求められていますが限界もあります。学校、家庭、地域社会の果たすべき役割を明確にし、連携・交流を図りながら、全教育活動を通じて心身共に豊かな児童・生徒の育成に努めることを期待
します。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

<目 標>

学校は今、様々な教育課題への対応を求められており、本市では迅速で的確な対応を目指します。また、教育は学校のみで完結するものではなく登下校の安全面なども含め、家庭・地域との連携や協働参画することによってさらに充実が図られます。

1 多様な教育的課題への対応

① 子どもの安全と安心の確保の推進～防災教育の推進～

【 目 標 】

現在必要とされている教育環境として、子どもたちが安全・安心な質の高い空間で学び、生活できるということが求められています。

防災・防犯・不審者対応など、自らが安全意識を持つことや、学校や通学路等においても子どもたちが安全に過ごせるよう、学校と地域のボランティアや関係機関との連携により、地域ぐるみで子どもたちの環境を整備する必要があります。

子どもたちの安全・安心を確保し、質の高い教育環境を整備できるよう、放課後や週末に子どもたちが体験・交流活動をするための場づくりを進められるように取り組みを進めます。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携を図り、地域にも働きかける。
- ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る。
- ③総合的な防災計画に基づいて避難訓練等を実施する。

【評価】

- ①達成した
 - ②達成した
 - ③達成した（保健安全給食部を中心に作成した。）
- PTA校外委員と連携し、危険箇所の点検をし、改善要望を市等へあげた。また、シンパロードの通行問題についても、他校や地域と連携し進めることができた。

【課題】

津波警報が出た場合の学校としての避難場所等の検討と避難訓練を早急に進める必要がある。

沼間小学校【目標】

- ①学校防災計画に基づいた安全体制の整備
- ②教職員、保護者による通学路の点検
- ③自転車教室等安全への啓発活動の実施

【評価】

- ①達成した（組織的に計画を進めることができた。）
- ②達成した（東日本大震災後、具体場面を想定した見直しが進んだ。）
- ③達成した（3年生で自転車教室を実施した。夏休み前等時期を選びながら全校児童向けに自転車での事故防止について指導を実施した。）

【課題】

学校防災計画を見直し、PTAとも連携した子どもたちへのセーフティネットづくりを進めていきたい。

久木小学校【目標】

- ①防犯教室・不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める。
- ②PTA・地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む。
- ③地域と連携した防災計画を検討する。

【評価と課題】

- ①達成した（年間計画通り訓練等を実施した。継続的指導により防犯意識を高める。）
- ②達成した（地域と連携した取り組みは継続している。）
- ③達成できなかった（東日本大震災後、防災体制の見直しを行い、津波時の緊急避難場所を近くの聖和学院第二グラウンドとし、訓練も実施した。学校防災体制の充実と地域連携が課題である。）

小坪小学校【目標】

- ①児童自らの安全意識を高めるために、防犯、防災両面の取り組みを充実させる。
- ②大地震、大津波対応の避難方法の確認と避難経路整備を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（防犯教育については、専門家を呼び、児童・教職員・保護者へ不審者対応訓練を行うことができた。また、サマースクールにおいても地域の方々を対象として不審者対応訓練を実施した。）
- ②達成した（大地震、大津波等の緊急時避難経路の整備を行い、大津波対応の避難方法の確認を行った。）

池子小学校【目標】

- ①保護者・地域に日常的な協力を依頼し、地域と連携した防犯に取り組む。

- ②生活科や道徳の授業・学級活動等を通して、子どもたちの安全に対する意識の向上を図る。
- ③安心安全教室を実施し低学年の不審者対応訓練を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（学校だよりや各種の会合の場で、防犯に対する協力を呼びかけ、地域で子供を見守る意識の醸成を図った。）
- ②達成した（生活科の単元で安全な登下校を取り上げ、通学路の安全を守ってくれる地域の協力を気づかせたり、自分の身を自分で守ることの大切さを学んだりという機会を設定した。）
- ③達成した（1年生に職員室に危険を知らせ、避難する訓練を行い、他学年では各教室で机を積み上げ不審者の侵入を防ぐ訓練を実施するなど不審者対応に対する意識の向上を図った。）

逗子中学校【目標】

- ①不審者対策・防災の強化の推進と、有事に対応した訓練を実施していく。
- ②地域連携による、防災訓練を実施していく。

【評価と課題】

- ①達成した（一年生には学校生活の初期に、例年の取り組みを計画・実施することができ、情報モラルを身につけさせることができた。避難訓練を含めた防災対策については、担当分掌を中心に、これからも有事を想定した取り組みが実施できるようにしていく。生徒たちの訓練に臨む姿勢もよく、地震・火災・津波などに対して、自ら命を守る大切さと必要性を身につけた。）
- ②達成した（池子地区避難所運営訓練には、今年は部活動単位で参加を果たすことができた。）

久木中学校【目標】

- ①安全管理マニュアルを改善し、教職員の共通理解のもと、安全・安心な教育活動を進める。
- ②新しい学校防災計画に基づく防災体制を確立する。
- ③校内の避難訓練を計画的に行うとともに、地域の避難所訓練との協働を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（防犯・防災に関する教職員の対応に関し共通理解を進めた。）
- ②達成した（特に大震災、津波の想定部分を改善した。）
- ③達成した（避難訓練の内容を見直し、地域の避難所訓練に積極的に協力した。）

沼間中学校【目標】

- ①毎月の安全点検に生徒の意見も取り入れる等、より効果的な方法を検討する。
- ②生徒が参加する防犯訓練を実施する。
- ③防災安全管理マニュアルを完成させる。

【評価と課題】

- ①達成した（各担当者が毎月の安全点検チェック表を提出することで対応することができた。）
- ②達成した（1年生でCAP、また全学年でサイバー犯罪防止講演会を実施した。）
- ③達成できなかった（安全防災関係のさまざまな検討を通して、平成24年度末には原案ができる予定である。）

② いじめ・不登校等への対応の推進

【 目 標 】

いじめや不登校はどの子にも、どの学校にも起こり得るものであることを十分認識し、地域・保護者とともにもその未然防止や早期発見・早期対応への取り組みが、今各学校において求められています。

いじめについては「いじめは許されない、いじめる側が悪い」ということを明らかにして、子どもの立場に立った親身な指導を行い、適切な対応を毅然とした態度で行き渡らせる必要があります。

不登校児童・生徒に対しても一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学校を中心とした総合的な支援体制の構築が望まれています。

支援を必要としている子どもたちに応えるために、学校では子どもたちの心の問題に迅速に対応できるよう相談体制を充実させるとともに、校内の支援体制の充実と外部の専門機関との連携を図り、協働することが大切です。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①差別やいじめを許さない学級づくりを推進していく。
- ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応と早期発見を心がける。
- ③外部専門機関との連携を密にしていく。

【評価と課題】

- ①達成した（毎月の校務分掌会議や職員会議の中で確認し合った。）
 - ②達成した
 - ③達成した
- （支援教育の推進と同様に考えている。）

沼間小学校【目標】

- ①校内支援体制を構築し組織的対応を図る。
- ②担任とのコミュニケーションを深めるとともに、校内児童相談活動を進める。
- ③子どもの思いをくみ取り、問題の未然防止に努める。

【評価】

- ①達成した（支援教育の取り組みが教職員に定着してきた。組織的な動きがより明確化し、必要な個別支援が進んだ。）
- ②達成した（長期休業後の児童に注意を払い、休みがちな児童が安心できる様に個別の対応が進められた。）

- ③達成した（問題を抱える児童・保護者に対して他機関との連携が進み、児童へのきめ細かな対応ができた。）

【課題】

成長過程で起きてくる問題に対して、Y-Pアセスメントを活用した取り組みを生かし、さらに組織的な動きを構築しながら問題への対応を進める。

久木小学校【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どものニーズに応じ具体的支援を行う。
- ②外部機関やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携を深める。

【評価と課題】

- ①達成した（支援体制が機能するようになりケース会議等を開き、課題を抱える児童への対応を行った。）
- ②達成した（教育研究所・児童相談所・子育て支援課との連携を進め、児童の支援に当たることができた。継続的な取り組みが課題となる。）

小坪小学校【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心とした予防的校内体制の確立。
- ②いじめチェックリストの改善と継続的な活用
- ③他機関やスクールカウンセラーの計画的活用

【評価と課題】

- ①達成した（小坪小の支援体制が確立し教育相談コーディネーターを中心とした活動が実施できた。また、支援の必要な児童の対応に全校体制で取り組み、効果を上げることができた。）
- ②達成した（いじめチェックリストを活用し計画的に取り組んだ。）
- ③達成した（他機関やスクールカウンセラーを計画的・積極的に活用して児童指導支援を進めることができた。）

池子小学校【目標】

- ①校内児童指導支援体制の充実を目指し、外部相談機関との連携をさらに深める。
- ②校内研修を充実させ、児童理解の向上を目指す。

【評価と課題】

- ①達成した（教育相談コーディネーターを中心とした、校内支援体制が確立し、必要に応じて、外部機関と連携し、支援を受けることができた。また、スクールソーシャルワークサポーターが配置されたことにより、さらに外部機関との連携が深まり指導が充実した。）
- ②達成した（Y-Pアセスメントの研修を通して、児童理解の手法を学び、必要な支援のあり方を幅広く考えられるようになった。）

逗子中学校【目標】

- ①スクールカウンセラー・心の教室相談員を活用し、組織的に校内相談体制の充実を図る。
- ②保護者と学校が子どもの支援ニーズに対する共通理解を図り、協働して支援していく。

【評価】

- ①達成した（教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、心の教室相談員、生徒指導担当の連携のもとで、教育相談やケース会議、支援体制の具体策がとられている。支援教育の充実を果たすべく、その具体的な支援体制を確立し、組織的な機能を果たしていた。）
- ②達成した（外部機関との連携は、必要に応じて積極的に取り組めるようになってきた。生徒一人ひとりに対する支援体制及びその具体的な手立てが、保護者の理解のもとで協働できるようになってきた。）

久木中学校【目標】

- ①生徒指導を充実し、生徒の規範意識を高め、全教職員がいじめを許さない姿勢で臨む。
- ②生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって、管理職・学年と密な連携を取りながら、組織的な指導を行っている。

【評価と課題】

- ①達成した（全教職員の協力の下に実行できた。）
- ②達成した（組織的な指導を行った。）

沼間中学校【目標】

- ①教育相談コーディネーターが中心となってスクールカウンセラー、心の教室相談員との連携を深め、カウンセリングの充実を図る。
- ②生徒会の問題提起等の機会を与え、問題解決能力の育成を図る企画を実践する。

【評価と課題】

- ①達成した（教育相談コーディネーターが中心になり「気になる生徒一覧」を作成し、会議等で情報共有し、職員の連携を図った。そのおかげで問題を抱えた生徒たちに適切な対応ができた。今後はさらに職員間の情報共有を徹底していきたい。）
- ②達成できなかった（生徒会では、運動を通して、生徒間、生徒・教師間のコミュニケーションを図ることで、いじめ・不登校への対応を考えたが、必ずしも問題提起の機会を十分に与えたとは言えない。今後は具体的な企画を考えていきたい。）

③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

【 目 標 】

幼稚園・保育園から小学校に入学した子どもたちが、新しい環境になじめなかったり、授業中に立ち歩いたり騒いだりする問題を「小1プロブレム」といいます。

同様に、中学に入学した際に生じる問題を「中1ギャップ」といい、近年大きな問題となってきました。

これらの問題を解決し、子どもたちが希望に満ちた学校生活を送れるよう支援していく必要があります。

これらの問題を解決するため、幼稚園・保育園と小学校の連携、さらに小学校と中学校の連携を図り、子どもや保護者が、学びや生活が連続していると安心できるよう、相互の教育活動を理解し、協力していくことが大切です。

各小中学校における平成23年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①幼稚園・保育園との情報交換を密にしていく。
- ②幼稚園・保育園との児童レベルでの交歓行事を実施していく。
- ③中学校との交流行事を検討する。

【評価と課題】

- ①達成した（就学予定園児についての情報交換を幼稚園・保育園と行った。）
- ②達成できなかった（一年生が次年度就学予定の園児との交流を行っているが、こちらから出かけていく交歓行事は今年度も行えなかった。）
- ③達成した（職業体験事業で中学生を受け入れ、外国語活動の授業では中学の英語の先生に来ていただいた。また、一部ではあったが部活動の見学を行った。）

沼間小学校【目標】

- ①小・中連携については、担当者が年間計画を立てて進める。
- ②子どもの姿を持って語り合い、情報交流を進める。
- ③幼・保との連携では、授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する。

【評価】

- ①達成した（県の学びづくりに取り組むことで中学校との連携事業が進み、話し合い、共に取り組む土壌ができた。）
 - ②達成した
 - ③達成した
- 幼・保・小の連携や小・中の連携を行い、子どもを中心においた情報の伝達が進んだ。

【課題】

小・中連携については、さらにより良い育ちを目指して取り組む必要がある。
次年度は、かながわ学びづくりで小・中連携をさらに強化していく。

久木小学校【目標】

- ①小・中の連携について、できる内容から取り組みを始める。
- ②幼稚園・保育園と連携した支援教育に取り組む。

【評価と課題】

- ①達成した（中学校との児童生徒指導に関わる情報交換会を行い連携を進めた。）
- ②達成した（新入学児童を迎える集会等を開き、交流すると共に情報収集を行った。）

小坪小学校【目標】

- ①生活科・総合的な学習の時間を活用した子ども同士の交流や授業体験を推進する。
- ②幼稚園、保育園、中学校との指導上必要な情報の共有化に取り組む。

【評価と課題】

- ①達成した（ようこそ小坪小集会に幼稚園、保育園児を招待し様々な体験活動を行い、交流を深めることができた。）
- ②達成した（幼稚園、保育園児による授業参観、中学校の先生との日常的な情報の共有により、入学前の交流の充実が図られた。）

池子小学校【目標】

- ①幼・保連携では行事での交流だけでなく、児童に対する共通理解、情報の共有も図る。
- ②小・中連携でも行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する。

【評価と課題】

- ①達成した（「学校へ行こう週間」での生活科学習の交流など、行事で交流するだけではなく、幼稚園訪問も教育相談コーディネーター、養護教諭、1年生担任で実施するように改善し、より児童に対する共通理解も進んだが、一部の幼稚園から個人情報扱いの点で情報の提供を拒まれる事態を生じ、今後検討していく必要がある。）
- ②達成した（中学校訪問も2年目となり、ねらいを明確にした取り組みに改善されてきている。教員同士の交流が今後の課題である）

逗子中学校【目標】

- ①小学校と中学校間で、「保健体育」、「外国語活動」や「国際教育」を活用

した、授業などの交流を推進していく。

- ②小学校・中学校の連携では、教職員の授業等における交流や、9年間を見通したカリキュラムの共同研修などの工夫・改善をしていく。

【評価と課題】

- ①達成した（外国語活動については、今年度計画されていた全研修に必ず最低一人は参加し、その内容伝達を行った。英語科としては、これまでの認識とは変わって、逗子市外国語活動ガイドラインを真に理解した上で、中学校英語の授業に入れる実感を持つことができた。）
- ②達成できなかった（他教科でも同じような取り組みが理想とは考える一方で、時間的な工夫や融通は難しいものがあると思っている。共同研修という設定で、まずは年間に数回、無理のないところから着手していく。）

久木中学校【目標】

- ①義務教育9年間での児童・生徒の成長を図るため、継続的なカリキュラムの工夫、授業交流、部活体験などの体験活動などを進めるなど、小・中学校の密接な連携を進める。
- ②小学校から入学してくる児童が、中学校にスムーズに適應できるよう必要な情報の共有化を進める。

【評価と課題】

- ①一部達成した（情報交換は行ったが、その他については今後も努力しなければならない。）
- ②達成した（十分に行ったが、今後も継続する必要がある。）

沼間中学校【目標】

- ①小・中合同研究会を共同企画し、全教職員が参加する。
- ②全教科で小学校のカリキュラムを学び、小学校での交流授業や新入生対象体験学習を実践する。

【評価と課題】

- ①達成した（2回実施した。）
- ②達成できなかった（「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」で沼間小との共同研究を受けて、小学校の意見も考慮し、授業参観形式、新入生・保護者学校見学を実施した。）

④ 国際教育の推進

【 目 標 】

今日、わが国では様々な面で異文化との接触や国際化が進展し、国際社会に生きる日本人としての資質の向上が重要な課題となっています。

これからの国際教育は、異文化や外国の生活様式を知るにとどまらず、多文化との共生に向けて、国際社会においても自らの力を発揮できる資質や能力を育てることが必要であると考えています。

自分たちが生活している日本と世界の国々の現状について、自分たちの思いや考えをもち、それらを自ら発信し、かつ様々な文化的背景をもった人々を理解しようと努める態度の育成とコミュニケーション能力の向上に努めます。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①外国語活動の在り方について職員研修をすすめ、実践力を高める。
- ②国際教育指導助手との連携について実践していく。
- ③評価規準等について検討を進める。

【評価と課題】

- ①達成した
 - ②達成した
 - ③達成できなかった（各学年で検討をしているが、学校として定めるには至っていない。）
- ①達成した } 研修を校内で行い、また、国際教育指導助手とのコミュニケーションもとれるようになり、担当者を中心として行うことができた。 }

沼間小学校【目標】

- ①英語活動のカリキュラムの検討
- ②英語活動の授業の充実に向け、授業研究や研修会を実施
- ③国際教育指導助手と協力して日常的な交流や教材開発を進める。

【評価】

- ①達成した
 - ②達成した
 - ③達成した（英語を活用した掲示や教材づくりに積極的に取り組んだ。）
- ①達成した } 校内研究に位置づけた取り組みや、市教委研修の成果がみえる。 }

【課題】

ねらいに沿った活動を実施していくにはまだまだ研究・研修を継続していく必要がある。

久木小学校【目標】

- ①新学習指導要領全面実施にあたり、小学校外国語活動の充実を図る。
- ②国際教育指導助手の効果的な活用を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（委託研究発表会を開き、2年間の成果と課題を発表できた。次年度も継続的に研究を進める。）
- ②達成した（研究等に取り組む中でコミュニケーションを深めた。国際教育指導助手が毎年変わることが大きな課題である。）

小坪小学校【目標】

- ①授業実践を通して外国語活動の年間計画の改善に取り組む。
- ②国際教育指導助手の効果的な活用を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（年間計画を作成し外国語活動の授業実践を進めることができた。）
- ②達成した（国際教育指導助手と協力して日常的な交流や教材開発を進めることができた。）

池子小学校【目標】

- ①池子ヒルズから通学している児童、保護者を含め、池子ヒルズとの交流の推進を図る。
- ②学校支援地域本部と連携し、地域の教育力の掘り起こしを進め、国際教育の推進を図る。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（東日本大震災以降、池子ヒルズ児童の転出が続き、またフィールドデイ等池子ヒルズからの呼びかけもなくなり、交流が困難となった。今後は計画を見直す必要があると考える。）
- ②達成した（上記のような実態から、地域の教育力の掘り起こしはなかなかすすめられなかったが、国際教育指導助手を活用し、国際理解のための学習を計画したり、講師を招いてモンゴルの話を聞くなどしたりして、可能な限り国際教育の推進に努めた。）

逗子中学校【目標】

- ①異文化を理解し、多文化と共生するために、各教科の授業を通して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。
- ②国際教育指導助手の、効果的な活用を発展させていく。

【評価】

- ①達成した（異文化理解や多文化共生については、どうしても英語科が中心にはなるものの、コミュニケーション能力の成長を知るために、各教科な

らびに特別活動や総合的な学習においてプレゼンテーションを行い、自己表現活動の向上を認めることができた。）

- ②達成した（今年度の国際教育指導助手からは、国際理解教育のための資料提供が活発に行われていて、それを生徒がしっかりと受けとめることができていた。）

【課題】

今後はその企画・実行が、更に他教科へと広がっていきえるよう課題にしていく。

久木中学校【目標】

- ①現在派遣されている国際教育指導助手を様々な教育活動において積極的に活用する。
- ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体等との交流を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（外国語の指導が中心であったが、さらに積極的な活用を進めた。）
- ②達成した（2学年の総合的な学習の時間に、フェリス女子大学の韓国人学生と交流を行った。）

沼間中学校【目標】

- ①国際教育指導助手を積極的に活用する方法を実践検証することにより、授業のねらいの深化を図る。
- ②教科や総合の時間での年間指導計画に、地域講師を迎えての授業実践等位置づけ、推進する。

【評価と課題】

- ①達成した（授業づくりの際に国際教育指導助手が生徒たちとコミュニケーションをとる機会を多く持つように心がけた。）
- ②達成できなかった（年間カリキュラムの中で時間確保が難しかった。）

⑤ キャリア教育の推進

【 目 標 】

文部科学省が打ち出したキャリア教育に関する方針を踏まえ、子どもたちの勤労観や社会性を養い、将来の職業や生き方について自覚するよう、関係機関の協力を得て取り組んでいきます。子どもたちそれぞれの発達段階に応じて、学校・家庭・地域などが協働してキャリア教育を進めていきます。

キャリア教育は職業学習だけでなく、将来を見据えた「生き方の教育」であり、子どもの発達に応じたさまざまな生き方の学習に取り組んでいきます。

小学校では将来の生き方や職業への夢や期待を膨らませ、将来への明るい展望や自己の可能性への期待を広げることも含まれています。

中学校では、すでに地域・保護者による講師を活用した授業、さらに地域での職業体験活動の実施などに取り組んでいます。

各小中学校における平成23年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①他校の実践事例等の情報を収集し、発達段階におけるキャリア教育の在り方を探る。
- ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う。

【評価と課題】

- | | | |
|-----------|---|---|
| ①達成できなかった | } | 【今年度は特にキャリア教育について教職員間の共通理解や実践報告などを行うことはできなかった。】 |
| ②達成できなかった | | |

沼間小学校【目標】

- ①子どもの発達段階に応じたキャリア教育を実践する。
- ②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する。
- ③キャリア教育への保護者の理解を促す。

【評価】

- | | | |
|--|---|---|
| ①達成した | } | 【学校内や地域支援での関わりをキャリア教育の視点で捉えて子どもたちに提示できた。】 |
| ②達成した | | |
| ③達成できなかった（担任から保護者に積極的に情報提供しているとはいえない。） | | |

【課題】

教員がキャリア教育を十分に理解した後、子どもたちに生き方を提示してい

く必要がある。

久木小学校【目標】

- ①キャリア教育の視点を教科・総合的な学習の時間の内容に入れながら実践を進める。
- ②キャリア教育に関わる研修等に参加し、教職員の理解を高める。

【評価と課題】

- ①達成した（低学年の生活科、中学年の社会科・総合の中で、地域のお店・工場等を取り上げた実践を行った。また、高学年では社会科農業学習・工業学習においてゲストティーチャーを招いての実践を行った。）
- ②達成できなかった（研修に参加できる体制作りが課題である。）

小坪小学校【目標】

日頃の授業をキャリア教育の視点で見直し、学年の発達段階に応じたカリキュラムを作る。

【評価と課題】

達成できなかった（学校生活全般を意図的に活用しているとはいえなかった。）

池子小学校【目標】

- ①キャリア教育に対する研修を実施し、教職員の共通理解を図り、指導力の向上を図る。
- ②調べ学習や体験学習のねらいを明確にし、地域教育力の効果的な活用を図る。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（様々な学習活動の中で、キャリア教育の視点は意識されているが、研修を実施したり、職員の共通理解を図るまでには至らなかった。今後の課題である。）
- ②達成した（調べ学習や体験学習のねらいを明確にするように努め、活動そのものの見直しを進めてきた。地域教材のさらなる掘り起こしが課題である。）

逗子中学校【目標】

- ①職業体験学習を実施（体験場所の拡大）していく。
- ②学校行事・生徒会活動の充実を図り、社会性や集団性を育成していく。

【評価と課題】

- ①達成した（二年生で職業体験学習を実施していく中で、生徒の主体性を大切にしてきたために、その希望範囲がおのずと広がってきたが、保護者や地域の協力を得ながら、体験場所の拡大につとめてきた。）

- ②達成できなかった（生徒会活動では、生徒の企画力や行動力、そしてリーダー性が求められる中で、生徒会がより力を発揮できるようにするためには、一層の研修時間を要するものとする。）

久木中学校【目標】

- ①総合的な学習、学級指導の時間を効果的に使い、「生き方の学習」について自ら体験的に学ぶ事も含めた指導計画にそってキャリア教育を実践している。
- ②市民・保護者などの講師による授業、地域での職業体験学習を学校支援地域本部との協働の中で進めている。

【評価と課題】

- ①達成した（計画通りに行った。）
- ②ほぼ達成した（学校支援地域本部との関わりを深める必要がある。）

沼間中学校【目標】

- ①地域講師を迎えての授業を通して、働く人々の生きた教材により学習のねらいを深化させる。
- ②職業体験学習の2日間の実施を実現させる。
- ③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有する。

【評価と課題】

- ①達成した（地域講師を迎えての授業を行い、学習のねらいを深化させることができた。）
- ②達成した（2日間の実施ができた。）
- ③達成した（発表の場を設けて、各学年実施できた。）

⑥ 福祉教育の推進

【 目 標 】

私たちの周りには、障がいを持つ方や高齢の方々が多く、ともすると福祉とはそのような方々のために何かをすることと子どもたちはとらえがちです。しかし、福祉は特別な人の、誰かのためのものという限定されたものではなく、一人ひとりの

「 ふだんの くらしの しあわせ 」

を願うものという観点で福祉教育を進める必要があります。

年齢の違い、障がいの有無にかかわらず、お互いに相手の立場を思いやり、声をかけ合える温かい人間関係をつくり、心を育てる教育を進め、誰もが住みやすい社会をつくる担い手を育成していくことが、これからの社会において大切です。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う。
- ②児童の生活に根ざした福祉教育について実践を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（外部講師を活用し実施した。）
- ②達成した（福祉教育担当者会で言われている「ふつうの・くらしの・しあわせを」を踏まえて実践を進めた。）

沼間小学校【目標】

- ①日常的な人を思いやる教育から始める。
- ②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る。
- ③社会福祉協議会と連携し、体験的学習活動を推進する。

【評価】

- ①達成した（単元構成がまとまった授業展開が進んできた。）
 - ②達成した
 - ③達成した
- 社会福祉協議会や各種団体を有効活用することができ、授業では具体的な場面を用意して成果を上げた。

【課題】

総合的な時間を活用して本校の福祉学習として教育課程をつくる必要がある。

久木小学校【目標】

- ①福祉学習年間計画をもとに教科・総合的な学習の時間等を通して福祉学習

に取り組む。

- ②福祉部・社会福祉協議会との連携を取り、福祉教育の推進を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組む。）
- ②達成した（各機関との連携を取り実施した。盲導犬学習ではゲストティーチャーを招き、学習を進めた。）

小坪小学校【目標】

- ①小坪の自然・社会・人的環境を生かした、単元開発を行う。
- ②関係諸機関との連携を図りながら福祉教育の体験的な活動を推進する。

【評価と課題】

- ①達成した（小坪地区を生かした年間計画に従って各学年の発達段階に応じた取り組みを行った。）
- ②達成した（福祉学習の計画、実施に関わって連携して進めることができた。）

池子小学校【目標】

- ①各学年の福祉体験活動を整理し、発達段階に応じた学校全体としての福祉教育の推進を図る。
- ②日常的な人権教育を推進し、人権感覚の向上に意図的に取り組む。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（4年生で地域講師を招き「福祉」について深く考える機会を持つことができたが、学校全体としての福祉体験活動の整理には至らなかった。今後は各教科の中で実施している「福祉に視点を当てた授業」を整理するとともに、「福祉体験学習」の充実を図っていきたい。）
- ②達成した（日常的な人権意識の啓発には学校全体で意図的に取り組んだ。指導者が人権感覚を磨くための研修参加をさらに促していきたい。）

逗子中学校【目標】

- ①体験種目を増やした福祉体験学習を実施していく。
- ②社会福祉の理解を深め、他者への思いやりの心の育成していく。

【評価】

- ①達成できなかった（福祉体験学習については、その位置づけを再確認することで、本校としての出直しを図る必要がある。）
- ②達成した（特に道徳の授業で、一番多く取り扱われていた。本校の重点目標である「3あい（認め合い、学び合い、高め合い）」にあるように、他者への思いやりの心が持てるよう、日々の学校生活における様々な場面で意識させ、校内での実践は果たせている。その実践の一般化となると別で

あり、校外での個々の実生活の中で言動に出せるよう育成していく。)

久木中学校【目標】

- ①教育活動全体において計画的な福祉教育や人権教育を進める。
- ②地域と連携した体験活動（保育体験、地域行事への参加、地域清掃など）を通じて、人を思いやる心、温かい人間関係を築く心を育てる。

【評価と課題】

- ①達成した（人権移動教室や福祉体験学習などを計画的に行った。）
- ②達成した（隣接の保育園での保育士体験、地域の方々との地域清掃などを行い豊かな心の育成に努めた。）

沼間中学校【目標】

- ①小学校でのカリキュラムとの連携を図り、福祉体験学習を定着させる。
- ②地域講師を迎えての授業実践を推進する。
- ③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有する。

【評価と課題】

- ①達成した
 - ②達成した
- （福祉体験はこころの教育という視点で、3年生で試行した。）
- ③達成した（今年度は震災支援活動やピースメッセージ体験等、全校集会の場で共有することができた。）

⑦ 環境教育の推進

【 目 標 】

逗子市では、今日、世界的に大きな課題となっている環境に関する諸問題の解決に向けて、逗子市環境基本計画がつくられています。

逗子市立の小・中学校においても、一人の市民である子どもたちの明るい未来のために、身近な環境について自ら考え取り組んで行こうとする態度を育て、子どもたちが自然に環境にやさしい行動が取れるようになることを目指して、環境教育に取り組んでいきます。

環境教育の取り組みが、子どもたちだけの活動にとどまらず、各家庭・各地域へと広がっていくことを目指しています。地域・保護者の方にとっても、子どもたちとともに活動できるような具体的な取り組みを推進してきます。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践。
- ②家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みや、児童による放射線測定器を活用した観察活動を行った。）
- ②達成できなかった（家庭との連携について特に進めてこなかった。）

沼間小学校【目標】

- ①環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。
- ②発達段階に応じた実践を取り入れる。
- ③学校内で行われている環境に関わる取り組みを交流する。

【評価】

- ①達成した
 - ②達成した
 - ③達成した
- （各学年の取り組みを引き継いでいる。）

【課題】

児童会でも取り組んでいるが、いろんな場を活用して広げていきたい。

久木小学校【目標】

- ①教科・総合的な学習の時間等を通して環境学習に取り組む。
- ②逗子市の施策（グリーンカーテン等）を環境教育に活かす。

【評価と課題】

- ①達成した（総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことができた。）
- ②達成した（年間計画に従って取り組んだ。次年度、地域と連携し「いのちの森事業」に取り組む予定である。）

小坪小学校【目標】

- ①4年生の総合的な学習の時間を中心に、その活動への協力等を通して、環境に対する意識を育てる。
- ②地域の人と連携した活動を通して多様な環境教育に取り組む。

【評価】

- ①達成した（総合的な学習全体計画に基づき、計画的に環境学習に取り組んだ。）
- ②達成できなかった（地域との連携を深め、地域の講師を招くことができた。）

池子小学校【目標】

- ①各学年の年間指導計画の中で環境教育に関わる活動を洗い出す。
- ②地域や外部団体との連携を深め、環境教育の充実を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（環境教育担当を中心として、各学年の環境に関わる活動を洗い出し、見直すことができた。）
- ②達成した（PTA活動で「アースデイ池子」など、環境に関する積極的な取り組みがなされ児童の環境に関する関心を高めると同時に、地域や外部団体との連携を深めることができた。）

逗子中学校【目標】

- ①生徒会活動で、ホテルの里づくりの推進を図る。
- ②牛乳パックリサイクルの実践を通して、環境教育の視点を重視していく。

【評価と課題】

- ①達成した（学校支援地域本部事業の一環でもあり、ホテルの里づくりの基盤構築として、川の生息物を示す掲示板を設置した。生徒会活動においても、川の定期的な清掃や見守りを行っていた。）
- ②達成できなかった（リサイクルのための洗浄処理として、十分にその意識を感じて見守っている。毎月の牛乳パックリサイクル結果（重さ）について、学校だよりなどを通じて知らせてきた。）

久木中学校【目標】

- ①生徒会活動の中で身近な環境保護の実践活動（ミックスペーパーの回収、エコキャップ回収、募金活動）をする。

- ②地域講師による環境学習の実施。
- ③身近にある太陽光発電についての理解を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（計画通りに実施できた。）
- ②達成した（計画通りに実施できた。）
- ③ほぼ達成した（地域講師による環境学習で学ぶことができた。）

沼間中学校【目標】

- ①3R（リサイクル・リユース・リデュース）運動を生徒会活動中心に徹底する。
- ②環境に対する意識を高め、自ら環境に対する活動を行おうとする姿勢を育てる。

【評価と課題】

- ①達成した（牛乳パックの回収と分別を学校全体で定着させた。）
- ②達成した（1学年のビーチコーミングや、2学年の自然体験学習を通して、環境に関する課題を見つけ出し学ぶことができた。全校での取り組みとしては、地域清掃を年2回行った。次年度への課題は、学校全体で取り組めるような環境に関する活動を、もっと増やすことである。）

⑧ 情報教育の推進

【 目 標 】

情報機器の急速な進歩により、インターネットが普及し、携帯電話を持つ小中学生が増加してきたことにより、様々なトラブルに巻き込まれるケースも出てきています。

情報機器を活用する力は、現代では必要不可欠であり、その能力の育成を図ることは重要です。情報が氾濫する情報社会においては、ネット上の情報に惑わされず、自分自身に必要な情報を正しく取捨選択する力を自らが身に付けること（なおかつ自分の考えや情報を発信する情報リテラシーを学び）、ネット上での情報交換の場における、エチケットやモラルの教育を図ることが求められてきています。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標

逗子小学校【目標】

- ①発達段階に応じた系統性のある学習計画を実践していく。
- ②高学年対象に情報モラルについて外部機関による授業を実施する。

【評価と課題】

- ①達成した（情報教育担当者を中心に取り組んでいる。）
- ②達成できなかった（今年度は外部機関と連携を取って行うことができなかった。）

沼間小学校【目標】

- ①情報機器活用能力の育成に努める。
- ②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める。
- ③各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。

【評価】

- | | | | |
|---|-----|------------------------------------|---|
| <ol style="list-style-type: none">①達成した②達成した③達成した | } { | 情報教育については表現活動とも関連させて取り組むことができています。 | } |
|---|-----|------------------------------------|---|

【課題】

情報ツールを授業に有効活用することについて、さらに工夫を進める。

久木小学校【目標】

- ①発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る。
- ②情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行うとともに情報モラルの育成も図る。

【評価と課題】

- ①達成した（学習時、プロジェクターを効果的に活用できた。継続して活用能力育成を図る。）
- ②達成できなかった（総合的な学習等を通して取り組みを進めている。次年度への継続課題としたい。）

小坪小学校【目標】

- ①「ICT」を活用した授業の単元開発に取り組む。
- ②情報の発信者としての発達段階に応じたモラルの育成を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（外部講師の出前授業や講習会でより専門性の高い授業を行うことができた。）
- ②達成した（情報リテラシーの育成とともに、校内研修を開催しネット上で情報交換の場における、エチケットやモラルの教育の推進を積極的に進めた。）

池子小学校【目標】

- ①学校教育全体の中で、情報の取捨選択能力を養う方法を検討する。
- ②ICTに関わる研修を実施し、授業でのICTの活用を推進する。

【評価と課題】

- ①達成した（情報の取捨選択は図書室での資料活用などICT以前の段階から育成が必要な能力であることを共通理解し、各教科、総合的な学習の時間の中で意識的に取り組んできている。）
- ②達成した（PCルームの活用、各教室でのプロジェクター、教材提示装置などの活用について研修した。さまざまな学習場面で活用が進んでいる。）

逗子中学校【目標】

映像を活用したプレゼンテーションを学年ごとに実践し、情報活用能力の育成を目指していく。

【評価と課題】

達成した（本校の重点指導項目の一つでもあるプレゼンテーション能力の向上につき、実物投影機及びプロジェクターの活用によって、自己表現活動が身近な取り組みとして定着してきている。）

久木中学校【目標】

- ①指導計画に基づき「情報活用能力」を育成するとともに指導するシステムを作成する。
- ②教職員が講習会等により最新の情報を学び、指導を進める。
- ③情報機器が整備された学習環境を十分に把握し、ICTを利用した授業を

行う。

【評価と課題】

- ①ほぼ達成した（教科学習を中心に進めている。）
- ②達成できなかった（最新の情報を学ぶことが個々に任されている。）
- ③ほぼ達成した（委託研究と並行して進められた。）

沼間中学校【目標】

- ①ICT を活用した授業計画を推進する。
- ②小学校と連携し、小学校での情報機器の活用能力を図る。
- ③情報の発信者として被害者・加害者ともにならないように指導する。

【評価と課題】

- ①達成した（校内研修を行った結果、書画カメラの活用が多く見られた。電子黒板はソフト面が課題となっている。）
- ②達成した（1年の初めに文書処理ソフトウェア、インターネットなどの使い方を確認。ローマ字入力ができない生徒が多いことがわかったので、次年度からの新学習指導要領全面実施に向けて、より小学校との連携を密にしていきたい。）
- ③達成した（全校生徒対象に警察のサイバー犯罪に関する講演を行った。）

〈教育委員会分析結果〉

1 平成23年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- CAP（子どもへの暴力防止）プログラム事業
- 教育相談事業
（非常勤職員6人、スーパーバイザー5人）
- 適応指導教室運営事業（非常勤職員2人）
- 心の相談・援助事業（心の教室相談員各校1人 非常勤職員）
- 国際教育推進事業（8人）
- 教育用コンピュータ維持管理事業（コンピュータリース）
- 学校施設生ごみ処理機設置事業（沼間小、小坪小）

(2) 主な指導内容

- ▲教育相談コーディネーターを中心とした解決に向けた校内体制づくり
- ▲小学校外国語活動の授業づくり研修
- ▲「逗子市学校防災計画」に基づく各学校の防災計画の作成

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 77%）

(2) 主な成果等

【子どもの安全・安心】

- ・保護者、地域、外部関係機関との連携の下に子どもの安全確保に取り組んだ。
- ・小学校3年と中学校1年の市内全クラスにおいてCAPワークショップを実施した。
- ・東日本大震災を受けて各学校において防災計画の見直しが行われ、短期的に対応すべき点についての変更がなされた。それを踏まえた防災訓練や地域防災（避難所訓練）の取り組みを行った。

【いじめ・不登校】

- ・未然防止・早期発見のために、全校が、児童・生徒の生活実態について、聞き取り調査や質問紙調査を行うなど、きめ細かく把握に努めた。
- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制構築し、組織的な対応をはかることができた。
- ・外部機関と連携した取り組みを進めることができた。

【幼・保・小・中の連携】

- ・小学校…幼・保・小連携推進会議において、幼・保・小それぞれの授業や活動を参観し理解を深めた。また、年度末に関係幼稚園・保育園・中学校との情報交換を実施し、学びの連続性を意識した情報連携を図った。
- ・中学校…小・中の連携を図るため、合同研修会や情報交換、出前授業や部活体験（クラブ指導）等を実施した。

【国際教育】

- ・昨年度に引き続き各校に1名ずつの国際教育指導助手が配置されたことで、教職員との連携や児童・生徒との交流をより深めることができた。
- ・中学校では次年度からの新学習指導要領全面実施に向けて、教職員の研修やカリキュラム作成に取り組んだ。
- ・単なる語学の指導に終わることなく、コミュニケーションや人権、異文化理解に発展させることができた。

【キャリア教育】

- ・中学校における職業体験は定着しており、生徒にとって地域教育力を活用した貴重な体験となっている。（1日実施・・・2校、2日間実施・・・1校）

【福祉教育】

- ・各教科・生活科及び総合的な学習の時間の中で計画的に実践が行われた。
- ・社会福祉協議会（地域の教育力）との連携が定着しており、各校ごと児童・生徒の実態に応じた取り組みが行われた。

【環境教育】

- ・総合的な学習の時間、生徒会・児童会活動の中で計画的に実践が行われた。
- ・地域教育力を活用した環境学習授業を行い、子どもたちの環境に対する意識を高めることができた。

【情報教育】

- ・小・中学校において、外部関係機関と連携しての携帯電話教室や情報モラルに関する授業を実施した。
- ・ICTを活用した授業実践が増え、内容の充実も見られる。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

（1）教育委員会の自己評価〔B〕

コメント 東日本大震災の発生は学校の防災体制に様々な課題を投げかけたが、今年度

はまず短期的に解決すべき課題に各学校が教育委員会との連携の下で取り組んだ。中・長期的な課題については今後も取り組みを継続する。その他の今日的な課題についても、それぞれの学校が創意工夫により対応に力を入れているが、成果としてはなかなか表れにくいというのが現状である。とくに、「いじめ・不登校」については、早期発見、早期解決に向けて委員会としても継続的な支援を行っていく。

(2) 主な成果等

【安全・安心】

- ・各学校で東日本大震災を受けての取り組みができるよう、支援した。
- ・交通安全・不審者対応等の防犯に関わる諸機関との連携を密に行うことができた。

【いじめ・不登校】

- ・各学校において早期発見・早期対応の取り組みを進めるよう働きかけた。その手法の一つとして Y-P アセスメントの研修を行った。
- ・校内の情報共有の徹底と、適切な指導に向けた教員個々の指導力向上を引き続き目指す。

【幼・保・小・中の連携】

- ・幼・保・小連携の取り組みを進めるために、幼・保・小連携推進連絡調整会議を年間3回開催した他、公開保育、公開授業の参観を年間3回実施した。
- ・小・中連携の取り組みを進めるために、年間5回開催された教育課程担当者会でそのあり方や方向性について話し合った。

【国際教育】

- ・年間10回の小学校外国語活動指導者研修会を開催するなどして、逗子市小学校外国語活動ガイドラインに基づいた指導のあり方について共通理解を図った。
- ・1校に1名ずつの国際教育指導助手を配置し、国際教育の推進を図った。

【環境教育】

- ・環境教育に係る諸機関との連携を密に行うことができた。

【情報教育】

- ・新たに導入したICT機器（PC、電子黒板、プロジェクター）の授業における活用を、情報教育担当者会等を通じて推進を図った。
- ・情報セキュリティの研修会を実施し、情報モラル等に関する意識向上に取り組んだ。

4 平成24年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 子どもの安心・安全

- ・大規模地震及び津波の発生に備えて「逗子市学校防災計画」の見直しに継続して取り組む。

- ・自転車での事故防止のための啓発に取り組む。

(2) いじめ・不登校

- ・教育相談コーディネーターを中心としたと校内支援体制を構築するため、特別支援教育充実事業（教育相談コーディネーター担当者会および各学校での研修）を充実させる。
- ・各校における教育研究所や児童相談所等の関係諸機関との有機的連携を進める。
- ・不登校の未然防止に向けた具体的な手立てを講じ、出現率の低下に努めるため、各学校の教育相談体制を充実させる。

(3) 幼・保・小・中の連携

- ・小・中の教職員間に顔が見える関係を構築し、互いの教育への理解を深める。
- ・小・中9年間を通して育てる「逗子の子ども像」について、教職員間の話し合いを深める。
- ・幼・保・小・中統一した書式の支援シートの作成と活用を進める。

(4) 国際教育

- ・中学校英語科の授業との接続も視野に入れて、小学校外国語活動の授業づくり研究を継続する。

(5) 情報教育

- ・ICT機器（PC、電子黒板、プロジェクター）の授業における効果的な活用を推進する。
- ・「情報モラル」についての一貫性を持った指導が必要である。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈高木展郎 氏〉

「いじめ・不登校」は、学校教育の今日的な大きな課題であり、ゼロにしていく努力を継続することが重要です。教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー等の活用も大切ですが、やはり毎日子どもたちと接している教員が関わりを持とうとすることが第一だと思います。多忙化している先生方が、毎日教室に行った時に一人ひとりの子どもたちの様子に気を配り、子ども間の関係をつかめるゆとりがある教室づくり、学校づくりに重点を置くべきで、子どもたちが来たくくなるような学校の環境をどうやって作っていくか、先生方が、子どもと日々向き合う場である授業の中でどうするか、という意味で先生方を支援する制度を充実させた方が効果的なのではないでしょうか。また、いじめ・不登校の問題は、保護者との連携なしに解決を図ることはできないと思います。保護者としてこの課題にどう関わるかという自覚を強めるよう促すことも学校の役割ではないでしょうか。そのためには保護者と学校との間に Face to Face の関係を築く必要があるでしょう。

「幼・保・小・中の連携」に欠かせないのは、まず密な情報交換だと思います。そして、小と中の間においては、私は「連携」というより「接続」を意識すべきだと考えています。9年間を見通したカリキュラムでは、教育内容ではなく学び方のカリキュラム作成に取り組んでほしいと思います。幼・保と小の間においては、就学前教育で重視すべきことの共通理解が図られるといいのではないのでしょうか。私立の幼稚園や保育園ではそれぞれの教育方針に特色があるがあるため、難しい点も多いかとは思いますが、年間で何回か開かれる幼・保・小連携推進連絡会議等の場を活用して、そのような話し合いができるような関係性を築くことを探ってみて下さい。

「キャリア教育の推進」については、中学校では職場体験がその中核を成しているようですが、その実施方法を見直してみる時期に来ているのではないのでしょうか。現在の実施状況を見ると、学校が何もかもお膳立てをできてしまっているという印象がぬぐえません。キャリアとは自分で見つけるところからスタートするのだと思います。生徒にもっと試行錯誤をさせる過程も大切なのではないのでしょうか。

「情報教育の推進」については、財政状況が厳しい中で、市は環境整備によく取り組んでいると思います。全普通教室への天吊りプロジェクターの設置や、書画カメラの配置は他市ではなかなか見られないことです。各学校でもこれを有効に利用して、授業改善に取り組んでいることが伺われます。

社会の変化に伴って、学校は次々と新たな教育課題への対応を求められています。しかし、学校がまず取り組まなければいけないことは、学習指導要領に

定められた教育内容を実施し、子どもたち一人ひとりが、学習指導要領によって育成を求められている力を身につけることができるように指導することです。常に学校が果たすべき役割は何かという原点に立ち返って、次々と打ち出される〇〇教育に振り回されないように、地に足のついた教育実践を積み重ねていくことを望みます。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉 〈久保田貢 氏〉

防災教育の推進については、東日本大震災の教訓を踏まえて、細部にわたって防災マニュアルを見直し、児童・生徒の安全の確保に努めていることが伺えます。今後は、万が一に備えて、家庭、地域社会、関係諸機関が一体となって訓練の充実を図ることです。

不審者対応については、CAPを始め安全教室や防犯教室等安全教育に積極的に取り組んでいることが伺えます。今後とも、関係諸機関を始め地域社会、家庭と連携を図り、犯罪から子どもを守るための指導の徹底を図ることが大切です。また、児童虐待の対応については、教師一人ひとりが子どもの心身の状態を的確に把握できる目を養うことが必要です。そのためにも、日々、子どもへの声掛けや精神的に不安定な保護者への心した配慮に努めて欲しいと思います。

「いじめ・不登校への対応」については、子ども一人ひとりが「学校生活が楽しい」「自分の居場所がある」「自分の存在が認められている」といった安心感が持てるような学校・学級経営が大事です。そのためにも、教師一人ひとりが、子ども一人ひとりに寄り添い、子どもとの信頼関係を構築した学級経営・教科経営に取り組むことが大切です。教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーの指導・助言を基に、教師自身がカウンセリングマインドを磨き、「いじめ根絶、不登校0」に向けて、更に充実した取り組みを期待します。

幼・保・小・中学校の連携・交流については、年々充実してきていますが、教師連携が中心となっており、子ども同士の交流場面が少ない感じがします。「豊かな人間形成」の視点からも、中学校区単位で様々な実践活動に取り組むことを期待します。

福祉教育は「人間理解教育」とも言えます。相手の立場を理解し、思いやる心を育む教育です。総合的な学習の時間や道徳の時間、生活科、特別活動等を通して、様々な人との関わりを大切にしていることが伺えますが、今後は、養護学校や高齢者施設、社会福祉施設等との交流にも積極的に取り組み、「福祉の心」が育つよう指導の充実を期待します。

情報教育への取り組みについては、小・中学校で多少の差がありますが、時代に即した実践に取り組んでいることが伺えます。今後とも「情報の光と影」「情報モラル」「情報活用」等について一層力点を置き、「心豊かな人間性」が育つ教育活動の展開を期待します。また、人権教育、同和教育にも積極的に取り組むことを期待します。

2 地域に開かれた学校づくり

① 地域への情報発信と学校公開の工夫

【 目 標 】

学校が様々な教育課題の解決に向けて取り組むとき、家庭や地域社会との連携はますます重要になってきています。

学校教育目標や重点課題等を積極的に公開し、開かれた学校運営に努めることや、地域保護者への学校説明会や授業公開日の定例化を進め、学校を地域に十分に開くよう取り組みを進めていきます。

また、個人情報保護に十分注意しつつ、学校から積極的に情報発信をすることにより、地域と学校とが適切な相互理解を深めていくことを目指します。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①学校ホームページの充実
- ②学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信
- ③保護者だけでなく地域の方々の声の聞き取り

【評価と課題】

- ①達成した（担当を中心に取り組み充実と即時性を図った。）
- ②達成した（学校・学年・学級の便りは共に充実していた。）
- ③達成した（行事等で保護者や地域の方々へのアンケートを実施し意見の反映を心がけた。）

沼間小学校【目標】

- ①年間通した学校状況の適切な公開を進める。
- ②ホームページの更新を月1回程度とする。
- ③地域と学校の相互理解が進むようにコミュニケーションをとる。

【評価】

- ①達成した（PTA 総会前に学校説明会を行う、学校だより・学校パンフレット等で学校状況の公開を進めている。）
- ②達成できなかった（ホームページは担当部署が定期的に取り組みず、更新が滞った。）
- ③達成した（PTA 運営委員会だけでなく、青少年育成の会、避難所運営委員会、連合町内会とのコミュニケーションが深まっている。）

【課題】

学校から地域に情報発信できるよう、PTA、学校支援地域本部、連合町内会組織等を活用していく。

久木小学校【目標】

- ①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める。
- ②学校だよりやホームページ等で学校の情報を広く伝える。

【評価と課題】

- ①達成した（年3回の地域教育協議会を開催し、学校に対する理解と協力を得ることができた。）
- ②達成した（定期的に情報発信を行った。各学級でも学級通信等を発行し、保護者へ情報提供した。）

小坪小学校【目標】

- ①ホームページの内容を精選し継続的な更新を図る。
- ②研究会や授業公開を通して学校運営に対する理解を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（ホームページについては、情報担当を中心として積極的に校内外へと情報発信をしてきている。内容の精選と更新について、継続していきたい。）
- ②達成した（保護者の授業研究会の参加者が昨年よりも増えている。学校教育への理解を深めることができた。）

池子小学校【目標】

- ①学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで、学校運営の充実を図る。
- ②情報発信の手段の特性を生かした、より効果的な発信を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（学校だよりの地域への配布を継続し、情報発信を積極的に行った。）
- ②達成した（「学校へ行こう週間」案内を市内掲示したり、幼稚園に配布するなど取り組みを拡大した。）

逗子中学校【目標】

- ①学校公開日（本校では毎日）の位置づけやねらいを明確にし、保護者及び地域に対して、学校との連携の重要性を呼びかけていく。
- ②研究授業の保護者・地域への公開を実施する。
- ③情報を積極的に発信し、学校だよりの工夫：目で見える教育活動を実施していく。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（本校では毎日が公開日としている中で、実際には生徒の特別な活動や発表などがないと、保護者の来校はほとんどない。（PTA活動があった日には、ご案内の声かけをし、授業参観を促している。）
- ②達成できなかった（今年度の具体的な取り組みとしては、学校・学年だよりによる情報提供が中心となっている。保護者が、来校・参観の必要性を感じるまでに至っていない現状を、どのように受けとめ分析していくべきかが課題である。）
- ③達成した（学校だよりは、内容も発行数も安定している。今年度は、結果・記録報告よりも、諸活動の進捗状況について重点をおいた記事を掲載した。タイムリーさを大切に取り組んできた。）

久木中学校【目標】

- ①情報発信の内容や方法について地域の方々からのご意見・感想を集め、改善に努める。
- ②定例会や各団体主催の行事などに積極的に参加していく。また地域清掃等の地域との協働も進める。

【評価と課題】

- | | | |
|----------------|---|---|
| ①達成した
②達成した | } | 地域教育協議会、地域の会などから意見・感想をいただき改善に努めた。地域行事に積極的に参加するとともに、様々な協働に努めた。 |
|----------------|---|---|

沼間中学校【目標】

- ①P&T（ペアレント＆ティーチャー）活動をさらに活性化するようはたらきかけ、PTAへの移行を具体的に検討する。
- ②諸課題への具体的対策の実践、公開および協力の呼びかけを行う。
- ③情報発信（学校だより、ホームページ等）の充実を図る。

【評価と課題】

- ①達成した（活性化は達成したが、PTAへの移行の課題が新たに認識されたので、その検討に止まった。）
 - ②達成した
 - ③達成した
- } （ホームページの刷新、学校案内の制作等、大幅に進んだ。）

② 地域教育力の活用～学校支援地域本部の設置～

【 目 標 】

都市化や核家族化、少子化の進行は、地域の連帯感を希薄にし、地域の教育力を低下させる要因の一つとなっています。しかし、本来、地域には多彩な人的・物的なリソース（資源）があり、それを教育に生かすことは重要です。

地域の貴重なリソースを学校に取り込み、教育活動の充実を図ること、また、地域の中で子どもが豊かに育つことを大切にしていきたいと考えています。

これまで、市としてボランティアによる学校支援システムを立ち上げ、学校支援ボランティア登録制度を充実させてきました。既に各学校では、このボランティアを「総合的な学習の時間」や読書活動の推進などの教育活動の中で活用していますが、さらに、2009年度（平成21年度）に、市立小中学校全校で立ち上げた学校支援地域本部を、日常的な学習の場面や各種の行事、クラブ・部活動などでも、有効に活用していきます。

各小中学校における平成23年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①地域協議会の活動の充実
- ②サポート通信の発行
- ③学校支援地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実

【評価と課題】

- | | | |
|-------------------------|---|--|
| ①達成した
②達成した
③達成した | } | 【学校支援地域本部事業のなかで実施できた。
今年度は『逗子小ガイド』を作成し、地域との連携も進んだ。】 |
|-------------------------|---|--|

沼間小学校【目標】

- ①学校支援に関わるコーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する。
- ②ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める。
- ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする。

【評価】

- ①達成した（地域コーディネーターが積極的に動き、活動が根づくものになってきている。）
- ②達成した（学校も積極的に準備段階から関わりをもって進めている。）
- ③達成した（コーディネーターとの連携もスムーズになってきている。）

【課題】

地域コーディネーターを支える人的資源の育成に取り組んでいきたい。

久木小学校【目標】

- ①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援・学校環境整備支援活動を進める。
- ②芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う。

【評価と課題】

- ①達成した（学習ボランティアの活用により学習支援を進めることができた。発展として豆腐作り・味噌作り等の活動ができ、地域との交流が深まった。）
- ②達成した（芝生化 2 年目となり継続的な取り組みを進めた。維持管理について市教委・地域と連携し、より良い方法を検討することが課題である。）

小坪小学校【目標】

- ①地域コーディネーターとの連携を図り、小坪地域の特色を生かした人材活用を計画的に進める。
- ②地域の方々、児童、教職員が共に育ち合う活動に計画的に取り組む。

【評価と課題】

- ①達成した（学校支援地域本部の内容の再確認を行った。また、地域コーディネーターとの連携を密にするため、年間計画の確認や取り組み方の連絡を取り合い、事業を円滑に進めることができた。）
- ②達成した（年間を通して多くの地域講師に来ていただけるよう校内で活動計画づくりをして取り組んだ。）

池子小学校【目標】

- ①学校支援地域本部と学校との円滑な連携を目指す。
- ②保護者や地域に求める活動の見直しを図り、より意義のある連携を推進する。

【評価と課題】

- ①達成した（学校支援地域本部に新たに老人会の方に入っただけなど、連携を深めることを意図したメンバー構成に努めた結果、活動がさらに充実した。）
- ②達成した（地域特性から活動を見直し、地域の活性化は十分なので、学校の環境整備を中心に活動していただき、結果として、より意義深い活動が展開された。）

逗子中学校【目標】

- ①地域の担い手としての生徒の育成を図り、地域行事に参加させていく。
- ②学校関係者評価委員・学校評議員・PTA 役員との連携を強化していく。
- ③学校支援地域本部における、地域コーディネーターの役割を明確化していく。

【評価と課題】

- ①達成した（地域における存在感を自覚した学校生活のもと、様々な地域行事に参加することができた。地域の方から、お褒めの言葉をいただく場面もあった。）
- ②達成した（各会ともその主旨を重んじた中で、学校運営に直接活かしていけるよう、次回への課題解決につとめてきた。）
- ③達成できなかった（事業としては、生徒が主体となって担当教師がまとめて形に残していく方式だったので、地域コーディネーターの方に企画・運営を手がけてもらうための十分な話し合いを継続的に持てていなかった。）

久木中学校【目標】

- ①学校支援地域本部が学校支援、地域連携の中心として確立し、地域コーディネーターと学校側の連携が進められている。
- ②学校支援地域本部の活動について積極的に情報発信して、地域・保護者等から具体的な学校支援や協力を得られている。

【評価と課題】

- | | | |
|-------|---|---|
| ①達成した | } | 【地域コーディネーターとの連携、支援本部の活動を進めた。教員側が中心で行っている部分を改善していきたい。】 |
| ②達成した | | |

沼間中学校【目標】

- ①地域講師等地域力による支援体制の整理・充実に向けた計画づくりを行。
- ②地域教育協議会の企画・運営によって、学校支援地域本部が 地域主体で活動を始めるよう具体的支援活動を計画・実践する。

【評価と課題】

- ①達成した（支援体制の計画までは進んだが、対象となる生徒がおらず、具体的な計画までには至らなかった。）
- ②達成した（地域主導型に返ることができた。）

③ 学校評価を生かした学校の改善

【 目 標 】

現在、学校はその教育活動全体について、絶えず自己点検・自己評価を行い、その結果を適切に分析、改善することで、教育の質を向上させていくことが求められています。そのため、学校運営の状況について保護者や地域住民等に対して積極的に情報を発信し、説明責任を果たして、社会の期待と信頼に応える学校づくりを目指していかなければなりません。

さらに、学校の自己評価に基づいた学校関係者評価に取り組み、評価の視点や重点をしぼり、児童生徒・保護者・地域の方々による適切な評価を実施し、更なる教育活動の向上に取り組みます。

各小中学校における平成23年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①検討された評価項目等による学校評価の実施
- ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善
- ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進

【評価と課題】

- ①達成した
 - ②達成した
 - ③達成した (DENの作成やサマースクール・サマーコンサート等で行った。)
- *DEN：各階に置かれた子どもの為の隠れ家、基地のようなもの。

沼間小学校【目標】

- ①重点を絞った目標設定をして取り組む。
- ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める。
- ③学校評議員、学校関係者評価員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学級改善を図る。

【成果】

- ①達成した
 - ②達成した
 - ③達成した
- (職員の意識変容が進み、学校評価の理解が深まってきた。)

【課題】

学校評議員、学校関係者評価委員にも学校の現状をよく理解していただき、学校改善への力となっている。

久木小学校【目標】

学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす。

【評価と課題】

達成した（年間 3 回の学校関係者評価委員会を開催し、評価をいただいた。それに基づき学校運営の改善を進める。）

小坪小学校【目標】

①評価結果を公開し、広く意見を求め学校の改善につなげる。

②活動を公開し、改善の取り組みに理解や支援を求める。

【評価】

①達成した（児童・保護者・教職員にアンケートをとり、その結果を学校関係者評価委員会、学校評議員会、職員会議等で、今後の課題として話し合った。また、その結果を学校便り、ホームページ等で積極的に伝えることができた。）

②達成した（学校評価のあり方やアンケート内容について教職員で話し合い、課題解決に向けてさらに工夫改善を図っていききたい。）

【課題】

評価結果を見るだけでなく学校全体で学校評価に取り組む必要がある。

池子小学校【目標】

①学校教育目標との関連という視点から、引き続き評価項目や評価方法の改善に取り組む。

②学校評価に基づく改善点を明らかにし、保護者・地域と課題を共有できるようにする。

【評価と課題】

①達成した（評価項目については地域対象の評価項目を検討し、配布方法を工夫した結果、昨年を上回る回答を得ることができた。しかし、学校教育目標との関連という視点は学校関係者以外には難しいようであった。今後さらに、学校改善につながるような評価項目を検討していききたい。）

②達成した（学校関係者評価委員の方々具体的な取り組みを説明し、忌たんのないご意見をいただく中で、学校の課題が共有できた。）

逗子中学校【目標】

①学校目標との関連を明確にしつつ、視点や重点を明らかにした目標や、評価項目を設定して評価のポイントを絞り、実効ある評価活動を実施していく。

②学校の自己評価に基づいた、学校関係者評価を生かし、具体的な学校改善を行うとともに、開かれた学校づくりの推進を図っていく。

【評価と課題】

- ①達成した（学校目標とどのように関連しているのか、その達成のためにどのような手立てをとっていく必要があるのか、その評価が必要と考えられる場面において、実効を求めた積極的な取り組みを実施してきた。）
- ②達成した（助言・指導を受けたことについては、次回までを最短目標にして、その一方では年間を通じて計画的な具体策を講じ、実効を果たしているように、開かれた学校づくりの推進につとめてきた。）

久木中学校【目標】

- ①生徒・保護者向けアンケートの内容や、回数などを検討するとともに公開の方法を改善する。
- ②学校評価の作成について年間の日程を再検討し、自己評価の作成時期、改善方法の作成、学校関係者評価委員などの外部からの意見を取り入れ学校評価としてまとめる時期を確定する。

【評価と課題】

- ①達成した（公開の方法として、ホームページなども利用したい。）
- ②達成した（例年と同じ時期となったが、教職員の反省の時期を受けて実施すると、速く進めることは難しい。）

沼間中学校【目標】

- ①視点、重点を明らかにした評価項目設定と、それに基づいた教育活動向上への実践提言による改善を実行する。
- ②学校評価に基づいた改善点実践に対しての検証を行い、年度末に学校関係者評価委員会にて報告し、保護者にも公開する。

【評価と課題】

- ①達成した
 - ②達成した
- } （本校の一連のサイクルが定着し、学校経営にも反映できた。）

〈教育委員会分析結果〉

1 平成23年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

●学校支援地域本部事業

逗子小学校⇒ボランティア（学校図書館、読み聞かせ、生命の森植樹作業）、サマースクール、サマーコンサート、プロジェクション・マッピングショー、DENの製作、逗子小ガイドの編集など

沼間小学校⇒稲作、学校大掃除、草刈り、校内ペンキ塗り、校内緑化、裁縫（ミシン・手縫い）支援、長柄・桜山古墳見学（古墳を守る会）、被ばく体験講演、邦楽体験、車いす体験、全校ウォークラリー、七夕集会、灯籠づくり、校外学習支援、音楽療法、登下校見回り、図書貸し出し、読み聞かせなど

久木小学校⇒登下校見守り、学校図書館、読み聞かせ、大豆づくり、豆腐づくり、味噌づくり、工場見学、稲作、グリーンサポーター、久小わくわくフェスティバル、昔遊びなど

小坪小学校⇒読書活動支援（図書室当番、朝の読み聞かせ）、逗子音頭の講習（小坪長生会）、小坪地域安全マップづくり（小坪交通安全協議会）、着衣泳（豊泳会）、登下校見守り（小坪見守り隊）、サマースクール、ボランティア（運動会前日清掃、交通安全教室、自転車安全教室、ミシン、津波避難経路環境整備、鎌倉学習、学校へ行こう週間受付とパトロール）など

池子小学校⇒音楽療法、長柄・桜山古墳見学（古墳を守る会）、邦楽鑑賞会（逗子三曲会）、稲作（名越里山の会）、お話会（池小お話会）、アースデイ池子（PTA、地域各団体）、着衣泳（豊泳会）、クリーンアップ（図書室塗装、校庭清掃、花壇整備）、生活科秋みつけ（理科ハウス）、地域作品展、紙飛行機大会（ズシッ）、昔遊び（ズシッ）、2分の1成人式（卒業生）など

逗子中学校⇒環境活動（ホタル部の活動、地域清掃、地域講師授業）、ボランティア（敷地内草取り、マラソン大会、図書室、逗子ホームせせらぎ訪問）など

久木中学校⇒ゲストティーチャーの招聘（情報モラル教室、リラクゼーション講習会、熱中症予防講習会、食育講習会、味覚教室、法律教室、進路講演会、国際理解ふれあい教室、お料理コンテスト、他）、地域清掃、部活動指導など

沼間中学校⇒ふれあいデー（地域講師、積み木でアンコールワット）、沼中花いっぱい計画、沼中ぴっかぴか計画、サマーチャレンジ、ダンス発表会、学習支援（調理実習、栽培実習、柔道授業、ダンス授業）、地域清掃など

●学校支援ボランティア(5,744人)

●学校評議員事業

●学校関係者評価事業

(2) 主な指導内容

- ▲学校評議員会報告書の提出
- ▲学校関係者評価の報告書の提出
- ▲学校支援地域本部実行委員会の開催
- ▲地域教育協議会の設置
- ▲ホームページの充実

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価 (項目別達成率 94%)

(2) 主な成果等

【情報発信】

- ・ホームページや学校だより、学校説明会等、情報発信に努めた。

【地域教育力の活用】

- ・各学校に学校支援地域本部で地域教育協議会が立ち上がり、そのメンバーが学校評議員の一員となって、学校長の求めに応じて学校運営に関し意見を述べる等、地域との協働による学校づくりに向けた取り組みが進んだ。
- ・学校支援ボランティアを活用した学習の取り組みが進み、ボランティアの延べ人数が前年度に比べて大幅に増えた。
- ・実行委員会を年間3回開催し、情報交換や方向性の確認を行った。

【学校評価】

- ・学校評価から見えてきた課題を、24年度の学校教育総合プラン実施計画に反映し学校運営の改善を図った。
- ・学校関係者評価を活用して学識経験を有する評価委員等の意見を自己評価の結果に加味して改善策を打ち立て、次年度の具体的な改善につなげることが出来た。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価 [A]

コメント 全学校の学校支援地域本部の活動が活性化しており、地域との協働による学校づくりに向けた取り組みが進んでいる。

(2) 主な成果等

【情報発信】

- ・全ての学校で保護者向けのメール配信サービスが行われるようになる等、保護者や地域に向けての情報発信がきめ細やかになされている。

【地域教育力の活用】

- ・各学校にて学校支援地域本部事業が活性化し、学校教育支援ボランティアを活用した学習の取り組みは年々増加の一途をたどっている。また、実行委員会で情報交換や方向性の確認を行った。
- ・学校のスリム化を図る方向での地域との協働による学校づくりも進めたい。

【学校評価】

- ・「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅱ期）」で学校評価の整理を行った。

4 平成24年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

（1）地域教育力の活用

- ・学校支援地域本部が自立的な組織となることを目指す。
- ・各学校がもっている情報やネットワークを共有化（市内の人材リストの作成）の充実を図る。
- ・地域コーディネーターのスキルアップを図る。

（2）学校評価

- ・より一層評価の具体化を図り、学校改善により良く生かす学校評価を推進していく。
- ・これまでの学校評価の結果を、学校教育総合プランの第Ⅲ期改定に生かす。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

「学校を開く」ということは 10 年程前から活発化してきた流れであり、その地域の実情に応じていろいろな実施形態が見られます。逗子市でも各学校においてその校区の特徴を生かし、子どもの発達段階に応じた取り組みが進められていることが伺われます。学校には地域や保護者からいろいろな要望が集まりますが、これはいい意味での期待と捉えたいと思います。その上で、学校ができることはどこまでなのかということについて、双方で共通理解を図らなければいけません。教育活動に支障が出るような「地域に開かれた学校」になつては本末転倒だと思えます。

昨年度も指摘したことですが、「地域への情報発信」に係って、ホームページの更新はこまめにし、情報発信をすることは大事ですが、そのために委員会として人的・予算的措置を充分に行っているのかということが気になります。

『学校評価ガイドライン』（文部科学省、平成 22 年 7 月改訂版）で、「自己評価は、学校評価の最も基本となるものであり、学校長のリーダーシップの下で、当該学校の全教職員が参加し、設定した目標か具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うものである。」としています。また、「学校関係者評価は、保護者、学校評議員、地域住民、青少年健全育成関係団体の関係者、接続する学校（小学校に接続する中学校など）の教職員その他の学校関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本として行うものである。」としていることに留意する必要があります。「学校評価」は、学校に「意見する」という意識ではなく、一緒にどういうふうに学校を良くしていくかという意識で取り組むべきです。そうでないと評価が疲弊していきます。そのために、まず、各校とも行っている保護者アンケートについて再考してみてください。「評価」という言葉が独り歩きしないように、「エバリュエーション（値踏み）」ではなく「アセスメント」としての評価ができるような取り組みを考えて下さい。評価する者がそれぞれに、自分が学校に対して何ができたかを書いていく評価ができるといいと思います。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

家庭や地域社会から信託が得られるような学校運営を展開するためには、学校からの情報発信の充実のもとより、日々の教育活動の公開、保護者や地域住民を巻き込んだ学校運営、地域の教育力を活用した教育活動の充実等が大切です。

地域への情報発信と学校公開の工夫について、全学校が昨年にも増して創意工夫を図った情報発信に努めていることが伺えます。HPの毎月更新、学校だより、学年だより、学級だよりを毎月作成し、保護者や地域住民等に配布するなど大変な労力を費やして、家庭・地域社会との相互理解を深める努力が見られます。また、非常事態に備えて、全ての保護者にメール配信が出来るシステムも取り入れ、情報の共有化に努めている姿も見られます。

HPを拝見しますと、各学校の特色を生かして作成されており、例えば、児童・生徒の教育活動の様子、月ごとの教科指導や児童・生徒指導の目標を中心に作成されているもの、或いは、学校行事の様子を中心に作成されているもの、また、非常災害が発生した際の対処の仕方などを掲載されたものなどもあり、普段、なかなか学校に来られない保護者や地域住民の方に配慮されています。学校によっては、人手不足と多忙から毎月の更新が難しいところもあるようです。HP作成には相当の時間を要することから、教職員の負担軽減を図るためにも、教育委員会に、専任のHP担当者の人的配置及びそれに係る予算の増額を期待します。

地域教育力の活用について、学校支援ボランティアが5,744人と多数の方が学校の教育活動に関わっており、近隣の市町には見られない素晴らしい取り組みと言えます。こういう方々の声を学校運営の質的改善に役立てていただければと思います。特に、各学校とも学校支援ボランティアを活用した教育活動が多数展開されていますが、教育課程の位置付けやねらい、教師とボランティアとの役割分担、授業時数の確保等について明確にしておくことが大事かと思います。

学校評価を生かした学校の改善について、各学校が学校運営の質的改善を目指して、学校評議員会や学校支援ボランティア、地域協議会、学校関係者評価委員の意見等を踏まえて、昨年度を基に、評価視点、評価項目、評価方法、評価時期等の見直し・改善を図り、実効性のある評価活動に努めていることが伺えます。こうした取り組みによって、教職員の学校運営参画意識、児童・生徒の教育活動への関わり方、地域住民や保護者の学校に対する見方等がどう変容したかを追求し、改善すべきことを明確にし、より質の高い学校運営を目指していただきたいと願います。

Ⅲ 教員の指導力向上

<目 標>

教育において、教員一人ひとりが専門家としての高い指導力と教育に対する情熱と使命感、そして豊かな人間性を持って教育に打ち込むことが大切です。一人ひとりの力量を高めることで教員、ひいては学校全体の信頼を高めることにつながります。

1 教員研修・研究の充実

① 授業研究の充実

【 目 標 】

学校教育において、中心となるのは授業です。授業は、教育の専門家である教員の計画により、子どもの自発的な探究活動を重視して展開される学習活動です。授業を行う教員には、優れた授業計画と実践力が求められます。

学習指導の充実に向けた校内研究は多岐にわたりますが、その支柱をなすものは授業研究です。その中心となる研究授業では、視点を明確にし、提案性のあることが重要なポイントとなります。

また、授業者だけでなく全員が積極的にかかわり研究を推進し、成果を共有することに大きな意義があります。

授業研究の活性化を図り、質の高い授業づくりを推進するためには、外部講師の招聘や他校の研究授業や研究発表への積極的参加が必要となります。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う。
- ②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める

【評価と課題】

- ①達成した（研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。また、夏季休業中の取り組みとして文化教育ゾーンの施設活用を図った。）
- ②達成した（研究全体会等で指導助言等をいただき、その後の授業に活かすよう心がけた。）

沼間小学校【目標】

- ①授業研究の日常化を目指す。
- ②外部講師を招へいし、授業研究を開いた形で進める。
- ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。

【評価】

- ①達成した（校内研究については全職員で取り組み、充実した。）
- ②達成した（算数・国語・児童理解について、専門の外部講師を招へいした。）
- ③達成した（校内研究会や研修会を公開し、本校以外の方も参加した。）

【課題】

次年度はかながわ学びづくり研究推進校としてさらに研究を深めていく。

久木小学校【目標】

委託研究推進校として取り組んだ成果を研究発表会において発表する。

【評価と課題】

達成した（委託研究発表会を開き、2年間の研究成果と課題を発表することができた。次年度も授業研究を中心とする校内研究を継続する。）

小坪小学校【目標】

- ①校内研究に取り組み、教師の授業力の向上をめざす。
- ②人権教育の指定研究に取り組む。
- ③外部講師の活用を積極的に行う。

【評価と課題】

- ①達成した（昨年度に引き続き、校内研究では「コミュニケーション力」の向上を目指して取り組んだ。お互いの研究授業を見合い、研究討議を重ね内容を深めることができた。）
- ②達成した（人権教育の指定研究発表に向けて全学年で取り組み、子ども達が「人権感覚」を身につける事ができるような授業を実施した。また、それらの実践内容を指定研究「人権教育発表会」で報告することができた。）
- ③達成した（外部から講師を計画的に招へいし、児童の見方や具体的な指導法について学ぶことができた。）

池子小学校【目標】

- ①研究テーマに基づき、6年間で育てたい力を明確にする。
- ②校内研究を通して教員個々の指導力の向上を目指すとともに、チームとしての協働の意識を深める。

【評価と課題】

- ①達成した（研究テーマについて再度共通理解を図る場を設け学校全体として6年間で取り組む方向性を再確認することができた。）
- ②達成した（ブロックを研究の単位とすることで、学年のつながりを意識し

た単元計画の設定や指導のあり方が検討されるようになってきた。)

逗子中学校【目標】

- ①研究授業の積極的実践（1人年2回）を実施していく。
- ②保護者・外部者による授業評価を実施していく。
- ③教科会の充実を図っていく。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（今年度においては、次年度からの新学習指導要領全面実施の準備のために後れをとってしまったのか、各自が年に二回という回数は達成できていない者が多かった。）
- ②達成した（授業参観日は勿論のこと、外部評価を積極的に求めてそれを集約し、個々の授業者および教職員全体へ課題提起を試みてきた。）
- ③達成した（毎週一時間ずつ、各教科における打ち合わせが時間割内で保障される中、授業内容の充実と指導力の向上を目指した情報交換などが行なわれ、有効に活用することができた。）

久木中学校【目標】

- ①わかりやすい授業への取り組みを校内研究、課題研修の実践により進めている。
- ②研究会が充実し、指導助言により授業力を向上する。
- ③教科会により教科ごとの授業改善を進める。

【評価と課題】

- | | | | |
|---|-----|------------------------------------|---|
| <ol style="list-style-type: none">①達成した②達成した③達成した | } { | 委託研究を進める中でそれぞれの目標に向けて、十分努力
できた。 | } |
|---|-----|------------------------------------|---|

沼間中学校【目標】

- ①校内研究会の充実を継続させる。
- ②来年度にむけたシラバスを研究する。
- ③小中連携の下に、学区内小学校の研究協力者を活用し、授業改善のための研修を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（教育課程部と支援部、総務部の連携の下、年間10回の研究会を実施できた。）
- ②達成できなかった（評価基準の課題を提示することができた。）
- ③達成した（講師を年間5回招へいし、研究テーマに沿った言語活動を取り入れた授業づくりについて研究・研修した。）

② 授業評価の活用

【 目 標 】

子どもが「自ら取り組む」「わかりやすい」授業を実現するためには、日々の授業改善が必要です。そのために多くの教員が、よりよい授業づくりに向けて、絶え間ない努力や研鑽を重ね、教員一人ひとりの力量を高める必要があります。

学校の自己評価がよりよい学校づくりに資するために行われるように、授業についても他の教育活動と同様にねらいを明確に示し、実践を積み重ね、評価を行い、改善を進めていくことが大切です。

授業評価は、「よりよい授業づくり」を目指して行われ、その結果が次の計画や授業実践に生かされるとともに、子どもたちの「確かな学力」を育むための一つの方法です。

日常の授業を質的・量的（数值的）に評価し、指導に生かしていく体制づくりと、授業評価の活用に向けた教員の意識改革を進めます。

1 各小中学校における平成23年度の取り組み目標

逗子小学校【目標】

- ①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てる。
- ②外部講師による授業評価を生かした授業作り。
- ③児童の学力把握の調査結果を生かした授業作り。

【評価と課題】

- ①達成した（授業参観や「学校へ行こう週間」などの際に、授業に関する評価を保護者にしてもらい、以後の授業に生かした。）
- ②達成した（研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう取り組んだ。）
- ③達成した（今年度も学習状況を把握し、活用を図った。）

沼間小学校【目標】

- ①学習状況調査の分析を活用する。
- ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る。
- ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（基礎的基本的な内容の定着にさらに力を注いだ。）
- ②達成した（教員相互による授業評価に取り組み、職員の意識改革が進んだ。）
- ③達成できなかった（授業評価の視点を絞って取り組むこと、子どもによる授業評価を活用することに取り組みたい。）

久木小学校【目標】

評価規準を活かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う。

【評価と課題】

達成した（引き続き実践・検討を進める。「あゆみ」については、観点別評価項目とし、評価規準を一層意識した授業づくりをすすめる。）

小坪小学校【目標】

- ①視点や協議の観点を明確にした授業研究に保護者の参加を促す。
- ②児童相互の授業参観を行い、児童の評価活動を授業改善に生かす。
- ③外部講師による授業評価の計画的な実施。

【評価と課題】

- ①達成した（年間を通じた取り組みを通して、授業研究方法の充実を図ることができた。また、研究授業に保護者の参加を促し、より多くの方に参加いただき、本校の取り組みを説明することができた。）
- ②達成した（昨年度に引き続き、児童相互の授業参観を実施し、児童の評価活動を授業改善に活かす取り組みができた。）
- ③達成した（外部講師の計画的な招へいにより、適宜、授業の指導講評をいただくことができた。）

池子小学校【目標】

- ①保護者・地域と連携しながら、学校の教育力の向上につながるような評価のあり方を引き続き検討していく。
- ②授業改善につながるような評価のあり方を引き続き検討していく。

【評価と課題】

- ①達成した（学校関係者評価委員の方に、研究授業や研究全体会に参加していただき、「保護者や地域の方」からの視点で授業を評価していただくことができた。数値化という点では難しかった。）
- ②達成した（今後の授業改善につなげていけるよう、保護者・地域から頂いた意見を共有した。）

逗子中学校【目標】

- ①多様な観点から授業評価を行い、評価の幅や精度の向上を図っていく。
- ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」から、視点や観点を明確にし、授業研究を充実させていく。

【評価と課題】

- ①達成した（言語活動や自己表現活動の充実を目指すために、各教科内で有意義な取り組みが進められていた。特に少人数担当教科においては、指導案の検討や実践の工夫・改善に向けた話し合いがなされていた。）
- ②達成した（授業は生徒の協力と授業者の創意工夫がなされた結果、その相

互関係が良好であって、充実した授業創りが果たせるものと意識し合えている。授業に対して事前・事後評価までを充実させることにより、更なる深化が果たせるものとする。）

久木中学校【目標】

- ①授業評価を積極的に進め、授業改善に反映している。
- ②授業公開等の機会を利用して、多くの方々からの授業評価を得て、よりよい授業づくりを進めている。

【評価と課題】

- ①達成した
 - ②達成した
- } (それぞれ実践できた。しかし今後も継続していくことが重要である。)

沼間中学校【目標】

評価結果の考察から、自らの授業の改善策を講じ、再度、授業評価によって検証する。

【評価と課題】

達成した（授業評価を実施し、その結果から課題を見つけ、その解決方法を考え、授業改善に役立てた。）

③ 地域教材の積極的活用・開発の促進

【 目 標 】

市立小・中学校は、地域に根ざした学校であり、地域には学習に生かせる多くの素材・教材があります。子どもたちに身近な素材・教材ということから、観察や見学という体験的学習ができる授業となり、より具体的な、深い学習となっていきます。

また、これらの地域の素材・教材をもとに作成されたデジタル教材の活用が「わかる授業づくり」の一つとしてあげられます。デジタル化した教育用コンテンツを充実させることにより、教師の指導力の向上につながり、子どもたちにとっても、楽しくわかりやすい授業になります。

さらに、開かれた学校づくりの視点から、外部人材を積極的に活用し、地域社会の教育力の向上が図れるような環境づくりを進めます。

各小中学校における平成23年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①新学習指導要領の内容を踏まえた教材開発に努める。
- ②他校との情報交換や実践交流に努める。
- ③様々な研修の報告を行い、情報の収集に努める。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（個人レベルにとどまっており、学年・学校全体にまでは至っていない。）
- ②達成できなかった（逗子教育研究会の部会程度でしか取り組めなかった。）
- ③達成した（復命を回覧することを意識づけるよう取り組んだ。）

沼間小学校【目標】

- ①地域素材活用のため、講師を招へいしての研修会を開催する。
- ②地域の郷土資料館を積極的に活用する。
- ③身近な人材発掘を行い、授業に役立てる。

【評価】

- ①達成した
 - ②達成した
 - ③達成した
- 郷土資料館の積極的な活用や身近な人材発掘ができ、授業に役立てることができた。

【課題】

夏季研修会や保護者・地域と連携協力して研修会ができたが、さらに広げていきたい。

久木小学校【目標】

- ①地域素材を取り入れた授業づくりを進める。
- ②研修会等の機会を利用し、地域素材の開発を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（中学年の地域学習、6年の歴史学習・総合的な学習の時間において地域素材を活用した授業を展開した。また社会科では地域の方やかながわ考古学財団職員を招いて地域の歴史を学習した。）
- ②達成した（地域の素材を活かした授業づくり」講座を設け、職員研修を行った。継続して取り組む予定である。）

小坪小学校【目標】

- ①市内の学校と連携し教材の共有化を図る。
- ②地域教材を使って授業の改善を図る。
- ③小坪風土記を使った単元開発に取り組む。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（市内学校との連携した教材共有化については、なかなかお互いの都合がとれずできなかった。）
- ②達成した（サマースクールをはじめとして、各学年に於いて地域講師を積極的にお願いし、地域素材（小坪の自然、史跡）を利用した授業を行うことができた。）
- ③達成した（4年生での副読本の利用が定着化してきた。）

池子小学校【目標】

- ①地域素材の教材化を図るため、講師を招き研修会を実施する。
- ②郷土資料室を活用した授業とともに、さらなる活用の仕方について検討する。

【評価と課題】

- ①達成できなかった（今年度は地域をテーマにした授業を構想するために講師を招いて研修する機会を得ることはできなかったが、来年度に向けて学校支援地域本部と連携し研修の機会を設定する見通しが持てた。）
- ②達成した（他校が見学に来る機会が増え、本校でもその利用価値を再認識し、活用方法に広がりが見られた。今後はさらに地域講師等を活用し充実発展に努めたい。）

逗子中学校【目標】

- ①地域教材をデジタル化し、教材の制作を手がけていく。
- ②地域素材活用のため、講師を招き研修会の実施を図っていく。

【評価と課題】

- ①達成した（池子の森に囲まれる本校の立地条件の中で、自然界に深く関係

する動物、植物、様々な生息物につき、その状況や生態系の実態を、一年生理科の授業での観察が、継続して行なわれている。野鳥のデジタル資料作りが始まった中で、カメラの性能が問われるようになってきたために、その条件整備が課題となっている。）

②達成した（一年生の環境学習において、逗子の自然環境…特に河川の整備・美化がとても大切で、それが大きな役割を果たしていると講演で伝えてもらった。）

久木中学校【目標】

- ①保護者・地域の外部人材の積極的な活用を推進する。
- ②地域団体の行事、学校との協働など様々な連携を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（水質検査、環境学習など積極的に外部講師を活用できた。）
- ②達成した（地域との連携、協働を積極的に進めた。）

沼間中学校【目標】

- ①教科・学年などでの地域素材の活用について、計画作成・授業研究等を推進する。
- ②保護者・地域講師の活用について、学校独自の個性を打ち出しつつ、共有化について他校との連携を密にしていく。

【評価と課題】

- ①達成した
 - ②達成した
- 1年生のビーチコーミングや保健体育のダンスの授業などで、実現できた。ダンスについては、逗子教育研究会の体育部会を通じて、小学校も含めて共有化を図ることができた。

④ 研修事業の充実

【 目 標 】

一人ひとりの教職員がより一層専門性を高め、その力を最大限に発揮しながら学校の組織力を高めることが益々重要になってきています。そのため、校内においても様々な研修活動が計画され、教育研究所においても教職員のニーズに応える研修を進めています。教職員はこれら学校内外での研修会に積極的に参加し、質の高い授業づくりを進めています。

また、現在、教員の大量退職と大量採用の時代にあって、ここ 10 年の間に多くの教員が入れ替わります。そのため、教員の人材育成を着実に進めていくために、学校内において OJT を組織的に推進していきます。OJT は、職務を通じた研修であり、すべての教員を対象として、身に付けるべき力を、意識的・計画的・継続的に高めていく取り組みです。教員一人ひとりが職務遂行能力の向上を図ることで、学校全体として質の高い教育を提供することができます。

各小中学校における平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

逗子小学校【目標】

- ①各自が積極的に授業公開を行う。
- ②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す。
- ③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる。

【評価と課題】

- ①達成した（校内研究推進において授業公開を行った。）
- ②達成できなかった（自己観察書を書く段階で自分の課題を各自が把握していたが、それに応じて研修を積極的に受けるまでには今年度も至らなかった。）
- ③達成した（初任者の育成には学校全体で取り組んだ。）

沼間小学校【目標】

- ①OJT（職場における教育や訓練）を主とした校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める。
- ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく。
- ③市学校教育課、県教育委員会主催の研修を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す。

【評価】

- ①達成した
 - ②達成した
 - ③達成した
- （意図的に教職員全員で取り組んでいることから、成果が見える。）

【課題】

研究会・研修会を大事にして、学ぶ意欲と姿勢をもって進めていきたい。

久木小学校【目標】

- ①初任研、年次経験者研修において校内協力体制を作り、研修指導にあたる。
- ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する。
- ③逗子市教育指導員を積極的に活用する。

【評価と課題】

- ①達成した（計画的な研修が実施できた。）
- ②達成した（研究所夏季研修等に積極的に参加する教職員が増えている。地域を知るための研修にも参加し、素材開発に有効であった。）
- ③達成した（臨任・非常勤の授業力向上のため、今後も積極的に活用したい。）

小坪小学校【目標】

- ①校外の研修への参加を促し、専門的力量的向上を図る。
- ②現職教員の資質を生かした校内研修を計画的に行う。
- ③児童指導に関する研修を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（校内外の研究を充実することにより、研究内容も深まり、計画的な研究ができた。）
- ②達成した（特に他校の研究発表会に参加し、それらの内容を共有できたことは、校内研究を進める際に参考となった。）
- ③達成した（児童指導・支援については、計画的な研修会を設定し、全教職員で取り組んできた。今後さらに、支援教育を必要とする子ども達についての研修を深めていきたい。）

池子小学校【目標】

- ①新学習指導要領を実施する中で、さらに研修の時間確保を工夫し、確保する。
- ②校内研修の成果が学校全体の指導力の向上につながるように、組織的に取り組む。

【評価と課題】

- ①達成した（学年会の中でできる限り、ブロック研究の時間を取り、校内研究について学びを深めたり、2学年にわたる教材研究を行ったりする機会を設けることができた。）
- ②達成した（研究授業のための研究ではなく、研究テーマについて日々の授業の中で取り組む意識が醸成されてきた。今後はさらにねらいを明確にした授業を心がけたい。）

逗子中学校【目標】

- ①校内研修会を通して、研修内容の報告の共有化を図っていく。
- ②研修・研究会・担当者会等での情報を職員で共有する取り組みを行うよう、教職員の意識の高揚を図っていく。

【評価】

- ①達成した（毎月一度行われる校内研修会において、全体主題に迫るために、四つのグループ活動で共同研究を進めた。今年度末には、それを一つの冊子にまとめることができた。）
- ②達成した（希望参加の研修会については、能率よく迅速に取り組みを進めるようになって来ている。連絡事項などについても、その他についてもグループウェア利用の充実と徹底を図ってきた。）

久木中学校【目標】

- ①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの校内研修を計画的に進める。
- ②市、県の主催する研修について個々の経験、職務に応じた研修会への参加を促す。
- ③校内での自主的な研修会の実践を促す。

【評価と課題】

- ①達成した（委託研究を通じて実践できた。）
- ②達成した（指定研修を受講する教職員が多く、自主的なものは少なかった。）
- ③達成した（十分ではないが実践を進めた。今後の継続が重要である。）

沼間中学校【目標】

- ①小・中合同研修会を実施し、相互理解を深める。
- ②危機管理意識、情報モラル等の今日的課題について研修会を設定する。

【評価と課題】

- ①達成した（「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の共同研究で実施した。）
- ②達成した（毎月職員会議前に事故防止会議で実施できた。）

〈教育委員会分析結果〉

1 平成23年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 研究推進校委託事業
- 校内研究事業
- 教育講演会

「校区ではぐくむ子どもの力～小中連携で取り組む児童生徒指導」

国立教育政策研究所 生徒指導研究センター統括研究官 滝充 氏

- 教育指導教員派遣事業
- 学校教職員研修資料費

(2) 主な指導内容

- ▲初任者研修、OJTによる若手教員研修の充実
- ▲夏季研修、授業力向上研修
- ▲臨任・非常勤教員への研修

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価 (項目別達成率 91%)

(2) 主な成果等

【授業研究】

- ・授業研究のテーマに、「言語活動」「コミュニケーション力」「自ら学び考える力」「学びあい」「人のかかわりあい」「自分の考えを表現できる子ども」といった内容を設定し、各学校において新学習指導要領に対応するための授業研究に取り組んだ。

【授業評価】

- ・外部講師、保護者等の第三者からの視点を加味する等、多様な観点からの授業評価を行い、精度の向上を図っている。

【地域教材の積極的活用・開発】

- ・地域の人材や地域素材・教材を活用した授業実践や、そのための教職員の研修の実施が見られた。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 教員の授業力向上のために、教育指導教員の各学校への派遣や、市内全小・中学校への授業研究委託をした。

(2) 主な成果等

【授業研究】

- ・各学校におけるOJT、特に若手教員に対する組織的・計画的なベテラン教員からの指導に取り組んだ。
- ・教育指導教員派遣事業による臨時的任用教員及び非常勤講師（24名）に対する研修を、合計890回実施した。

【地域教材の積極的活用・開発】

- ・各学校が地域教材を活用できるように、地域めぐりの研修会や「逗子の自然」「わたしたちの逗子」などによって支援することができた。

4 平成24年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

研修事業

- ・初任者研修のより効果的なあり方を考える。また、校内OJTの一層の推進を図る必要がある。
- ・夏季研修、授業力向上研修の一層の充実を図り、教職員のニーズに基づいた、研修の質的向上を図る。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

「授業研究の充実」について、どの学校も熱心に取り組んでいることは充分に見てとれますが、「研究授業が目的化していないか」という問題提起をしたいと思います。2007年度から実施されている全国学力・学習状況調査の毎年のA問題（主に知識に関する問題）とB問題（主に活用に関する問題）の平均点の関係はほとんど変わっていないのですが、それが意味することは、根本的なところで授業が変わっていない、ということだと思います。学力の要素のうち、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」の育成につながるよう、取り組むべき課題を明示して、時代が求める校内研究に取り組むことを望みます。

「研修事業の充実」については、この10年で教員が大きく入れ替わるといふ時期にあって、まずは、若い先生のキャリアアップをどう図っていくかという視点から、OJTのあり方が重要になっています。先生たちの悩みや課題の相談に身近なところで応じられる年齢の近い人たちの存在と、指導力に長け適切なアドバイスを授けることができるベテラン教員の存在を大切にしたいものです。また、他校、他市、他県に出張に行き見聞を広めたり、自分たちのやっていることを相対化したりすることも大切です。しかし、これらは現在のゆとりのない学校の中で取り組むには難しいものです。教育委員会には、人的・予算的な措置をすることが求められます。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

「教員の指導力の向上」について、各学校共に短・中・長期的な目標を掲げ、目標の達成に向けた取り組みがなされ、一定の成果を上げていることが伺えます。昨年も述べましたが、平成 17 年に公表された中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」の中で、「教師のあるべき姿」として、「教職に対する強い情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」等をあげています。教師一人ひとりが、教育の目的や使命感、教育の果たす役割を十分理解し、学校運営が円滑に機能するためには、自分の果たすべき役割、得意分野をどう発揮したらよいか等を常に自覚し、教育の専門家として、教師力や人間力を高めるよう、日々研さんに努めることが大事です。このことが「指導力の向上」につながるものと思います。

とりわけ「授業」は学校教育の中心であり、教育の専門家としての力量が問われる場です。子どもにとって、「魅力ある分かる授業」「常に新鮮さを感じる授業」「楽しく学習意欲が湧き起こる授業」「生きる力を育む授業」であるかどうか問われる場です。そのためにも、「授業研究の充実」は大変重要です。各学校共に、多くの研究授業を実施し、教職員全体で授業分析をし、そこから得た成果と課題を共有の財産として、「授業改善」に向けて様々な取り組みをされており、大変結構なことです。「授業研究の充実」を目指す上で欠かせないこととして、「授業評価の活用」は大事な条件です。方法や形態は様々ありますが、大事なことは、何を視点にして授業改善に生かすかということです。各学校共に様々な工夫をしながら取り組んでいますが、こうした財産を蓄積し、パターン化することによって、子どもが代わっても、教師が代わっても指導に生かせる体制作りや環境づくりが必要かと考えます。

「研修事業の充実」については、若い教員の教師力をどう向上させるか、また、学校の核となる中堅教員のキャリアアップをいかに図るかが重要な課題と言えます。その点で、OJTによる研修は効果的な手法と言えます。論理的に裏打ちされたハイレベルの教育理念に基づいた学校運営が求められている今日、教職員のプロ意識をいかに育てるか、教育委員会や管理職の姿勢が重要となってきます。

校内研修や官制研修のみならず、質的レベルの高い様々な研修会や研究会にも積極的に参加できるような体制づくりや研究意欲の増進喚起そのための予算の裏付けについて検討することが必要です。

○社 会 教 育

1 点検・評価の実施方法

逗子市教育委員会における社会教育の充実に向け、社会教育係の所管する事業のうち、事務的経費や維持管理費等を除き、講座等の事業を中心に平成23年度の実施状況について点検・評価を実施しました。

なお、埋蔵文化財保護や史跡整備を主とする文化財保護関連事業につきましては、文化庁の示すガイドラインに沿って中長期の事業計画を策定し実施しておりますが、制度上は単年度事業として位置付けられ、年度ごとの事業の審査を経て、補助対象としての採択が決定するため、状況によっては計画どおりの事業内容で進められないこともあり、今回実施した点検・評価の対象から除外しております。

2 点検・評価の記載方法

社会教育課で所管する各事業について、事業ごとに目標を掲げ、取り組みの概要を記載しています。なお、評価の客観性を確保するため、社会教育委員会議において評価を行っています。

3 報告内容の構成

それぞれの事業における「目標の反映度」、「対象者の満足度」、「広報の充実度」、「目標の達成度」の4つの項目について教育委員会が評価を行うとともに、今後の課題をまとめています。「目標の反映度」とは、事業内容が目標を反映したものになっているかどうか、「目標の達成度」とは、事業を実施した後に成果を得られたか否かを評価したものです。なお、「広報の充実度」については、講座等広く周知するものに限り評価を行っています。

4つの項目の評価については、問題点が見受けられないものについては「A」、若干の問題点があるものについては「B」、大きな問題点があるものを「C」とし、社会教育委員会議において討議した上で評価しています。

さらにそれぞれの項目の評価が「A」であるものは3点、「B」は2点、「C」は1点として平均値を出し、その平均値が2.5点以上を「A」、1.5点以上2.5点未満を「B」、1.5点未満を「C」とした事業ごとの総合評価を行っています。

なお総合評価で「A」と評価した事業は、高い事業効果が認められ、今後も継続する事業、「B」と評価した事業は、軽微な問題点がいくつかあるが、改善を加えた上で継続する事業、そして「C」と評価した事業は、問題点が多く、廃止も視野に入れた大幅な見直しが必要な事業としています。

4 点検及び評価の結果

各種講座事業

【 目 標 】

市民のより高度な学習要求に応えます。

平成 23 年度の取り組み目標及び評価と課題

- ・ 大学提携専攻講座の開催
- ・ 学校支援ボランティア等講座の開催
- ・ 料理教室の開催
- ・ パソコン教室の開催

【評価】

総合評価… A

- | | | | | |
|-----------------|-----------|------------|-----------|-----------|
| ・ 大学提携専攻講座 | 目標の反映度… A | 対象者の満足度… A | 広報の充実度… B | 目標の達成度… A |
| ・ 学校支援ボランティア等講座 | 目標の反映度… A | 対象者の満足度… B | 広報の充実度… B | 目標の達成度… B |
| ・ 料理教室 | 目標の反映度… A | 対象者の満足度… A | 広報の充実度… A | 目標の達成度… A |
| ・ パソコン教室 | 目標の反映度… A | 対象者の満足度… A | 広報の充実度… A | 目標の達成度… B |

【課題】

大学提携専攻講座については、受講者の満足度が高かったが、扱う内容により受講者を集めることが難しかったものもあるので、今後、広報のさらなる充実を検討していく。

学校支援ボランティア等講座については、現に活動を行っている者の中から受講者を募集するとともに、一般からの募集も行ったが、受講者の確保が十分に得られていない状況にある。また、ボランティアを養成しても学校のニーズに照らし合わせると、活用

が難しいという課題があることから、学校現場が求めるボランティアをどのように発掘し、育成していくか改めて検討する必要がある。

料理教室については、食育の観点を取り入れ、地産地消を念頭において実施している講座であり、受講者の満足度も高く、人気のある講座となっている。今後も満足度、関心度の高い講座を提供できるよう努めていきたい。

パソコン教室については受講者の満足度は高く、人気もあるが、中・上級者を対象とした講座を展開しているのにも関わらず、結果として初心者も混在した講座となっている。今後、ミスマッチをなくすために受講者への説明に努めていきたい。

学校開放事業

【 目 標 】

市民の生涯学習の場を提供し、生涯学習の推進を図ります。

平成 23 年度の取り組み及び評価と課題

- ・小学校校庭及び余裕教室を児童・生徒、地域サークル等に開放

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…B 目標の達成度…A

【課題】

施設の使用許可、管理について、体育施設は市民協働部スポーツ課、開放教室は社会教育課というように、市民にとってわかりにくい仕組みになっている。市民に利用しやすい仕組みにするため、管理の一元化が望まれており、今後、全庁的な検討が必要である。

人権・同和教育等事業

【 目 標 】

市民の学習機会の充実を図るとともに人権問題についての正しい認識を深めます。

平成 23 年度の取り組み及び評価と課題

- ・ 人権教育講演会の実施
- ・ 啓発新聞等の購読
- ・ 人権教育研修への参加
- ・ 人権啓発パンフレット印刷

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…B 目標の達成度…A

【課題】

人権教育講演会については、受講者の満足度は高いものの、啓発効果をより高めるため、受講者を増やすことが望まれている。本事業に関心を持って多くの市民の方々に参加していただくよう、広報手段等を工夫するなど、一層努力していきたい。

家庭教育推進事業

【 目 標 】

家庭教育に関する学習の機会を提供し、家庭の教育力の向上をはかります。

平成 23 年度の取り組み及び評価と課題

- ・ 家庭教育講座の実施

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…B 目標の達成度…A

【課題】

受講者の満足度が高い講座だが、ターゲット層が受講者の確保が難しい層であることから苦心している。チラシづくり、配布の方法、インターネットでの広報など工夫を凝らしているが、今後も引き続き周知等の改善に努めていきたい。

小坪公民館まつり事業

【 目 標 】

小坪公民館の利用者同士の交流、サークル活動の活性化をはかり、地域コミュニティを醸成します。

平成23年度の取り組み及び評価と課題

- ・小坪公民館まつり実行委員会の企画運営のもと、サークルの演技や作品の展示

【評価】

総合評価…B

目標の反映度…B 対象者の満足度…B 広報の充実度…B 目標の達成度…B

【課題】

サークル活動の発表の場として意義があり、地域のまつりとして浸透しているが、平成23年度は展示発表が中心となり、地域のまつりとしての側面が薄れたという意見があった。今後も実行委員会と協議し、地域住民にとってより良い事業になるよう努めていく。

小坪公民館図書貸出事業／沼間公民館図書貸出事業

【 目 標 】

地域住民の教養の向上とともに情操を養い、心豊かな生活と文化の振興に寄与します。

平成 2 3 年度の取り組み及び評価と課題

- ・市立図書館と連携をはかり、地域住民の要望する図書・雑誌等を提供

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 目標の達成度…A

【課題】

市立図書館との連携が図られ、地域の図書館として機能している。

小坪公民館学級講座事業／沼間公民館学級講座事業

【 目 標 】

地域住民の教養の向上、健康増進及び情操を養い、サークル活動等へ発展を促し、利用者の拡大と生涯学習への動機づけを行います。

平成 2 3 年度の取り組み及び評価と課題

- ・各種講座の実施

【評価】

総合評価…A

目標の反映度…A 対象者の満足度…A 広報の充実度…B 目標の達成度…A

【課題】

趣味教養を中心に多くの講座が開催されており、地域住民に浸透しているが、募集人数の少ない講座を実施していること、また当日のキャンセルが多いことから、講座によっては受講者の少ないものも見受けられる。今後は受講者のキャンセルを見込んだ人数の募集を行うなどの工夫をしていきたい。

〈社会教育委員会議からの意見、助言〉

平成 21 年の機構改革により、教育委員会において所管していた、社会教育関連事業のうち、生涯学習関連事業、文化振興関連事業、スポーツ関連事業は市民協働部に、青少年教育関連事業は福祉部において所管することとなりました。これにより、教育委員会社会教育課は、範囲の広い社会教育のうち、行政として現代的課題を市民に対し啓発するための講座、講演会等を開催することを中心に事業を行うことになりました。実施にあたっては、テーマ、内容に応じ、市民協働部、福祉部その他の部署を含めた市長部局の各課における啓発関連事業との共催や連携を積極的に行っているとの報告を受けています。

社会教育委員会議においても、扱うべき課題などについて討議し、より良い事業運営のための助言を行っています。今回、初めての試みとして平成 23 年度の事業について点検・評価を行いました。各事業とも市民への広報の仕方など問題点をかかえているものの、幅広く多くの課題を扱い、総じて市民の満足度が高く、充実している様子が伺えます。

社会教育関連事業の評価については、以前より、庁内で行われるすべての生涯学習関連事業の方向性を定めている生涯学習推進プランの中で行われていますが、単年度ごとの事業計画となっており、今後は逗子市の社会教育の方向性を定め、事業計画を立てる必要があると考えられます。

なお、文化財保護関連事業については、主たる事業が、名越切通整備事業、古墳整備事業、文化財保護事業となっており、逗子市総合計画実施計画の中で進捗管理、評価が行われています。また、埋蔵文化財保護事業については、文化財保護法、神奈川県文化財保護条例に基づき行われる保護措置と聞いております。これらは、文化庁の進捗管理の下、国庫補助事業としての採択がなされ、これに合わせて県の随伴補助を受けて実施されているもので、文化庁の示すガイドラインに沿って中長期の事業計画を策定しているものの、単年度ごとの事業ヒアリングという審査を経て、翌年度の補助事業化が図られることから、国庫補助の状況によっては、必ずしも既に策定した事業計画どおりに事業が進められるものではないとのことです。

このようなことから、文化財保護関連の事業については、今回実施した点検・評価の対象事業としなかったことが理解できるもので、また、事業計画を策定する場合にも対象から除外することがふさわしいと考えます。

今後、社会教育委員会議としては、これまで行ってきた社会教育に関する調査研究に加え、新たな社会教育の方向性の検討等も進めていくとともに、評価方法がより良いものになるよう提言していきたいと考えます。

○参 考 資 料

平成 23 年度の教育委員会の活動状況

1 教育委員（右欄の（ ）内は委員任期）

教育委員長	村松 邦彦（平成 19. 6. 26～23. 6. 25）【退任】 竹村 史朗（平成 19. 11. 13～23. 11. 12）（委員長 H23. 6. 26～） （平成 23. 11. 13～27. 11. 12）
委員長職務代理者	竹村 史朗（平成 19. 11. 13～23. 11. 12）（職務代理者～H23. 6. 25） 山西 優二（平成 20. 12. 17～24. 12. 16）（職務代理者 H23. 6. 26～）
委員	桑原 泰恵（平成 21. 12. 1～25. 11. 30） 横地 みどり（平成 23. 6. 26～27. 6. 25）
教育長	青池 寛（平成 22. 6. 21～26. 6. 20）

2 教育委員会開催状況（平成 23 年度実績）

定例会 12 回開催

3 教育委員会審議案件

4 月定例会	平成 23 年 4 月 18 日（月）
日程第 1	2 月定例会会議録の承認について
日程第 2	教育長報告事項について
日程第 3	報告第 7 号 教育財産の取得の申出について
日程第 4	報告第 8 号 教育委員会職員の人事について
日程第 5	報告第 9 号 逗子市奨学金規則の一部改正について
日程第 6	報告第 10 号 逗子市教科用図書採択検討委員会の設置及び運営に関する規程の制定について
日程第 7	報告第 11 号 逗子市非常勤の図書館長の職務等に関する規程の一部改正について
日程第 8	議案第 10 号 平成 23 年度工事計画の策定について
日程第 9	議案第 11 号 池子住宅地区内池子公民館用地の活用の方向性について
日程第 10	その他
5 月定例会	平成 23 年 5 月 23 日（月）
日程第 1	3 月定例会会議録の承認について
日程第 2	4 月定例会会議録の承認について
日程第 3	教育長報告事項について
日程第 4	議案第 12 号 平成 24 年度逗子市立小・中学校使用教科用図書の採択方針について
日程第 5	議案第 13 号 逗子市立図書館協議会委員の辞任及び任命について
日程第 6	その他
6 月定例会	平成 23 年 6 月 20 日（月）
日程第 1	5 月定例会会議録の承認について
日程第 2	教育長報告事項について
日程第 3	請願第 1 号 中学校公民教科書採択に関する請願（その 1）
日程第 4	請願第 2 号 中学校公民教科書採択に関する請願（その 2）
日程第 5	請願第 3 号 中学校歴史教科書採択に関する請願（その 1）
日程第 6	請願第 4 号 中学校歴史教科書採択に関する請願（その 2）
日程第 7	委員長の選挙について
日程第 8	委員長職務代理者の指名について
日程第 9	その他
7 月定例会	平成 23 年 7 月 20 日（水）

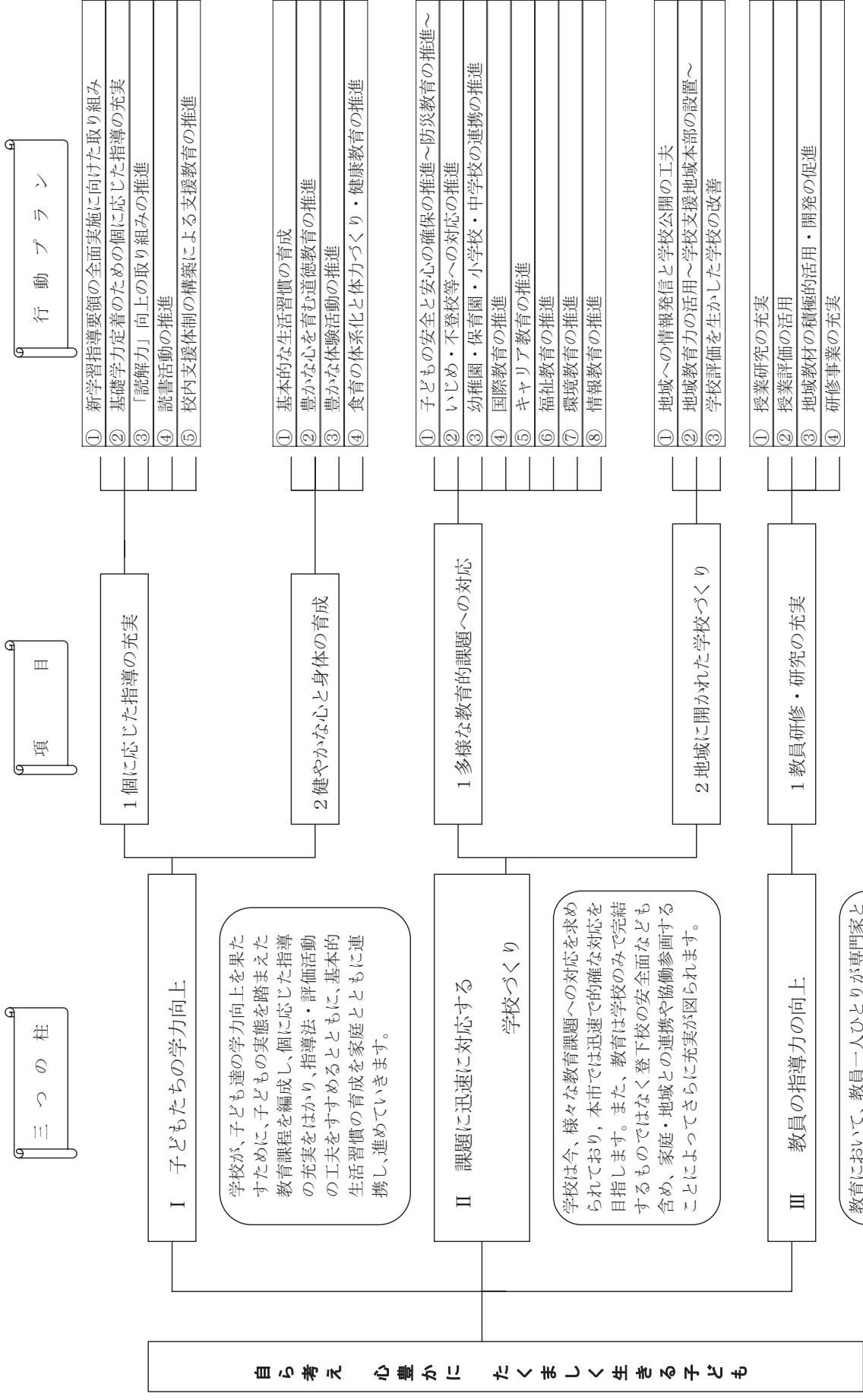
日程第1	6月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第12号 教育委員会職員の人事について
日程第4	議案第14号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について
日程第5	議案第15号 逗子市奨学金規則等の一部改正について
日程第6	請願第5号 望ましい歴史教科書の採択を求める請願書
日程第7	請願第6号 中学校公民教科書採択に関する請願（その3）
日程第8	請願第7号 中学校公民教科書採択に関する請願（その4）
日程第9	陳情第1号 公正で開かれた教科書採択を求める陳情書
日程第10	その他
8月定例会	平成23年8月8日（月）
日程第1	教育長報告事項について
日程第2	請願第8号 公立中学校社会科教科書の採択についての請願
日程第3	議案第16号 教科用図書の採択について
日程第4	その他
9月定例会	平成23年9月22日（木）
日程第1	7月定例会会議録の承認について
日程第2	8月定例会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	報告第13号 議案（平成23年度逗子市一般会計補正予算（第3号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	報告第14号 議案（逗子市スポーツ振興審議会に関する条例等の一部改正について）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第6	報告第15号 事務の委任及び補助執行について
日程第7	報告第16号 逗子市教育委員会教育長に委任する事務等に関する規則の一部改正について
日程第8	報告第17号 逗子市体育指導委員に関する規則の一部改正について
日程第9	その他
10月定例会	平成23年10月17日（月）
日程第1	教育長報告事項について
日程第2	報告第18号 平成23年度逗子市奨学金受給者の給付決定について
日程第3	議案第17号 逗子市立体育館条例施行規則の一部改正について
日程第4	その他
11月定例会	平成23年11月14日（月）
日程第1	9月定例会会議録の承認について
日程第2	10月定例会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	報告第19号 逗子市就学支援会議規程の一部改正について
日程第5	報告第20号 教育委員会職員の人事について
日程第6	議案第18号 逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について
日程第7	議案第19号 逗子市社会教育委員の選任について
日程第8	その他
12月定例会	平成23年12月14日（水）
日程第1	教育長報告事項について
日程第2	報告第21号 議案（平成23年度逗子市一般会計補正予算（第4号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第3	その他
1月定例会	平成24年1月16日（月）
日程第1	11月定例会会議録の承認について

日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第1号 議案（平成23年度逗子市一般会計補正予算（第5号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	請願第1号 請願書「憲法第19条「思想及び良心の自由は、これを侵してはならない。」憲法第20条2項「国及びその機関は、宗教教育、宗教活動もしてはならない」等々。上記の、憲法の基本的人権問題に鑑み、公立学校の教育方針の基本に生徒児童の基本的人権回復への厳密な配慮を要求せる請願書。」について
日程第5	その他
2月定例会	平成24年2月16日（木）
日程第1	12月定例会会議録の承認について
日程第2	1月定例会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	報告第2号 平成24年度全国学力・学習状況調査の実施について
日程第5	報告第3号 県費負担教職員の任免の内申について
日程第6	報告第4号 逗子市立図書館協議会条例の一部改正の申出について
日程第7	報告第5号 議案（逗子市非常勤特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正及び逗子市立図書館協議会条例の一部改正について）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第8	報告第6号 議案（平成23年度逗子市一般会計補正予算（第6号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第9	報告第7号 議案（平成24年度逗子市一般会計予算）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第10	議案第1号 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会規則の制定について
日程第11	その他
3月定例会	平成24年3月22日（木）
日程第1	2月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	議案第2号 逗子市文化財保護委員会委員の任命について
日程第4	議案第3号 逗子市スポーツ推進計画策定について
日程第5	その他

4 教育委員 主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
4月	定例会（4/18）	神奈川県市町村教育委員会連合会（4/18）
5月	定例会（5/23）	逗子市文化祭前期（5/16） 市長と教育委員会委員による連絡会議（5/16）
6月	定例会（6/20）	小学校運動会（6/4） 学校訪問（6/28、29）
7月	定例会（7/20）	学校訪問（7/1、4） 神奈川県市町村教育委員会連合会（7/6）
8月	定例会（8/8）	
9月	定例会（9/22）	中学校体育祭（9/17） 小学校運動会（9/23）

10月	定例会 (10/17)	小学校運動会 (10/1) 小・中学校「学校へ行こう週間」 (10/25～11/4) 逗子市文化祭 (10/27) 神奈川県市町村教育委員会連合会 (10/31)
11月	定例会 (11/14)	社会教育委員との意見交換 (11/14) 手作り絵本コンクール (11/27) 勉強会 (11/28)
12月	定例会 (12/14)	市長と教育委員会委員による連絡会議 (12/14)
1月	定例会 (1/16)	市内一周駅伝 (1/8) 成人式 (1/9)
2月	定例会 (2/16)	勉強会 (2/16)
3月	定例会 (3/22)	中学校卒業式 (3/9) 小学校卒業式 (3/16)



自ら考え 心豊かに たくましく生きる子ども

平成21年度～平成23年度 学校による点検及び評価の推移(逗子小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み		①新学習指導要領全面実施に向けた検討 ②言語活動の充実に向けての研究推進 ③外国語活動の取り組みに向けての検討	①新学習指導要領の全面実施の中での課題の洗い出しと検討 ②特定の教科に限定しての言語活動の充実に関する研究の推進 ③前年度の検討に基づく授業実践
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
		成果と課題 ①については、教務部・教育課題研究部とで検討し、学年末の懇談会で保護者に説明をした。新年度には全保護者に向けて説明会を持つ予定。 ②については、教育課題研究部を中心に授業研究等を進め2月に発表を行った。 ③については、担当を中心に研修会を行い、取り組んだ。	成果と課題 ①については、新学習指導要領全面実施に向けて年度初めに全保護者に向けて説明会を持ち、学年懇談会でも説明した。特に「あゆみ」の改訂について重点的に取り組み、観点別評価への取り組みを始めた。 ②については、今年度「道徳」に特化して授業研究等を進め、11月に湘南三浦教育事務所管内で公開授業を行った。また、2月に市教委主催の研究発表会において発表を行った。 ③については、担当を中心に研修会を行い、取り組んだ。
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	H21(2009)年度取組内容 ○確かな学びを身につける。 ・少人数指導やチームティーチングの工夫・改善を進める。 ・反復学習や補充指導に取り組む。 ☆確実な習得を図るための家庭学習に取り組む。 ☆保護者に学習状況を丁寧に伝える。	H22(2010)年度取組内容 ①児童の学力把握のための取り組みの検討 ②チームティーチングや少人数指導の充実 ③オープンスペースの学習環境の課題検討 ④長期休業期間中の学習支援の実施	H23(2011)年度取組内容 ①児童の学力の把握とそれに基づく傾向・課題の分析 ②チームティーチングや少人数指導方法の工夫と改善 ③オープンスペースの課題の整理と効果的な活用の活用検討 ④長期休業期間中の学習支援の充実
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した
	課題:モジュールの時間を漢字の読み書きに絞って繰り返し取り組み成果を得た。◆算数についても取り組む必要がある。	成果と課題 ①については、1年を除く各学年、国語・算数で学習状況の調査を行い、実態把握と分析を行った。 ②については、教員だけでなく学生ボランティアを活用し、教員の指示のもとで行った。また、③についても支援教室を立ち上げたり、各教室にパーテーションを設置したりして取り組んだ。 ③については、担当を中心に研修会を行い、取り組んだ。 ④については、1年生を除く各学年で取り組んだ。	成果と課題 ①については、1年を除く各学年、国語・算数で学習状況の調査を行い、実態把握と分析を行った。 ②については、教員だけでなく学生ボランティアを活用し、教員の指示のもとで行った。また、巡回相談員や心の教室相談員とも連携を図り、個別指導なども実施した。 ③については、支援教室を活用したり、DENを製作してオープンスペースの課題について取り組んだ。 *DEN:各階に置かれた子どもの為の隠れ家、基地のようなもの。 ④については、1年生を除く各学年で取り組んだ。
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	H21(2009)年度取組内容 ○確かな学びを身につける。 ☆音読を通して言語の情報の正しい理解を図る。 ☆資料の意図や意味を理解する活動を充実させる。 ☆要約・説明・報告などの論理的な文章作成技術の取得を図る。	H22(2010)年度取組内容 ①言語活動・コミュニケーション力向上に関する研究推進 ②発達段階に応じた課題図書の見直し ③思考力、判断力、表現力の向上に向けての取り組みの検討	H23(2011)年度取組内容 ①言語活動・コミュニケーション力向上に関する授業実践 ②発達段階に応じた読書活動の推進 ③前年度の検討に基づく授業改善
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した
	課題:授業研究に言語活動を取り入れた結果、要旨をとらえる力に向上が見られた。◆学年の系統性を持った取り組みが必要である。	成果と課題 ①と③については、校内研究で取り組み、研究発表を行った。 ②については、学校独自では課題図書を選定することはできなかった。	成果と課題 ①と③については、校内研究で取り組み、研究発表を行った。 ②については、学校独自では課題図書を選定することはできなかった。
④ 読書活動の推進	H21(2009)年度取組内容 ○確かな学びを身につける。 ☆全学年で一斉に読書にふれあう時間を設ける。 ☆読書推進計画の見直しを行う。 ・市立図書館を活用した読書活動を進める。 ・ボランティアの活用を一層進める。	H22(2010)年度取組内容 ①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの整理 ③市立図書館との連携に関する検討	H23(2011)年度取組内容 ①学校図書館の整備と充実 ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの充実と活用の推進 ③市立図書館の積極的な活用
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題:ボランティアの取り組みや担任の読み聞かせなど全校的な取り組みとなった。◆読書推進計画に基づく取り組みが必要である。	①については、百科事典などの蔵書の追加を市教委の援助により行うことができた。また、学校図書館指導員の指示のもと図書委員・図書館ボランティアにより、図書室は常に使いやすいように整理整頓されていた。 ②については、学校支援地域本部事業の中で整理をし、市民活動ポイントの対象とした。 ③については、今年度より市立図書館との連携を始めた。	①については、学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室は常に使いやすいように整理整頓されていた。 ②については、学校支援地域本部事業の中で整理をし、市民活動ポイントの対象とした。 ③については、市立図書館の活用が昨年よりも進んだ。

【逗子小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の充実	○保護者への周知と支援対応の充実 ☆支援シートに基づく学習支援の実施 ☆全教職員による支援体制の構築 ☆中学校と支援シートに基づく連携を進める。 ☆具体的なプログラムを示した保護者との面談	①校内支援の為の情報共有と組織的な取り組み推進 ②保護者との密な連携による支援の実践 ③スクールカウンセラーなど外部専門機関との連携の推進	①校内支援チームの取り組みの充実 ②6年間の学びと育ちを踏まえた支援教育の検討と実践 ③スクールカウンセラーなど外部専門機関との連携の充実
評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
課題:保護者の満足度が上昇してきた。◆具体的な人的な学習支援が必要である。	成果と課題 ①については、児童理解研修会を行うとともに、職員会議では支援の必要な児童についての情報交換を行った。また、校内支援委員会では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立てを検討し、実施した。 ②については、支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容について共通理解を図った。 ③については、心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスをいただいた。また、保護者の対応についても支援していただいた。	成果と課題 ①については、児童理解研修会を行うとともに、職員会議では支援の必要な児童についての情報交換を行った。また、校内支援委員会では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立てを検討し、実施した。 ②については、支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容について共通理解を図り、巡回相談員の手も借りて実践した。 ③については、心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスをいただいた。また、保護者の対応についても支援していただいた。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	○学習にきちんと取り組む姿勢を育てる。 ・系統的な目標と手立てに基づき、全学年で取り組む。 ☆家庭の協力を得るために、各家庭に「学習の約束」を作成し、配布する。	①あいさつ運動の推進 ②基本的な生活習慣育成について学校から発信していく ③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める	①あいさつ運動の推進 ②基本的な生活習慣育成について学校から発信し、PTAとともに取り組んでいく。 ③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める。
評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
課題:基本的な学習態度は学年や学級の取り組みにより、概ね達成したと評価した保護者は83%、教職員は95%であった。	成果と課題 ①については、児童会中心に取り組みを進めた。 ②については、日頃から児童には指導をしているものの、特に基本的な生活習慣について、保護者向けに情報発信を積極的にできなかった。 ③については、各クラスできていた。	成果と課題 ①については、児童会中心に取り組みを進めた。学校評価アンケートでも保護者の思いを聞いた。 ②については、日頃から児童には指導をしているものの、保護者向けに基本的な生活習慣育成のための情報発信を、PTAと連携をとりながら積極的にすることはできなかった。 ③については、各クラスできていた。	

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	○異年齢の関わり・あいさつなどの重点化。 ☆逗子小子どもまつりの内容の充実 ☆全校でのあいさつを広げるため、学級や児童会で取り上げ行動する。	①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の関連を図る ②児童会活動を活性化させていく ③異年齢集団の交流を推進する	①各教科や総合的な学習の時間、特別活動など内容の関連を図る ②児童会活動の活性化と充実を図る ③異年齢集団の交流を推進する
評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した
課題:概ね達成したと評価した保護者は76%、教職員は55%であった。昨年より向上した。	成果と課題 ①については、各担任レベルでの取り組みで行っていることが多く、学年として学校として進めていく必要がある。また、外国語活動が入って来た分、総合的な学習の取り組みについて、今年度を振り返って組み直す必要がある。 ②については、児童会担当教員がよく児童を指導し、新しい取り組みも行うことができた。 ③については、今後、内容を一層充実させていく必要がある。	成果と課題 ①については、各担任レベルでの取り組みで行っていることが多く、学年として学校として進めていく必要がある。また、外国語活動が入って来た分、総合的な学習の取り組みについて、今年度を振り返って組み直す必要がある。 ②については、児童会担当教員がよく児童を指導し、新しい縦割り集団や東日本大震災の募金活動などにも取り組むことができた。 ③については、今後、縦割り集団活動の内容を一層充実させていく必要がある。	

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	○系統性のある体験学習を研究する。 ☆事前学習→体験→事後学習を通して価値付けや意味づけを明確にする。 ☆活動の成果や結果について話し合いや発表を通して体験を共有しあう。	①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める ②校内に作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を行う。 ③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める	①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める。 ②作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を各学年クラスで工夫する。 ③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める。
評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
課題:体験学習の教職員評価は87%の達成率であった。 ◆発表等の表現力を身につける指導の充実が必要である。	成果と課題 ①については、今年度芸術体験事業を市の芸術鑑賞会を含めると3回行い、さらに学年独自で邦楽鑑賞なども行った。 ②については、職員室前の廊下を「逗子小美術館」として、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。 ③については、高学年で行った宿泊行事は成果を上げた。	成果と課題 ①については、文化庁の体験事業や市のアウトリーチ事業などに応募し芸術体験事業を行った。さらに学年独自で邦楽鑑賞なども行った。 ②については、職員室前の廊下を「逗子小美術館」として、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。また、地域の方々の作品展示や震災関係の展示コーナーも作った。 ③については、高学年で行った宿泊行事は成果を上げた。	

【逗子小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	○遊びや体育での安全指導を徹底する。 ・遊びのルールや決まりの作成や児童会での取り組みなど全校で事故を防ぐ機運を醸成する。	① 保健便り等を発行して健康について積極的に啓発していく。 ② 健康教育の全体計画に従い健康教育について学校として推進していく。 ③ 早寝・早起き・朝ご飯等、家庭生活の充実について保護者に働きかけていく。	① 保健便り等を発行して健康について積極的に啓発し、疾病予防に努める。 ② 健康教育の全体計画に従い体力向上の取り組みを進めて行く。 ③ 食育の全体計画に従い、保護者と連携をとりながら食育を推進していく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	課題:けがの防止については児童会や学級活動で取り組み、昨年度より半減してきた。	成果と課題 ①、②、③とも養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。	成果と課題 ①については、養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。 ②については、運動能力の測定等を行い、実態を把握することができた。 ③については、食育の啓発についてはPTA厚生委員会と連携をとって意識付けをすることができたが、食育を推進するところまではいかなかった。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	○学校支援地域本部事業に取り組む ・1・3年生の交通安全体験学習に取り組む。 ・全校での不審者対応訓練を実施する。 ☆学校支援地域本部を立ち上げ取り組む	①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携の充実を図る。 ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る。 ③総合的な防災計画を作成する。	①学校、PTA校外委員会、関係諸機関との連携を図り、地域にも働きかける。 ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る。 ③総合的な防災計画に基づいて避難訓練等を実施する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:これまでの安全教室の取り組みは進められた。◆地域本部事業は、継続的・計画的な取り組みが必要である。	成果と課題 ①、②については、PTA校外委員と連携し、危険箇所の点検をし、改善要望を市等にあげた。また、シンボルロードの通行問題についても、他校や地域と連携し進めることができた。 ③については、保健安全給食部を中心に作成した。	成果と課題 ①、②については、PTA校外委員と連携し、危険箇所の点検をし、改善要望を市等にあげた。また、シンボルロードの通行問題についても、他校や地域と連携し進めることができた。 ③については、保健安全給食部を中心に作成した。課題としては、津波警報が出た場合の学校としての避難場所等の検討と避難訓練を早急に進める必要がある。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	○差別やいじめを許さない学級づくりを進める。 ☆児童との信頼関係を強める学級経営に努める。 ・いじめの早期発見早期解決を組織的に行う。 ・保護者と連携した取り組みをすすめる。	①差別やいじめを許さない学級づくりを行う。 ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応をはかる。 ③外部専門機関との連携を密にしている。	①差別やいじめを許さない学級づくりを推進していく。 ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応と早期発見を心がける。 ③外部専門機関との連携を密にしている。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:いじめ等の取り組みは各学級で学級指導や各教科の中でも取り上げて指導したが、計画的な人権教育という観点では不十分であった。	成果と課題 ①については、毎月の校務分掌会議や職員会議の中で確認し合った。 ②、③については、支援教育の推進と同様に考えている。	成果と課題 ①については、毎月の校務分掌会議や職員会議の中で確認し合った。 ②、③については、支援教育の推進と同様に考えている。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	○保育園や幼稚園との連携を充実する。 ☆園と児童や職員の交流を進める。 ☆支援シートを活用した連携を進める。 ・担当者及び教頭を中心として中学校との具体的な連携を進める。	①幼稚園・保育園との情報交換を密にしている。 ②幼稚園・保育園との交歓行事を実施している。 ③中学校との交流行事を検討する。	①幼稚園・保育園との情報交換を密にしている。 ②幼稚園・保育園との児童レベルでの交歓行事を実施している。 ③中学校との交流行事を進める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題:年度当初に計画し、園との連携により進めてきた。◆支援シートを活用した対応の情報交換が必要である。	成果と課題 ①、③については、就学予定園児についての情報交換を幼稚園・保育園と行っており、中学との交流についても、今年度サマーコンサートを実施し、今後の交流についても検討をしている。 ②については、一年生が次年度就学予定の園児との交流を行っているが、こちらから出かけていく交歓行事はまだ行っていない。	成果と課題 ①については、就学予定園児についての情報交換を幼稚園・保育園と行った。 ②については、一年生が次年度就学予定の園児との交流を行っているが、こちらから出かけていく交歓行事は今年度も行えなかった。 ③については、職業体験事業で中学生を受け入れ、外国語活動の授業では中学の英語の先生に来ていただいた。また、一部ではあったが部活動の見学を行った。

【逗子小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 国際教育の推進	○指導要領本格実施に向け、研究を充実する。 ☆英語活動中核教員を中心に実践研究を進める。 ☆英語活動の評価と指導の検討を進める。 ☆中学校英語教員や外部指導者も活用し、英語活動の年間計画を整備する。	① 外国語活動の在り方について職員研修を行う。 ② 国際教育指導助手との連携について検討を進める。 ③ 評価等について検討を進める。	①外国語活動の在り方について職員研修をすすめ、実践力を高める。 ②国際教育指導助手との連携について実践していく。 ③評価規準等について検討を進める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	課題:中核教諭を中心にして年間の研修時間を確保した。英語活動の内容や方法を検討し、指導計画の内容について一定程度の成果があった。	成果と課題 ①、②については、研修を校内で行い、また、国際教育指導助手が週5日の勤務になって打ち合わせもしやすくなり、担当者を中心として行うことができた。 ③については、今年度はまだその段階にまで至っていない	成果と課題 ①、②については、研修を校内で行い、また、国際教育指導助手とのコミュニケーションもとれるようになり、担当者を中心として行うことができた。 ③については、各学年で検討をしているが、学校として定めるには至っていない。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	○地域の教育力を活用した実践研究の実施 ☆資料等を積極的に配布しその意義を周知する。 ☆全体計画を作成し、関連する教科で試行する。	① 小学校におけるキャリア教育の在り方について職員の研修を行う ② 2分の1成人式など、生き方を見通した学習等について検討する	①他校の実践事例等の情報を収集し、発達段階におけるキャリア教育の在り方を探る。 ②キャリア教育の全体計画に基づいて実践を行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった
	課題:担当部が職員会議で取り組みの必要性や具体的な取り組みを資料を基にして職員に周知した。	成果と課題 ①については、今年度研修を持つことはできなかった。 ②については、各学年、児童の発達段階に応じてどのような学習がふさわしいか検討した。	成果と課題 ①、②とも、今年度は特にキャリア教育について教職員間の共通理解や実践報告などを行うことはできなかった。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	○全体計画・指導計画に基づき実践する ☆低学年では福祉に関わる読書を進める。 ☆3年生以上は総合的な学習において取り組む。 ☆地域との関わりを大切に福祉活動を実施する。	① 地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う。 ② 児童の生活に根ざした福祉教育について検討する。	①地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う。 ②児童の生活に根ざした福祉教育について実践を行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題:福祉学習は学校・学年のねらいを明確にして取り組み、本校の進め方について共通理解を図った。	成果と課題 ・児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みを行っている。	成果と課題 ①については、外部講師を活用し実施した。 ②については、福祉教育担当者会で言われている「ふつうのくらしのしあわせ」を踏まえて実践を進めた。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	○新たな目標を設定し、全校を挙げて取り組む ☆全学年で環境保護の大切さを取り上げた学習や活動を行う。 ☆児童会活動(環境委員会)でも取り組む。 ☆3年生以上は総合的な学習で取り組む。	① 授業だけでなく、児童会活動等に盛り込み、学校生活全体で取り組める内容を検討する。 ② 家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る。	①児童会活動等に盛り込んだ活動の実践 ②家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題:環境委員会が継続的に取り組み、児童朝会でその成果を発表した。学校全体としての広がりを模索しつつある。	成果と課題 ・児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みを行っている。 ②については、家庭との連携について特に進めてこなかった。	成果と課題 ①については、児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みや、児童による放射線測定器を活用した観察活動を行った。 ②については、家庭との連携について特に進めてこなかった。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	○パソコンについてのスキルの向上を図ると共に、情報モラルの育成に取り組む。 ☆情報教育の指導法についての研修を実施する。 ☆系統性を踏まえた情報教育の活用を図る。 ☆情報モラルの指導計画を作成し取り組む。	① これまでの取組状況の整理を行う。 ② 発達段階に応じた系統性のある学習計画の検討を行う。 ③ 必要に応じて情報モラルについて外部機関との連携を進める。	①発達段階に応じた系統性のある学習計画を実践していく。 ②高学年対象に情報モラルについて、外部機関による授業を実施する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題:活用方針について取り組みは進められた。 ◆モラルに関する研修や具体的な実践が必要である。	成果と課題 ①、②については、情報教育担当者を中心に取り組んでいる。 ③については、6年生の携帯電話教室しか実施しなかった。	成果と課題 ①については、情報教育担当者を中心に取り組んでいる。 ②については、今年度は外部機関と連携を取って行うことができなかった。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	○説明責任を明確にして、開かれた学校づくりを一層進める ☆学校経営方針を全家庭に配布する。 ☆学校だよりを必要な地域に配布する。 ☆担当者を位置づけホームページの改善に努める。	① 学校ホームページの全面改定を行う ② 学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信 ③ 保護者だけでなく地域への情報発信(掲示版等の活用)	① 学校ホームページの充実 ② 学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信 ③ 保護者だけでなく地域の方々の声の聞き取り。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:年度当初に全家庭に経営方針のパンフレットを配布すると共に校長との懇談会で経営方針を説明し、年度末には学校評価に基づく改善点を説明した。	成果と課題 ①については、担当を中心に取り組んだ ②については、学校・学年・学級の便りは充実していた ③については、市民交流センターの掲示版等の活用を始めた	成果と課題 ①については、担当を中心に取り組み、充実と即時性を図った。 ②については、学校・学年・学級の便りは共に充実していた。 ③については、行事等で保護者や地域の方々へのアンケートを実施し意見の反映を心がけた。
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部 の設置～	○学校支援地域本部事業を立ち上げ取り組む。 ☆6月を目安に第1回の開催を実現する。 ☆地域連携のビジョンを作成する。	①これまでの学校支援地域本部事業の整理 ②サポート通信の発行 ③地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての検討と取り組み。	①地域協議会の活動の充実 ②サポート通信の発行 ③学校支援地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての取り組みの充実
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:地域本部事業の立ち上げなどプランに基づき進めた。◆継続的・計画的な取り組みが必要である。	成果と課題 ①、②、③とも学校支援地域本部事業のなかで実施できた。次年度はさらに検討を進めていきたい。	成果と課題 ①、②、③とも学校支援地域本部事業のなかで実施できた。今年度は『逗子小ガイド』を作成し、地域との連携も進んだ。
③ 学校評価を生かした 学校の改善	○学校評価を改善に生かす取り組みを進める。 ☆評価項目の見直しを図り、具体的な改善につなげる。 ☆評価委員会の役割や内容を充実する。	①学校評価の場面、内容、項目等についての再検討 ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の見直し ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進	①検討された評価項目等による学校評価の実施 ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の改善 ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:年2回の学校評価を実施し、評議員会や評価委員会、校長との懇談会、学校だよりで周知した。	成果と課題 ①については、担当を中心に評価項目の検討を行い、整理して実施した。 ②については、行事等の場面でアンケート調査を行い、その後の活動に役立った。 ③については、サマースクール・サマーコンサート等で行った。	成果と課題 ①、②については、教務部を中心に評価について検討を行い、集約も行き、学校の教育活動に反映するようになった。 ③については、DENの作成やサマースクール・サマーコンサート等で行った。 *DEN:各階に置かれた子どもの為の隠れ家、基地のようなもの。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 授業研究の充実	○一人ひとりの授業改善につながる実践及び研究となるよう、授業研究を充実する。 ☆新しい指導要領の趣旨や先行実施の内容を加えた授業実践を行う。 ・一人ひとりの公開授業を実施する。	①本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う。 ②外部講師による授業評価等を参考にした取り組みを進める。	①本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う。 ②外部講師による授業評価等を参考にした授業改善を進める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題:新しい指導要領の趣旨を生かした授業づくりに取り組みで、82%が役立ったとの自己評価であった。	成果と課題 ①については、研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。 ②については、研究全体会等で指導講評をいただき、その後の授業に活かすよう心がけた。	成果と課題 ①については、研究推進の中で授業公開・授業研究を行った。また、夏季休業中の取り組みとして文化教育ゾーンの施設活用を図った。 ②については、研究全体会等で指導助言等をいただき、その後の授業に活かすよう心がけた。
② 授業評価の活用	○子どもの変容を観点に授業改善をめざす。 ・授業研究時に児童の変容を把握する。 ・一人ひとりの実践に基づいた授業研究を進める。 ・新指導要領のねらいに基づいた授業研究を行う。	①学校評価に関連した授業評価を実施する ②外部講師による授業評価を活用する ③児童の学力把握の調査を活用する	①学校評価に関連した授業評価を実施し、授業改善に役立てる。 ②外部講師による授業評価を生かした授業作り。 ③児童の学力把握の調査結果を生かした授業作り。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:新しい指導要領の趣旨を生かした授業だけでなく、一人ひとりの学びの保障という観点から個々の児童の状況を把握して、研究を進めた。	成果と課題 ①については授業参観や学校へ行く週間などの際に、授業に関する評価を保護者にしてもらった。 ②については、研究授業の際に指導講評の中でしていただいた。 ③については、今年度実施し、活用を図った。	成果と課題 ①については、授業参観や「学校へ行く週間」などの際に、授業に関する評価を保護者にしてもらい、以後の授業に生かした。 ②については、研究授業の際の指導助言を授業に生かすよう取り組んだ。 ③については、今年度も学習状況を把握し、活用を図った。
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	○地域の素材・教材を活用した授業に取り組む。 ・新指導要領の内容を踏まえた教材開発に努める。 ・他校との実践交流や情報交換を積極的に行う。 ・様々な研修の報告会・情報交換を行う。	①新学習指導要領の内容を踏まえた教材開発に努める。 ②他校との情報交換や実践交流に努める。 ③様々な研修の報告を行い、情報の収集に努める。	①新学習指導要領の内容を踏まえた教材開発に努める。 ②他校との情報交換や実践交流に努める。 ③様々な研修の報告を行い、情報の収集に努める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題:新しい指導要領における教材の開発までには至らなかった。◆指導要領の学習の必要性がある。	成果と課題 ①については、個人レベルにとどまっており、学年・学校全体にまでは至っていない。 ②については、逗子教育研究会の部会程度でしか取り組めなかった。 ③については、復命を回覧することを意識づけるよう取り組んだ。	成果と課題 ①については、今年度も個人レベルにとどまっており、学年・学校全体にまでは至っていない。 ②については、逗子教育研究会の部会程度でしか取り組めなかった。 ③については、復命を回覧することを意識づけるよう取り組んだ。
④ 研修事業の充実	○初任研・経験者研修を全校体制で支援し、レベルアップを図る。 ・積極的に授業実践を公開する ・自己の研修目標を明確にして取り組む ・管理職が積極的に授業参観をし、レベルアップを図る。	①各自が積極的に授業公開を行う。 ②自己研修の目的を明確にして研修を受ける。 ③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる。	①各自が積極的に授業公開を行う。 ②自己研修の目的を明確にして研修を受け、レベルアップを目指す。 ③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題:授業の参観だけでなく、授業後の検討会等で先輩教師からの話や情報交換など、初任研や経験者研修の機会を生かしたレベルアップを目指した。	成果と課題 ①については、校内研究推進において授業公開を行い、③については、初任者の育成には学校全体で取り組んだ。 ②については、自己観察書を書く段階で自分の課題を各自が把握していたが、それに応じて研修を積極的に受けるまでには至らなかった。	成果と課題 ①については、校内研究推進において授業公開を行った。今年度は道徳に特化した。 ②については、自己観察書を書く段階で自分の課題を各自が把握していたが、それに応じて研修を積極的に受けるまでには今年度も至らなかった。 ③については、初任者の育成には学校全体で取り組んだ。

平成21年度～平成23年度 学校による点検及び評価の推移(沼間小学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容	
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
		成果: 移行措置に基づいた教育課程を編成した。 ・年間35時間分の外国語活動の教育課程を編成した。 ・地域学習を発達段階に応じて各学年に組み込んでいる。 課題: 教科書の採択替えによる見直しが必要である。また、外国語活動や総合的な学習は試行しながら見直していく必要がある。	成果: 移行措置に基づいた教育課程を実施した。 ・各教科での言語活動充実に向けて研修を深めた。 ・地域学習材活用に向けて研修を深めた。 課題: 言語活動の充実と目指す学力との関係について理解した上での授業づくりが必要である。	
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	H21(2009)年度取組内容 ・夏季休業期間中に児童実態に応じて学習についての支援を行う。 ・家庭と連携を図り家庭学習の充実を図る。 ☆学年ごとの到達目標を明確化して取り組む。	H22(2010)年度取組内容 ① 少人数指導、少人数学級の導入 ② スキルタイムの有効活用で基礎学力定着の推進 ③ 発達段階に応じた学習の仕方の指導	H23(2011)年度取組内容 ① 少人数指導、少人数学級の導入 ② スキルタイムの有効活用で基礎学力定着の推進 ③ 発達段階に応じた学習の仕方の指導	
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
	課題 学力を育む基本は授業であることを大切にしながら教育実践を進める ◆さらに重点を絞った取り組みを進め、授業の工夫を進める。	成果: 落ち着いた学習環境で授業を展開した。 ・全学級で基礎基本の定着に向けた取り組みをした。 ・発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。 課題: 低学年や多様な姿を見せる子どもたちに対してチームティーチング教諭の配置ができず、個に応じたきめ細かな取り組みには課題が残った。	成果: 基礎基本の定着に向けた取り組みをした。 課題: 算数での少人数学習ではきめ細かな対応でどの子ども問題が解けるようには工夫されたが、集団での学び合いが弱くなってしまった。	
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	H21(2009)年度取組内容 ・市教育研究所主催の授業力向上研修会への教員派遣。 ・国・県学習状況調査の客観的なデータ分析に基づいた授業改善を図る。 ☆上記調査データの活用の工夫を図る。	H22(2010)年度取組内容 ① 各教科で言語活動の充実を目指す。 ② 「自分の考えを表現できる」を指導目標 ③ 「学び合い」を大切にした授業	H23(2011)年度取組内容 ① 各教科で言語活動の充実を目指す ② 「自分の考えを表現できる」を指導目標 ③ 「学び合い」を大切にした授業	
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
	課題 ◆さらに重点を絞った取り組みを進め、授業の工夫を進める。	成果: 校内研究で全職員が取り組んだ。 ・校内研究でサブテーマとして取り組んだ。 ・発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。 課題: 読解力の向上・定着に向け、取り組みの継続が必要である。	成果: 校内研究で全職員が取り組んだ。 ・校内研究でサブテーマとして取り組んだ。 ・発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。 課題: 読解力の向上・定着に向け、取り組みの継続が必要である。	
④ 読書活動の推進	H21(2009)年度取組内容 ・保護者による読み聞かせボランティアの充実を図る。 ・市立図書館との連携を進める。	H22(2010)年度取組内容 ① 読書活動の日常化 ② 読書環境の充実 ③ 学習活動に読書活用を位置づける	H23(2011)年度取組内容 ① 読書活動の日常化 ② 読書環境の充実 ③ 学習活動に読書活用を位置づける	
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
	課題 今後もさらに市立図書館との連携を進める。	成果: 全職員が取り組んでいる。 ・読み聞かせや図書館ボランティアの活用等、地域支援も有効に機能している。 ・学校図書館指導員と連携した指導が展開されている。 課題: 司書教諭・学校学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能の活性化を検討する。	成果: 全職員が取り組んでいる。 ・読み聞かせや図書館ボランティアの活用等、地域支援も有効に機能している。 ・学校図書館指導員と連携した指導が展開された。 課題: 学習活動で有効な図書活用を工夫する。	
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	H21(2009)年度取組内容 ・支援を必要としている児童の実態調査を進め、支援の具体的な対応の検討をする。 ・外部機関等の専門機関と連携を進める。 ・支援教育を推進するための教育ボランティアの活用を図る。 ☆校内支援教育部中心の支援教育体制の充実を図る。	H22(2010)年度取組内容 ① 校内支援体制を現状にあわせて構築する。 ② 支援ニーズの把握と指導の充実を目指す。 ③ 児童理解に基づいたきめ細やかな支援の充実	H23(2011)年度取組内容 ① 校内支援体制を現状にあわせて構築する。 ② 支援ニーズの把握と指導の充実を目指す。 ③ 児童理解に基づいたきめ細やかな支援の充実	
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	
	課題 今後も体制づくりや研修等を充実させていく	成果: 校内支援体制がようやく定着してきた。 ・担任から支援ニーズについての話が支援部に上がってくるようになった。 ・多様な姿を見せる子どもたちであるが、全職員で子どもを見る体制は定着し、毎月定例の支援部よりの報告で情報共有がなされている。 課題: 支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携をしっかりと進め、個に応じたきめ細かな取り組みをさらに工夫する必要がある。	成果: 校内支援体制がようやく定着してきた。 ・児童の情報共有と役割分担が進んだ。 ・支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携が進んだ。 課題: 支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携をしっかりと進め、個に応じたきめ細かな取り組みをさらに工夫する必要がある。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>・学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。</p> <p>・かぐのみ幼稚園、沼間愛児園も含めた連携と研修会を開催する。</p>	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める。</p> <p>②学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。</p> <p>③小・中間における必要な情報の共有と連携を進める。</p>	<p>①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める。</p> <p>②学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。</p> <p>③小・中間における必要な情報の共有と連携を進める。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>課題 ◆保護者との連携を意図的に進める(懇談会の工夫、家庭訪問等を有効に活用した保護者とのコミュニケーションの充実)</p>	<p>成果: あいさつや話の聞き方について全職員の一致した取り組みができ、落ち着いた学習環境が保たれた。</p> <p>・担当者が意図的に取り組みを進め保護者からの評判もよい。</p> <p>・小学校側から積極的に小中連携を投げかけ、今年度の取り組みを進めたことで、互いの理解が深まってきた。</p> <p>課題: 「ていねいな言葉づかい」への取り組みはアンケートから実態を見るとまだ課題がある。場をわきまえた言葉づかいを目指したい。小中連携についてはさらに重点を絞って毎年ごとにPDCAを持って進めていきたい。</p>	<p>成果: あいさつや話の聞き方では全職員の一致した取り組みができ、落ち着いた学習環境が保たれた。</p> <p>・保護者向け各種たよりやパンフレットで保護者への啓発を進めた。</p> <p>・小・中連携が深まり、ねらいをもって取り組みを進めたことで、互いの理解が深まってきた。</p> <p>課題: 保護者との連携、小中連携がキーポイントであることを確認してさらに取り組みを進める。</p>

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>・縦割り活動を通して異年齢交流を進める。</p> <p>・家庭・沼間中学校と一体となった挨拶運動を推進する。</p> <p>・中学校・地域と連携した奉仕活動の取り組み。</p>	<p>①各教科、総合、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める。</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となった挨拶運動を推進する。</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める。</p>	<p>①各教科、総合、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める。</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動を推進する。</p> <p>③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>課題 家庭・沼間中学校・地域での挨拶運動を定着させる。</p>	<p>成果: 授業研究の日常化を目指す取り組みが進み、学年ごとに意識的に授業づくりが進められた。</p> <p>・人間形成として根付いたものになるよう取り組みを継続したい。</p> <p>・発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫している。</p> <p>課題: あいさつ運動等、日常的な取り組みを継続することが豊かな心を育てることにつながる。全職員で重点項目を絞って取り組みを継続していく。</p>	<p>成果: 授業研究の日常化を目指す取り組みが進み、学年ごとに意識的に授業づくりが進められた。</p> <p>課題: あいさつ運動等、日常的な取り組みを継続し、全教育活動の中で進める。</p>

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	<p>・地域行事に直接・間接参加することにより奉仕活動に取り組む。</p> <p>・校内において芸術鑑賞会を開催する。</p> <p>・沼小祭を通して地域の伝承遊びを知る。</p> <p>☆学校支援地域本部を立ち上げる。</p>	<p>①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める。</p> <p>②地域の行事を大切に、社会奉仕活動に自ら参加して社会性を育むよう促す。</p> <p>③校内において芸術鑑賞会を開催する。</p>	<p>①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める。</p> <p>②地域の行事を大切に、社会奉仕活動に自ら参加して社会性を育むよう促す。</p> <p>③校内において芸術鑑賞会を開催する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>課題 学校支援地域本部を立ち上げ、地域、保護者、子どもたちを巻きこみ豊かな体験活動を進める。</p>	<p>成果: 行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。</p> <p>・体験学習等に取り組み、子どもたちが意識できるようになったことは成果である。</p> <p>・芸術鑑賞会の継続開催や図工作品展示で互いの作品のよさを味わう工夫等により、学校環境を有効に使う豊かな体験活動が展開され、子どもたちの日常が充実しつつある。</p> <p>課題: 豊かな体験活動を推進するために、学年間の教育課程を見直ししながら、系統性ある取り組みを進めていきたい。また、奉仕活動等は学校内で完結することではないことから、地域・家庭との連携が必要である。</p>	<p>成果: 行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。</p> <p>・芸術鑑賞会の継続開催や図工作品展示で互いの作品のよさを味わう工夫等により、学校環境を有効に使う豊かな体験活動が展開され、子どもたちの日常が充実してきた。</p> <p>課題: 豊かな体験活動を推進するために、学年間の教育課程を見直ししながら、系統性ある取り組みを進めている。また、奉仕活動等は家庭の教育力が大きく影響することから、地域・家庭との連携をさらに深めていきたい。</p>

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	<p>・保護者との連携を図り、性教育、健康教育を推進する。</p> <p>・学校給食の充実と個に応じた給食の充実に努める。</p> <p>☆食育全体計画を作成する。</p>	<p>①健康教育を学校全体で推進する。</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する。</p> <p>③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する。</p>	<p>①健康教育を学校全体で推進する。</p> <p>②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する。</p> <p>③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>課題 ◆子ども向けアンケートを活用して子どもたちの状況把握を適切に行う。</p>	<p>成果: 今年度の取り組みで体育や外遊びでの健康づくりが展開された。</p> <p>・全学年で食の指導計画は示されているが、各学年とも計画的な取り組みが進んでいる段階とはまだいえない。</p> <p>・発達段階に応じた学習が実施されている。</p> <p>課題: 健康教育や食育を意識して取り組もうという機運は高まってきているので、組織的な動きを確立し教員間に共通認識を持って、家庭とも連携して取り組みを進めていきたい。</p>	<p>成果: 体育や休み時間等での外遊びで健康づくりが展開された。</p> <p>・全学年で食の指導計画は示され、発達段階に応じた学習が実施されている。</p> <p>・各学年に応じて薬物乱用防止教育や安全教育を実施した。</p> <p>課題: 健康教育や食育を意識して取り組もうという機運は高まってきているので、各学年とも教育課程を意識し、家庭とも連携して取り組みをさらに進めていきたい。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP(子ども暴力防止プログラム)プログラムによる防犯教室の実施 ・民間警備会社による防犯教室の実施 ・保護者による通学路の点検 ・町内会・自治会等による通学路パトロールの実施のための啓発活動 ・校舎内外の安全点検を実施☆町内会・自治会との連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校防災計画に基づいた安全体制の整備 ②教職員、保護者による通学路の点検 ③自転車教室等安全への啓発活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校防災計画に基づいた安全体制の整備 ②教職員、保護者による通学路の点検 ③自転車教室等安全への啓発活動の実施
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題 学年や発達段階に応じた安全指導を推進する。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 時間集約的に計画を進めることができた。 ・家庭訪問や夏休み等の機会を捉えて実施している。 ・3年生で自転車教室を開催し、児童の実態に合わせて学級指導を行っている。</p> <p>課題: 今年度の取り組みとして返葉高校生による防犯教室を開催したが、子どもたちの反応は良く、ボランティアとしての高校生との連携も活用していきたい。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 組織的に計画を進めることができた。 ・東日本大震災後、具体場面を想定した見直しが進んだ。 ・3年生で自転車教室を実施した。夏休み前等時期を選びながら全校児童向けに自転車での事故防止について指導を実施した。</p> <p>課題: 学校防災計画を見直し、PTAとも連携した子どもたちへのセーフティネットづくりを進めていきたい。</p>
② いじめ・不登校等への対応の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の支援ニーズに対する共通理解を図るための研修会を実施する。 ・中学校及び専門機関との連携を深めるための研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内支援体制を構築し組織的対応を図る。 ②担任とのコミュニケーションを深めるとともに、校内児童相談活動を進める。 ③子どもの思いをくみ取り、問題の未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内支援体制を構築し組織的対応を図る。 ②担任とのコミュニケーションを深めるとともに、校内児童相談活動を進める。 ③子どもの思いをくみ取り、問題の未然防止に努める。
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題 児童理解の充実と問題への迅速な対応をさらに進めていく。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p> <p>成果: 年を追うごとに支援教育の取り組みが教職員に定着してきている。今年度は個別支援も何人か進めた。 ・うるフレを活用して子どもの居場所づくりが進んでいる。 ・問題を抱え込み、乗り越えることができない児童の存在が見られる。</p> <p>課題: 成長過程で自己肯定感を育て、自分らしい集団との関わりが切り切れない子どもたちが見られるが、10歳の壁を意識しながら自己肯定感を高め、コミュニケーション能力を培う取り組みを進める。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 支援教育の取り組みが教職員に定着してきた。組織的な動きがより明確化し、必要な個別支援が進んだ。 ・長期休業後の児童に注意を払い、休みがち児童が安心できる様に個別の対応が進められた。 ・問題を抱える児童・保護者に対して他機関との連携が進み、児童へのきめ細かな対応ができた。</p> <p>課題: 成長過程で起きてくる問題に対して、Y-Pアセスメントを活用した取り組みをいかに、さらに組織的な動きを構築しながら問題への対応を進める。</p>
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中の授業交流を実施する。 ・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園の園児との交流の機会を設ける ・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園、沼間小・中との指導上必要な情報共有と連携に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ①小・中連携については担当者が年間計画を立てて進める。 ②子どもの姿を持って語り合い、情報交流を進める。 ③幼・保との連携では授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小・中連携については、担当者が年間計画を立てて進める。 ②子どもの姿を持って語り合い、情報交流を進める。 ③幼・保との連携では、授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する。
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題 ◆幼・保・小・中の連携では引き継ぎに関わる連携だけでなく、その後の育ち等について交流場面があるとよい。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 年間計画については小学校側からの働きかけにより中学校との連携事業が進み、話し合う土壌ができた。 ・情報共有の場が充実した。 ・年間計画の中で充実した交流ができた。</p> <p>課題: 小中連携について、課題をしっかりと共有して取り組む必要がある。次年度はかながわ学びづくりで小中連携をさらに強化していく。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 県の学びづくりに取り組むことで中学校との連携事業が進み、話し合い、共に取り組む土壌ができた。 ・幼・保・小の連携や小・中の連携を行い、子どもを中心にいた情報の伝達が進んだ。</p> <p>課題: 小・中連携については、さらにより良い育ちを目指して取り組む必要がある。次年度はかながわ学びづくりで小・中連携をさらに強化していく。</p>
④ 国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・英語活動の授業を実施 ・異文化理解・他文化共生のために体験入学者や地域の教育力を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①英語活動のカリキュラムの検討 ②英語活動の授業の充実に向け、授業研究や研修会を実施 ③IEAと協力して日常的な交流や教材開発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①英語活動のカリキュラムの検討 ②英語活動の授業の充実に向け、授業研究や研修会を実施 ③国際教育指導助手と協力して日常的な交流や教材開発を進める。
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題 国際理解教育の視点を持って外国語活動を充実させていく。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 指導要領に従って授業づくりに取り組みカリキュラムを編成した。 ・校内研究に位置づけて取り組み、成果が見える。 ・英語を活用した掲示や教材づくりに積極的に取り組んだ。</p> <p>課題: 授業者がねらいに沿った活動を実施していくにはまだまだ研究・研修を深めていく必要がある。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果: 校内研究に位置づけた取り組みや、市教委研修の成果がみえる。 ・英語を活用した掲示や教材づくりに積極的に取り組んだ。</p> <p>課題: ねらいに沿った活動を実施していくにはまだまだ研究・研修を継続していく必要がある。</p>

【沼間小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 子どもによる沼小祭りにおけるシヨップ出店を増やし職業体験をさせ、さらに取り組みを発展させる。 「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの再検討に努める。 勤労生産・奉仕の活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの発達段階に応じたキャリア教育を実践する。 ②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する。 ③キャリア教育への保護者の理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの発達段階に応じたキャリア教育を実践する。 ②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する。 ③キャリア教育への保護者の理解を促す。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	課題 キャリア教育の共通理解を図るために、キャリア教育の研修を進める。	成果：学校内や地域支援での関わりをキャリア教育の視点で捉えて子どもたちに提示できた。 ・学校生活全般を意図的に活用している。 ・担任から保護者に積極的に情報提供しているとはいえない。 課題：教員がキャリア教育を十分に理解した後、子どもたちに生き方を提示していく必要がある。	成果：学校内や地域支援での関わりをキャリア教育の視点で捉えて子どもたちに提示できた。 ・担任から保護者に積極的に情報提供しているとはいえない。 課題：教員がキャリア教育を十分に理解した後、子どもたちに生き方を提示していく必要がある。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育を推進するために、社会福祉協議会の協力を得て、体験活動を進める。 総合学習の時間等を活用して福祉教育を推進し、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日常的な人を思いやる教育から始める。 ②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る。 ③社会福祉協議会と連携し、体験的学習活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日常的な人を思いやる教育から始める。 ②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る。 ③社会福祉協議会と連携し、体験的学習活動を推進する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 総合学習の時間等を活用して福祉教育を推進し、教育課程を充実させる。	成果：教職員が重点を絞って取り組むことで成果が見える。 ・社会福祉協議会や各種団体を有効活用することができ、授業では具体的な場面を用意して成果を上げた。 ・十分に活用できている。 課題：総合的な時間の時数が減少することから、本校の福祉学習として学年連携を深めて教育課程をつくる必要が出てくる。	成果：単元構成がまとまった授業展開が進んできた。 ・社会福祉協議会や各種団体を有効活用することができ、授業では具体的な場面を用意して成果を上げた。 課題：総合的な時間を利用して本校の福祉学習として教育課程をつくる必要がある。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。 田んぼ、ピオトープの維持管理をする。 ☆「特色ある学校づくり」の市委託を受け、実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。 ②発達段階に応じた実践を取り入れる。 ③学校内で行われている環境に関わる取り組みを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。 ②発達段階に応じた実践を取り入れる。 ③学校内で行われている環境に関わる取り組みを交流する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を充実させる。	成果：各学年の取り組みを引き継いでいる。 課題：児童会でも取り組んでいるが、いろんな場を活用して広げていきたい。	成果：各学年の取り組みを引き継いでいる。 課題：児童会でも取り組んでいるが、いろんな場を活用して広げていきたい。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 機器更新を機会に、校内LANの研究に着手する。 情報リテラシーの育成やモラルの教育に努める。 ☆個人情報保護の周知徹底を図り、事故防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報機器活用能力の育成に努める。 ②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める。 ③各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報機器活用能力の育成に努める。 ②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める。 ③各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。	成果：情報教育については表現活動とも関連させて取り組むことができている。 課題：情報ツールを授業に有効活用することについて、さらに工夫を進める。	成果：情報教育については各教科の学習と関連させて取り組むことができている。 課題：情報ツールを授業に有効活用することについて、さらに工夫を進める。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事へ、作品による参加とともに人的参加をする。 ホームページの毎週更新をする。 授業参観を活用して家庭と連携を図る。 ☆ホームページを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年間通した学校状況の適切な公開を進める。 ②HPの更新を月1回程度とする。 ③地域と学校の相互理解が進むようにコミュニケーションをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年間通した学校状況の適切な公開を進める。 ②HPの更新を月1回程度とする。 ③地域と学校の相互理解が進むようにコミュニケーションをとる。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題 学校評価の公開や説明会を実施していく。	成果：PTA総会前に時間をとって学校説明会を行う、学校だよりで情報提供する等学校状況の公開を進めている。 担当部署が定期的に取り組み、月1回更新した。 PTA運営委員会だけでなく、青少年育成の会、避難所運営委員会とのコミュニケーションが深まっている。 課題：学校だより等を地域に発信できるよう、新たな町内会組織等を活用していく。	成果：PTA総会前に学校説明会を行う、学校だより・学校パンフレット等で学校状況の公開を進めている。 ・ホームページは担当部署が定期的に取り組み、更新が滞った。 ・PTA運営委員会だけでなく、青少年育成の会、避難所運営委員会、連合町内会とのコミュニケーションが深まっている。 課題：学校から地域に情報発信できるよう、PTA、学校支援地域本部、連合町内会組織等を活用していく。

【沼間小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部 の設置～	<ul style="list-style-type: none"> 教育ボランティア活動(支援教育も含め)への参加依頼を進める。 読み聞かせボランティア活用の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校支援に関わるコーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する。 ②ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める。 ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校支援に関わるコーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する。 ②ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める。 ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする。
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題 学校支援地域本部事業を有効に機能させ、活用していく。	成果:地域コーディネーターが積極的に動き、活動が根づくものになってきている。学校も積極的に準備段階から関わりをもって進めている。地域コーディネーターとの連携もスムーズになってきている。 課題:学習支援型のボランティアの活用に向けて取り組んでいきたい。	成果:地域コーディネーターが積極的に動き、活動が根づくものになってきている。学校も積極的に準備段階から関わりをもって進めている。地域コーディネーターとの連携もスムーズになってきている。 課題:地域支援コーディネーターを支える人的資源の育成に取り組んでいきたい。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の内容検討。 自己評価と併せた学校関係者評価の実施。 ☆学校評価のホームページ上での公開を検討する。 学校説明会、授業公開等を活用して、学校の評価を発信していく。 学校評議員会の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①重点を絞った目標設定をして取り組む。 ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める。 ③学校評議員、関係者評価委員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①重点を絞った目標設定をして取り組む。 ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める。 ③学校評議員、学校関係者評価委員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題 自己評価と併せた学校関係者評価を実施し、学校評価を充実させる。	成果:職員の意識変容が進み、学校評価について理解が深まってきた。 課題:学校評議員、関係者評価委員には学校をよく理解していただいているが、学校改善への具体的な意見反映となるとまだ難しいところもある。	成果:職員の意識変容が進み、学校評価の理解が深まってきた。 課題:学校評議員、学校関係者評価委員にも学校の現状をよく理解していただき、学校改善への力となっている。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 授業研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。 外部講師を招へいし授業研究をする。 教育研究所や他機関に教員を派遣し、本校の授業研究に資する資料収集・教材研究に努める。 ☆日常の授業に成果を生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業研究の日常化を目指す。 ②外部講師を招へいし、授業研究を開いた形で進める。 ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業研究の日常化を目指す。 ②外部講師を招へいし、授業研究を開いた形で進める。 ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題 授業研究の日常化で質の高い授業づくりを進めていく。	成果:校内研究については全職員で取り組み、充実した。算数・国語・児童理解について、専門の外部講師を招へいした。校内研究会や研修会を公開し、本校以外の方も参加した。 課題:次年度はかながわ学びづくり研究推進校としてさらに研究を深めていく。	成果:校内研究については全職員で取り組み、充実した。算数・国語・児童理解では専門の外部講師を招へいした。校内研究会や研修会を公開し、本校以外の方も参加した。 課題:次年度はかながわ学びづくり研究推進校としてさらに研究を深めていく。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 授業評価の活用	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による授業評価も含めたような観点から授業評価を行う 学習状況調査の分析結果を日常の指導に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習状況調査の分析を活用する。 ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る。 ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習状況調査の分析を活用する。 ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る。 ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった
	課題 学力向上に向け、授業評価を活かしていく。	成果:基礎的基本的な内容の定着にさらに力を注いでいる。教員相互による授業評価に取り組み、職員の意識改革が進んだ。 課題:授業評価の視点を絞って取り組むこと、子どもによる授業評価を活用することに取り組みたい。	成果:基礎的基本的な内容の定着にさらに力を注いだ。教員相互による授業評価に取り組み、職員の意識改革が進んだ。 課題:授業評価の視点を絞って取り組むこと、子どもによる授業評価を活用することに取り組みたい。

【沼間小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材活用のため、講師を招へいしての研修会開催。 ・地域素材を活用した小・中学校の連携授業の実践を進める。 ・地域の郷土資料館を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域素材活用のため、講師を招へいしての研修会を開催する。 ②地域の郷土資料館を積極的に活用する。 ③身近な人材発掘を行い、授業に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域素材活用のため、講師を招へいしての研修会を開催する。 ②地域の郷土資料館を積極的に活用する。 ③身近な人材発掘を行い、授業に役立てる。
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題 地域素材活用のための研修会を開催し、教材を開発する。	成果:郷土資料館の積極的な活用や身近な人材発掘ができ、授業に役立てることができた。 課題:夏季研修等では校内で講師を務める人材がいて、研修会ができたが、さらに広げることができなかったことは課題である。	成果:郷土資料館の積極的な活用や身近な人材発掘ができ、授業に役立てることができた。 課題:夏季研修会や保護者・地域と連携協力して研修会ができたが、さらに広げていきたい。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 研修事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所及び学校教育課、県教育委員会主催の研修会に教員を積極的に派遣する。 ・校内で相互に教員研修を実施する。 ・経験年数に応じた職能開発の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ①OJTを主とした校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める。 ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく。 ③市学校教育課、県教育委員会主催の研修を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①OJTを主とした校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める。 ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく。 ③市学校教育課、県教育委員会主催の研修を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す。
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題 校内での教員研修を充実を図る。	成果:意図的に教職員全員で取り組んでいることから、成果が見える。 課題:研究会・研修会を大事にして、今、必要な研修をリアルタイムに設定していきたい。	成果:意図的に教職員全員で取り組んでいることから、成果が見える。 課題:研究会・研修会を大事にして、学ぶ意欲と姿勢をもって進めていきたい。

平成21年度～平成23年度 学校による点検及び評価の推移(久木小学校)

I 子どもたちの学力向上	1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み		①移行措置2年目として、子どもたちの実態や地域の特性に応じた教育課程を編成する。 ②小学校外国語活動の推進のため、実践研究を進める。	①新学習指導要領全面実施に対応した教育課程を編成する。 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
		成果と課題 ①新指導要領全面実施に向け教育課程を編成できたが、実践による検証が課題である。 ②全学級で研究授業を実施し、研究を進めることができた。	成果と課題 ①新学習指導要領に基づいた教育課程を編成した。 ②逗子市委託研究について外国語活動を中心とした研究を進め、研究発表会を開いて2年間の成果と課題を発表した。
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	・学習環境の充実整備 ・少人数指導やチームティーチング、小集団など多様な学習形態を充実	①少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎基本の定着を図る。 ②指導すべき内容等に応じた適切な教材の開発や繰り返し指導に努める。	①継続 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・担当学年で連携を図り、教材教具、施設設備の改善・学習形態の工夫に計画的に取り組むことができた。	成果と課題 ①県及び市の少人数指導教員を活用し、指導法の工夫・改善に取り組むことができたが、23年度は個に応じた指導の充実が課題である。 ②継続的な課題であり、取り組み続ける。	成果と課題 ①夏休みに学習支援期間を設定し、児童の学力向上に取り組んだ。また、スクールライフサポーター、ボランティアを活用し、基礎学力定着を図った。 ②継続的な課題であり、取り組みを続ける。
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	自分の考えを述べたりする機会を充実し、コミュニケーション能力を高める。	①国語科・各教科・道徳・総合的な学習の時間を通して言語活動の充実を図る。	①継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した
	課題・研究会や外部からの講師を招き、言語活動の充実を図り、総合的にコミュニケーション能力を高めた。	成果と課題 ①言語活動の充実が教科・総合・道徳等、全教育活動に関わるもので、公開授業を行い研修を深めた。授業づくり研修会の実施・充実を通じ継続して取り組み続ける。	成果と課題 ①各教科・領域において言語活動の充実を目指す授業づくりを進めた。教育研究所授業力向上研修会、校内授業づくり研修会を通して取り組んだ。
④ 読書活動の推進	・図書室を整備していく。 ・第二図書室を充実させる。 ・前年度の活動を見直し、充実させていく。	①司書教諭・学校図書館指導員・学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する。 ②お話会による読み聞かせ等の活動を行う。	①継続 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・おはなし会のボランティアの方と連携や引継ぎを密にし、計画的に進めることができた。	成果と課題 ①年間を通じ図書ボランティアを活用した(毎週火・木)。図書館指導年間計画に基づき実施できた。 ②お話会による読み聞かせ等を計画通り10回実施した。お話会ボランティアと図書指導担当の打ち合わせを一層密にすることが課題である。	成果と課題 ①前年度に引き続き年間計画に基づき実施した。 ②お話会(年間10回)を計画的に実施した。ボランティアとの連携を密にし、学校のニーズにあった内容にしていくことが課題である。
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	校内組織及び、支援体制の機能を充実させていく。	①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちのニーズに応じ具体的支援を行う。 ②教育研究所・児童相談所・子育て支援課等の外部機関と連携を深める。	①継続 ②継続 ③幼・保・小・中連携を深め、情報交換を密にする。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題教育相談コーディネーターや関係機関との連携を円滑に図り、チーム体制を充実し機能的に活動できた。	成果と課題 ①校内支援体制が整備され、様々なケースに対応することができたが、子どもたちのニーズも多様化している現状から一層の取り組みが必要である。 ②各機関との連携が進んだ。継続した取り組みを続ける。	成果と課題 ①課題を抱える児童についてケース会議等を開き、支援を行った。課題は、支援のための人材と時間の確保である。 ②各機関と連携を図り、支援に役立てることができた。継続的に取り組む。 ③児童に関する情報交換の場を設けて支援の参考にすることができた。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	「決められたルールや時間を守る」「公共物を大切に使う」などの学校という場での基本的な生活習慣について学校から発信し、保護者と連携を図りながら取り組む。	①学級指導の中で基礎的な生活習慣習得の指導を行う。 ②学校・保健だより等を通して情報を発信する。 ③学級懇談・個人面談等の機会を利用して、保護者と連携した取り組みを進める。	①継続 ②継続 ③継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題・児童指導支援部が中心となり児童への呼びかけを図るとともに、PTA運営委員会、学校だより等で話題として取り上げ、地域、保護者、学校と連携を図りながら進めることができた。	成果と課題 ①日常的な指導の継続が必要である。 ②学校・保健だよりは計画的に発行できた。 ③についても継続的取り組みを行うが、保護者の理解に差があり、一層の努力が必要である。	成果と課題 ①②③とも日常的な取り組みを継続することが重要である。継続して取り組む。
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	・学校行事・児童会行事を通して学校内における縦割り集団を活用し、異年齢交流を進める。 ・学校行事・児童会行事を通して児童のよりよい人間関係づくりに取り組む。 ・地域の教育力を活用して、地域・保護者・児童の交流を深める。	①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う。 ②あいさつ運動等、コミュニケーションを深める取り組みを行う。	①継続 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・昨年度に引き続き、地域教育力や外部教育力を活用し、地域・保護者・児童の関係の交流を深めることができた。	成果と課題 ①新教育課程に向けて道徳教育全体計画の見直し・検討を行った。実践を通じた検討が課題である。 ②については朝会、学級指導等を通し取り組んだ。保護者・地域へも協力を依頼した。継続した取り組みを行う。	成果と課題 ①道徳教育全体計画に基づき実践を行った。 ②昨年度より継続的に取り組みを行っている。
③ 豊かな体験活動の推進	・様々な人々との交流場面を設定し、場面に応じた対応などについて学習する場や機会の一層の充実を図る。	①稲づくり・大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う。 ②キャンプ・修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う。	①継続 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・地域の人々をはじめとし、様々な体験をすることができた。また、多くの交流場面を設定できた。今年度は計画的・継続的に交流を増やし、充実を図ることができた。	成果と課題 ①計画通りの体験活動を実施した。年間計画に位置付け、活動の定着を図りたい。 ②次年度よりキャンプを行う場所を変更し、一層の活動充実を図る。	成果と課題 ①学習支援ボランティアを活用し体験学習に取り組んだ。学習の発展として豆腐作り・味噌作り等の活動を行うことができた。 ②年間計画通り実施した。
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	・健康の維持増進に向け、基本的な生活習慣の育成や発達段階に応じた健康教育を行う。 ・食教育、健康教育などを推進していく。 ☆食教育の全体計画作成を進めたい。	①保健安全年間計画・給食指導年間計画等に基づいた指導を進める。 ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める。	①継続 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・基本的な生活習慣の育成については、年間を通して実践できるよう保健安全給食部や児童指導支援部より目標を出したり、PTA運営委員会で取り上げたりして内容の充実を図った。	成果と課題 ①計画通り実施した。食育に関する取り組みの充実が課題となる。 ②校庭全面芝生化により校庭で遊ぶ子どもの数が倍増し、体力向上へ効果があった。今後、芝生の維持が課題となる。	成果と課題 ①年間計画に従って取り組んだ。 ②校庭全面芝生化により、校庭で遊ぶ子どもの数が倍増し、体力の向上に効果があった。暑い時期の地表温度も芝生化により低くなり、健康面においても成果があった。引き続き維持管理が課題である。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	・子どもの安全確保のための研修会、防犯訓練等を行い児童、教職員の意識を高める。 ・地域のパトロール体制に協力する。 ・児童参加型の不審者対応訓練の実施 ☆地域と連携した防災計画を検討する。	①防犯教室・不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める。 ② PTA・地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む。	①継続 ②継続 ③地域と連携した防災計画を検討する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった
	課題・教師も子ども達も自分の命は自分で守れるように危機回避の方法を知ることができた。今年度は教職員の防犯、防災訓練により、不備な点を整備・改善を図ることができた。	成果と課題 ①安全指導年間計画に基づき実施した。継続した取り組みが必要である。 ②地域の見守り隊を中心に登下校時の安全確保への取り組みができています。学校支援地域本部事業の一つと位置づけ、継続的取り組みを行う。	成果と課題 ①年間計画通り訓練等を実施した。継続的指導により防犯意識を高める。 ②地域と連携した取り組みは継続している。 ③東日本大震災後、防災体制の見直しを行い、津波時の緊急避難場所を近くの聖和学院第2グラウンドとし、訓練も実施した。学校防災体制の充実と地域連携が課題である。

【久木小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	・児童指導・支援部を中心とし、個別支援に対応できる体制を整備する ・保護者・他機関との連携を充実させる。 ・児童の日常の言動を良く観察し、理解を図ると共に、意図的に授業や学級指導に組み入れる。 ☆ 教育相談コーディネーターを中心とした支援の充実を図る。	①教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どものニーズに応じ具体的支援を行う。 ②外部機関やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携を深める。	①継続 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・教育相談コーディネーターを中心とした支援体制づくりを進めることができた。	成果と課題 ①ケースごとに支援体制を検討し、具体的支援を行った。子どものニーズの多様化に対応する取り組みが課題である。 ②各機関等との連携を取り、ケースに応じた対応を行った。一層の連携強化が必要である。	成果と課題 ①支援体制が機能するようになりケース会議等を開き、課題を抱える児童への対応を行った。 ②教育研究所・児童相談所・子育て支援課との連携を進め、児童の支援に当たることができた。継続的な取り組みが課題となる。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	・幼・保・中と連携し支援教育の推進を図る。 ・就学前教育・小学校教育の相互理解を図る。	①小中の連携を目指し、協議しながら取り組む内容を明確にする。 ②幼稚園・保育園と連携し、情報収集を続ける。	①小・中の連携について、できる内容から取り組みを始める。 ②幼稚園・保育園と連携した支援教育に取り組む。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題◆年度末の情報交換を次年度の学級編成にいかすことができた。また、授業参観や授業交流を積極的に行い、教師間の連携を図れた。	成果と課題 ①中学生を招き合唱等を通じた交流をはじめとする取り組みを行った。また、外国語活動の授業参観により小中相互理解の場を設定した。一層の連携を図りたい。 ②幼保小連携推進委員会の活動を受け、交流と情報交換を行った。	成果と課題 ①中学校との児童生徒指導に関わる情報交換会を行い連携を進めた。 ②新入学児童を迎える集会等を開き、交流すると共に情報収集を行った。
④ 国際教育の推進	・担任が中心となり、IEAや英語ボランティアを活かした英語による異文化理解とコミュニケーション能力の育成を図る。 ☆外国語教育の県指定研究を推進する。	①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る。 ②国際教育指導助手の効果的な活用を図る。	①新学習指導要領全面実施にあたり、小学校外国語活動の充実を図る。 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・校内研究や外部講師を招いての学習会を行い外国語活動の捉え方について共通理解を図ることができた。また、国際理解教育支援員を積極的に活用し異文化理解やコミュニケーション能力の充実を図った。	成果と課題 ①委託研究推進校として小学校外国語活動を中心とした研究に取り組んだ。次年度の研究発表会に向けて研究の充実を図る。 ②研究と関連させ効果的な活用に取り組んだ。一層の効果的な活用に取り組む。	成果と課題 ①委託研究発表会を開き、2年間の成果と課題を発表できた。次年度も継続的に研究を進める。 ②研究等に取り組む中でコミュニケーションを深めた。国際教育指導助手が毎年変わることで大きな課題である。
⑤ キャリア教育の推進	・子どもの発達段階に応じて、将来の生き方についての学習計画をより充実させる	①子どもの発達段階に応じたキャリア教育のあり方について検討する。	①キャリア教育の視点を教科・総合的な学習の時間の内容に入れながら実践を進める。 ②キャリア教育に関わる研修等に参加し、教職員の理解を高める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題・清掃等の当番活動、委員会活動の活性化を図ると共に、学年では子ども達の発達段階に応じた内容の将来の生き方についての話を進めた。	成果と課題 ①キャリア教育について学校全体での検討が十分できなかった。検討・研修等の時間確保が課題である。	成果と課題 ①低学年の生活科、中学年の社会科・総合の中で、地域のお店・工場等を取り上げた実践を行った。また、高学年では社会科農業学習・工業学習においてゲストティーチャーを招いての実践を行った。 ②研修に参加できる体制作りが課題である。
⑥ 福祉教育の推進	人権・福祉に関する取り組みについて見直し、さらに子ども達の生活に根ざした福祉教育を検討し開発していく ☆地域講師活用の推進を図る。	①福祉学習年間計画をもとに教科・総合的な学習の時間等を通して福祉学習に取り組む。 ②福祉部・社会福祉協議会との連携を取り、福祉教育の推進を図る。	①継続 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題◆子ども達の発達段階に応じた福祉教育や人権教育に計画的な学習が行えるよう、関係諸機関との連携や協力を仰ぎ内容の充実を図った。	成果と課題 ①各学年の年間計画に従って発達段階に応じた取り組みを行った。実践の内容充実が課題となる。 ②福祉学習の計画・実施に関わって連携することができた。今後も連携を続ける。	成果と課題 ①年間指導計画に基づき、取り組みを行った。次年度も継続して取り組む。 ②各機関との連携を取り実施した。盲導犬学習ではゲストティーチャーを招き、学習を進めた。
⑦ 環境教育の推進	・環境教育の年間計画を作成する。 ・小中学校担当者による情報交換 ・マイアジェンダの登録	①教科・総合的な学習の時間等を通して環境学習に取り組む。 ②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に活かす。	①継続 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題◆紙の裏面使用や節水節電は学校でおおよそ浸透してきている。今後も環境教育の年間計画等作成について充実を図っていききたい。	成果と課題 ①総合的な学習全体計画に基づき実施した。全学年を通して環境意識の向上に一層努めたい。 ②グリーンカーテン、サンパチエンス栽培等の活動を行い、環境教育推進を図った。次年度へも活動をつなげたい。	成果と課題 ①総合的な学習全体計画に基づき、各学年で取り組むことができた。 ②年間計画に従って取り組んだ。次年度、地域と連携し「いのちの森事業」に取り組む予定である。

【久木小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	・情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行い、情報教育の授業を充実させる。	①発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る。	①継続 ②情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行うとともに情報モラルの育成も図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題◆情報機器を積極的に授業や行事に活用しようとする様々な場所に工夫が見られた。さらに充実させていきたい。	成果と課題 ①全普通教室にプロジェクターが設置されたことにより活用が効果的に行われるようになった。PCルームでの機器活用も進んでいる。継続して活用能力育成を図る。	成果と課題 ①学習時、プロジェクターを効果的に活用できた。継続して活用能力育成を図る。 ②総合的な学習等を通して取り組みを進めている。次年度への継続課題としたい。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	・学校便り等で情報発信を進める。 ・ホームページを充実させ情報発信を進める。 ・個人情報に十分留意しつつ情報発信を進める。 ・家庭、地域社会との連携を深める。	①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める。 ②学校だよりやホームページ等で学校の情報を広く伝える。	①継続 ②継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・学校便り、ホームページ、掲示板活用等で地域・保護者へ計画的に情報を伝えることができた。また、学校便りは地域にも回覧でより多くの情報を提示できた。	成果と課題 ①学校支援地域本部事業と関連して学校運営へ理解と協力をいただいた。次年度も重点的に取り組んでいく。 ②学校だより、校長室だより、ホームページ等を通して多くの情報を発信できた。一層の充実を図りたい。	成果と課題 ①年3回の地域教育協議会を開催し、学校に対する理解と協力を得ることができた。 ②定期的に情報発信を行った。各学級でも学級通信等が発行し、保護者へ情報提供した。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部の設置～	・外部教育力の活用について、学校全体の整理調整を行いより計画的・効果的な活用をすすめる。 ・地域の教育力再生と新たな地域の教育コミュニティづくりを推進する。	①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援・学校環境整備支援活動を進める。 ②校庭芝生化検討委員会を設置し、芝生化に取り組む。	①継続 ②芝生管理等の作業をサポーターシステムの協力を得て行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・外部教育力の活用を年間計画を作成し計画的に進めることができた。	成果と課題 ①学校支援地域本部事業の一環として学習支援、環境整備の活動が進んだ。事業の一層の充実が課題である。 ②校庭全面芝生化により子どもにとってよい環境となった。今後、芝生の維持が課題である。	成果と課題 ①学習ボランティアの活用により学習支援を進めることができた。発展として豆腐作り・味噌作り等の活動ができ、地域との交流が深まった。 ②芝生化2年目となり継続的な取り組みを進めた。維持管理について市教委・地域と連携し、より良い方法を検討することが課題である。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	・年間2～3回の外部評価委員会を実施 ・年度末に学校関係者評価委員会を実施 ・PD③Aサイクルの整理構築 ☆学校評価結果の活用を図りたい。	①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす。	①継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した
	課題・児童、保護者、地域、教師にアンケートを実施し、アンケート結果、考察を学校便りに公表した。また、内部評価をまとめて次年度の教育活動立案に結び付けていくことができた。	成果と課題 ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催した。評価委員会の助言を受け、よりよい学校運営を考えることができた。次年度も今年度同様の教育委員会の支援を期待する。	成果と課題 ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催し、評価をいただいた。それに基づき学校運営の改善を進める。

III 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 授業研究の充実	・校内研究を中心に、授業研究を活性化する ・研究協力者・講師を活用し、充実した研究会を開催する。 ・よりよい授業づくりにむけて、全教職員が連携、協働する。	① 研究的視点から掲げたテーマに迫るため、授業研究を中心とした校内研究を進める。	① 委託研究推進校として取り組んだ成果を研究発表会において発表する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した
	課題・学年協働と外部講師の参加により、授業研究の充実を図ることができた。	成果と課題 ① 学級担任全員が小学校外国語活動を中心とした公開授業を行い、研究を深めることができた。次年度の委託研究推進校研究発表に向けて研究を進める。	成果と課題 ① 委託研究発表会を開き、2年間の研究成果と課題を発表することができた。次年度も授業研究を中心とする校内研究を継続する。
② 授業評価の活用	H21(2009)年度取組内容 ・学校評価と連動した授業評価の充実をすすめる。 ・学校評価・学習状況調査・学力調査等を参考として授業改善をすすめる。 ・授業評価について学校評価を行い、その成果と課題について検証し、教育活動の向上を図る。	H22(2010)年度取組内容 ① 作成された評価規準を活かした授業実践に取り組み。	H23(2011)年度取組内容 ① 評価規準を活かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し、検討を行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した
	課題・校内研究と一体化した授業評価を行うため外部講師を招き検討した。校内組織に評価検討部を設けて次年度から活動することにした。授業評価のより充実を図ることができた。	成果と課題 ① 評価規準を活かした授業づくりに努めた。今年度の実践を踏まえ、規準の見直し、検討を行うことが課題である。	成果と課題 ① 引き続き実践・検討を進める。「あゆみ」については、観点別評価項目とし、評価規準を一層意識した授業づくりをすすめる。
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	H21(2009)年度取組内容 素材を整理しながら、目的に応じた使用の仕方を考え、教材として活用する。	H22(2010)年度取組内容 ① 地域素材を取り入れた授業づくりを進める。 ② 研修会等の機会を利用して、地域素材の開発を進める。	H23(2011)年度取組内容 ① 継続 ② 継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・生活科・図工で地域素材が活かされた。今年は大豆作りや田植え、稲刈り、脱穀体験ができた。また、講師の方と実際に歩いて地域を探索することにより歴史、自然についての情報を収集した。	成果と課題 ① 中学年の地域学習、6年の歴史学習・総合的な学習の時間において地域素材を活用した。 ② 校内研修や教育研究所研修を通し地域素材開発に努めた。継続した取り組みが必要である。	成果と課題 ① 中学年の地域学習、6年の歴史学習・総合的な学習の時間において地域素材を活用した授業を展開した。また社会科では、地域の方やかながわ考古学財団職員を招いて地域の歴史を学習した。 ② 「地域の素材を活かした授業づくり」講座を設け、職員研修を行った。継続して取り組む予定である。
④ 研修事業の充実	H21(2009)年度取組内容 ・校内研修の充実にも努めるとともにそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会へ積極的に参加し校内で共有化していく体制作りをすすめる。 ・教職員が研修に自主的に取り組めるよう支援体制づくりをすすめる☆研修時間を確保していく。	H22(2010)年度取組内容 ① 初任研、年次経験者研修において校内協力体制を作り、研修指導にあたる。 ② 校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する。 ③ 逗子市教育指導員を積極的に活用する。	H23(2011)年度取組内容 ① 継続 ② 継続 ③ 継続
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題・校内研修の充実にも努めると共にそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会に参加することができた。また、研修内容を校内で共有化することができた。	成果と課題 ① 計画的な研修が実施できた。 ② 積極的に研修会・研究会に参加し、成果を校内に還元することができた。 ③ 臨任・非常勤教員の授業力向上に役立った。	成果と課題 ① 計画的な研修が実施できた。 ② 研究所夏季研修等に積極的に参加する教職員が増えている。地域を知るための研修にも参加し、素材開発に有効であった。 ③ 臨任・非常勤の授業力向上のため、今後も積極的に活用したい。

平成21年度～平成23年度 学校による点検及び評価の推移(小坪小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み		①「コミュニケーション力の向上」をめざした授業づくりをテーマとし言語活動の充実を図る。 ②「聴く・話す」の段階指導に取り組む。	①課題意識の明確な授業を目指し、言語活動の充実を図る。 ②聴く・話すの段階指導の改善を図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
		成果と課題 ・年間を通じて、どの学級でも継続的に課題を示し宿題として取り組みが定着した。 ・校内研究を継続し、聴いて考えつなげる授業の構築ができてきた。 ・先進校を視察した結果、学級ごとの取り組みに課題が残ることを認識した。 ・チーム小坪として年度当初の取り組みを統一する。	成果と課題 ・年間指導計画を見直し、新学習指導要領で求められている言語活動の充実を意識して改善に努めた。 ・校内研究を継続し、聴いて考えつなげる研究授業を実施し、研究を進めることができた。
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	H21(2009)年度取組内容 ・少人数指導やチームティーチング指導方法の工夫改善の取り組みの総括 ・児童が自主的に課題学習の課題を持って取り組み、定着が図れるように指導する。 ・自ら課題に取り組む学習方法の定着を目指す。 ・分析に基づいて、テスト内容の適否を検証する。 ・活用を年間の教育課程に位置づける。	H22(2010)年度取組内容 ①児童が課題を持って取り組み、定着が図れるように指導する。 ②家庭との連携をとりながら家庭学習の充実を図る。	H23(2011)年度取組内容 ①児童が課題を立てその課題に取り組む、定着が図れるように指導する。 ②家庭学習においても家庭との連携を図り、個別の課題に沿った学習に取り組ませる。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	◆一人学びの推進	成果と課題 ・全学級で基礎基本の定着に向けた取り組みをした。 ・毎日家庭で学習する習慣が身についた。 ・授業改善の取り組みの「一人学び」に通じる家庭学習にしていく必要がある。	成果と課題 ・各学年学級では、基礎学力の定着を意識した取り組みを進めていたので、落ち着いた学習環境で授業が展開できた。 ・学習内容については、個別の課題に沿った内容を個人面談や連絡帳等で家庭と連携をとり、学習の定着に向けて取り組んだ。
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	H21(2009)年度取組内容 ☆学校独自の図書資料の作成を行う。 授業に活用しやすい図書資料一覧を作成する。 ・コミュニケーション力の向上が図られているか検証の在り方を検討し、総括する。	H22(2010)年度取組内容 ①「PISA型読解力」についての理解を深め、その育成に取り組む。	H23(2011)年度取組内容 ①「PISA型読解力」の育成を図る授業に取り組む。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した	(評価) ① 達成した
	◆図書資料は活用したが、一覧の作成には至らなかった。	成果と課題 ・高木教授の指導の下、職員全体でPISA型読解力についての理解が深まった。 ・高木教授により文部科学省の評価チームの検討結果を直接聞くことができた事により、正しい理解ができた。 ・新しい学力観に基づき、従来の評価の考え方を変えていく必要がある。	成果と課題 昨年度に引き続き、高木教授を講師として招き、職員全体でPISA型読解力についての授業を行い、理解を深めた。 ・新しい学力観について、評価の考え方について検討することができた。今後は、授業づくりの充実を通じ継続的に取り組んでいく。 ・新しい学力観に基づき、従来の評価の考え方を改めていく必要がある。
④ 読書活動の推進	H21(2009)年度取組内容 ・小坪小の特色であり、日常活動を通して継続的に努める。 ・関係機関との取り組みの中で、読書活動の定着を図る。 ・活用事例を冊子にまとめる。 ・蔵書の充実を図る。	H22(2010)年度取組内容 ①小坪小の特色であり、朝読書など日常活動を通して継続的に努める。 ②小坪選定図書を活用に取り組む。 ③一人ひとりの読書量の増加や多様化をめざす取り組みをする。	H23(2011)年度取組内容 ①朝読書の継続と、読書ノートの充実を図る。 ②小坪選定図書の蔵書数を増やし、読書週間を設けて取り組みをする。 ③家庭との連携を図り、日常的な家庭での読書習慣をつけさせる。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	◆読書活動推進に児童の発想を生かしていきたい。	成果と課題 ・学校図書館指導員と協力し、どの学年も取り組みを進めることができた。 ・市立図書館や地域の方々との連携を図ったり、子どもたちが活発に図書館を活用したりするシステムを立ち上げることができなかった。 ・学級担任による各学級の取り組みをいっそう進める必要がある。	成果と課題 ・学校図書館指導員と協力し、どの学年も取り組み、読書活動が定着してきた。 ・市立図書館や地域の方々との連携を図ったり、子どもたちが活発に図書室を活用したりできるよう期間や読みやすい場を提示することができた。 ・図書室より図書だよりを出し、家庭へ情報提供をしたり、学級担任による読書の取り組みを進めたりすることにより、本を読む機会が増えてきた。
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	H21(2009)年度取組内容 ・対外機関との連携の在り方を検討する。 ・特別支援学級の児童との交流の機会を増やす。	H22(2010)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターの活用を中心とした組織的対応に取り組む、体制を整える。 ②対外機関との連携の在り方を検討する。 ③校内支援シートの活用	H23(2011)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターの活用を中心として、校内支援体制の見直しと充実を図る。 ②対外機関との円滑な連携をめざし、ネットワークを確立する。 ③校内支援シートの充実
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	◆普通級における支援を今後も検討していく。	成果と課題 ・小坪小学校としての支援体制が確立できた。 ・教育相談コーディネーターを中心に、対外機関との連携を図り、支援を進めることができた。 ・校内支援体制が定着してきている。それに伴って担任や保護者との連携も密になってきている。支援シートの活用について具体的な支援の在り方を進めている。 ・職員の構成に合わせて、毎年体制を見直し、柔軟に対応できるようにする。	成果と課題 ・教育相談コーディネーターを中心とした小坪小学校の支援体制が確立できた。 ・教育相談コーディネーターを中心に、対外機関との連携を図り、支援を積極的に進めることができた。 ・校内支援体制が定着し、担任や保護者との連携も密になり、個々の児童の持つ課題について共有できるようになった。支援シートが完成し、支援シートの具体的な活用ができるようになった。 ・職員の構成に合わせて、毎年体制を見直し、柔軟に対応できるようにする。

I 子どもたちの学力向上

2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>・発達段階に応じた指導の工夫を図る・言葉遣い全体について考えて、検討してみる。 ☆言葉遣いについての指導の評価を行う。 ・行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的にを行う。 ・保護者、地域との双方向の取組を目指す。</p>	<p>①行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的にを行う。 ②健康3原則に沿った生活課題の改善に取り組む。 ③めざす子ども像を共有し、発達段階に応じた指導のあり方を工夫する。</p>	<p>①行動目標達成に向けた、家庭での取り組みをめざす。 ②保護者、地域との双方向の取り組みをめざす。 ③講演会等を開催し、発達段階に応じた家庭での取り組みを促す。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>◆家庭の役割を積極的に提言したい。</p>	<p>成果と課題 ・学校目標やめざす子ども像などが保護者に周知されている事が、学校評価アンケート結果から読み取れる。 ・日頃から児童には指導をしてきている。今後は保護者向けに情報発信を積極的に進めていきたい。 ・今年度の重点目標として、学校全体で取り組んだ結果目指す子ども像の姿に近づくことができた。さらに子どもの姿をしっかりとらえ、発達段階に応じた指導を続けていきたい。 ・保護者と学校目標の共有化が図られたが、生活習慣の定着に向け家庭とのいっそうの連携が必要である。</p>	<p>成果と課題 ・学校目標やめざす子ども像などを学校便りや懇談会等で積極的に情報を伝えてきた。その成果について、保護者に周知されている事が学校評価アンケート結果から読み取れる。 ・保護者・地域に向けて学校便りやホームページ、掲示板等で積極的に情報発信を進めることができた。 ・今年度のめざす子ども像について各家庭に学校便り、学年便り等で伝えてきた。講演会では、発達段階に応じた家庭での育て方について話し合い、情報交換を得る機会を持つことができた。</p>
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>前年度の反省を生かしながら、今年度の具体的な方法を考える。 ・コミュニケーションを高めるための具体的な手立てについて実践する。 ・行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的にを行う・保護者、地域との双方向の取組を目指す。 ・児童一人ひとりのあいさつ運動の具現化に取り組む。</p>	<p>①道徳を始めとする日常的な学習の中で、発達段階に応じた規範意識や人権意識の育成に取り組む。 ②学校内における縦割り集団の活用や、学校外における体験活動により、異年齢交流を進める。</p>	<p>①道徳全体計画を見直しながら、指導の充実をめざす。 ②体験的な学習や校外学習の中で、計画的に取り組む。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>
	<p>◆保護者、地域への働きかけの継続</p>	<p>成果と課題 神奈川県の人権教育研究委託に取り組み、自己肯定感の育成に取り組む一定の成果を見た。 ・学校行事や児童会活動を通して、発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫している。 ・QU調査により児童の意識を把握することができた。結果を分析し次年度の指導に生かす事ができるようにする。</p>	<p>成果と課題 ・道徳教育の日常化を目指し、学年ごとに発達段階に応じた取り組みを進めた。 ・縦割り行事の年間計画を立て、学校行事や児童会活動を通して、発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫している。</p>
③ 豊かな体験活動の推進	<p>・小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る。 ・全校での取り組みの精選を図る。 ☆ふれあい活動を系統立てて整理する。</p>	<p>①小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の見直しを図る。 ②様々な体験活動を通して、問題解決的な学習を進める。</p>	<p>①小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る。 ②様々な体験活動を通して、問題解決的な学習を進める。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>
	<p>◆地域行事への積極的な参加をすすめる。</p>	<p>成果と課題 ・行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。 ・計画通りの体験活動を実施した。年間計画に位置づけ、活動の定着を図りたい。</p>	<p>成果と課題 ・小坪小の行事や体験学習等を活用して全学年で地域とのふれあい活動を展開した。 ・体験活動を年間計画に位置づけ、各学年で取り組んだ。</p>
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	<p>・小坪小学校としての健康教育の実践計画をもとに保護者と共に活動を推進する。 ・小坪小学校としての食教育の実践計画をもとに保護者と共に活動を推進する。 ・小坪小HPにて「おいしい給食」コーナーを設け広報と啓発を図る。 ・内容の工夫改善を図る。</p>	<p>①小坪小の食育全体計画の活用と改善を図る。 ②小坪小の性教育全体計画の活用と改善を図る。</p>	<p>①食育の年間計画の改善を通していっそうの充実をめざす。 ②発達段階や児童の実態に応じた性教育の年間計画の改善を図る。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>
	<p>◆食育を今後も積極的に推進していく。</p>	<p>成果と課題 ・全学年で食の指導計画を示すことができ、各学年とも計画に即した取り組みを進めてきている。 ・全学年で性教育の指導計画を示すことができ、各学年とも計画に即した取り組みを進めてきている。</p>	<p>成果と課題 ・食の指導の年間計画を作成し、各学年とも計画に即した取り組みを進めてきている。 ・全学年で性教育の指導計画を示すことができ、各学年とも発達段階に応じた取り組みを進めた。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	<ul style="list-style-type: none"> ・年7回の訓練等を実施し、児童が安全に避難できるようにする。 ・訓練内容の工夫改善を図りながら継続的に取り組む ・マニュアルの徹底を目指す訓練を実施する。 ・マニュアルの見直しを行い、実質的なマニュアルを作成する。 ・地域の安全マップを利用して、児童自身に危険を回避する力をつける。 ☆メール配信システムを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①PTA作成の地域の安全マップを利用して、児童自身に危険を回避する力をつける。 ②地域と連携し、現地検証しながら児童自身が地域安全マップを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童自らの安全意識を高めるために、防犯、防災両面の取り組みを充実させる。 ②大地震、大津波対応の避難方法の確認と避難経路整備を図る。
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>◆メール配信システムの推進</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯教育については計画的重点的に指導ができた。 ・学校支援地域本部やPTAと連携しながら地域安全マップを作成した。作成したものを見守り隊や地域の方にも紹介できた。 ・防災教育については特に、地震対応について指導の改善を図る必要がある。 	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①防犯教育については、専門家呼び、児童・教職員・保護者へ不審者対応訓練を行うことができた。また、サマースクールにおいても地域の方々を対象として不審者対応訓練を実施した。 ②大地震、大津波等の緊急時避難経路の整備を行い、大津波対応の避難方法の確認を行った。
② いじめ・不登校等への対応の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめチェックリスト」の項目の見直しを検討する ・言葉遣い全体についても考えさせる。 ☆言葉遣いについての指導とその評価を行う ・コミュニケーション力の向上が図られているか検証の在り方を検討し、総括する ・より実効的な取り組みができるように組織図の見直しを図り、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の確立と改善 ②いじめチェックリストの改善と継続的な活用に取り組む ③他機関やスクールカウンセラーの計画的活用 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育相談コーディネーターを中心とした予防的校内体制の確立 ②いじめチェックリストの改善と継続的な活用 ③他機関やスクールカウンセラーの計画的活用
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>◆組織的対応のいっそうの改善と引き継ぎ。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小坪小の支援体制が確立できた。 ・支援の必要な児童の対応に全校体制で取り組むことができた。 ・いじめチェックリストを活用し計画的に取り組んだ。 ・他機関やスクールカウンセラーを計画的活用して児童指導支援を進めることができた。 	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小坪小の支援体制が確立し教育相談コーディネーターを中心とした活動が実施できた。 ・支援の必要な児童の対応に全校体制で取り組み、効果を上げることができた。 ・いじめチェックリストを活用し計画的に取り組んだ。 ・他機関やスクールカウンセラーを計画的・積極的に活用して児童指導支援を進めることができた。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けた教育課程の授業・工夫といった取り組みをする。 ・教育課程上の関係を検討する。 ☆キャリア教育の充実を図る。 ・キャリア教育に関する単元開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生活科を活用した子ども同士の交流や授業体験を推進する。 ②幼稚園、保育園、中学校との指導上必要な情報の共有に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生活科・総合的な学習の時間を活用した子ども同士の交流や授業体験を推進する。 ②幼稚園、保育園、中学校との指導上必要な情報の共有化に取り組む。
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>◆キャリア教育の計画計画作成の取り組みが必要</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようこそ小坪小集会に幼稚園、保育園児を招待し様々な体験活動を行い、交流を深めることができた。 ・幼稚園、保育園児による授業参観、中学校の先生との日常的な情報の共有により、入学前の交流の充実が図られた。 	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようこそ小坪小集会に幼稚園、保育園児を招待し様々な体験活動を行い、交流を深めることができた。 ・幼稚園、保育園児による授業参観、中学校の先生との日常的な情報の共有により、入学前の交流の充実が図られた。
④ 国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の中に位置づけ、IEAを活用し英語活動を中心とした国際教育を行う。 ・英語活動の全体計画の作成に取り組む。 ☆年間指導計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業実践を通して外国語活動の年間計画を作成する。 ②「IEA」の効果的な活用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業実践を通して外国語活動の年間計画の改善に取り組む。 ②国際教育指導助手の効果的な活用を進める。
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>◆23年度に向け年間計画を完成する。</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究はできたが、70時間分のカリキュラム作成には至らなかった。 ・国際教室を設置し、休み時間にもIEAと子ども達との交流が図れるようにした。 	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を作成し外国語活動の授業実践を進めることができた。 ・国際教育指導助手と協力して日常的な交流や教材開発を進めることができた。

【小坪小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	☆キャリア教育の視点で単元開発を行う。 ・単元を授業実践していく。 ・地域の人材を生かしながら、生き方の指導を行う。	①日頃の授業をキャリア教育の視点で見直し、学年の発達段階に応じたカリキュラムを作る。	①日頃の授業をキャリア教育の視点で見直し、学年の発達段階に応じたカリキュラムを作る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった	(評価) ① 達成できなかった
	◆教員にキャリア教育の実施を意識させる。	成果と課題 ・小学校におけるキャリア教育の視点を作ることは出来たが、カリキュラム作成には至らなかった。	成果と課題 ・学校生活全般を意図的に活用しているとはいえなかった。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	・小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年に応じた取り組みを行う。 ・全体計画作成に取り組む。	①小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年の発達段階を生かした取り組みを行う。 ②関係諸機関との連携を図りながら福祉教育の体験的な活動を推進する。	①小坪の自然・社会・人的環境を生かした。単元開発を行う。 ②関係諸機関との連携を図りながら福祉教育の体験的な活動を計画的に推進する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	◆取り組みの記録を充実させ、継続を図る。	成果と課題 ・各学年の年間計画に従って発達段階に応じた取り組みを行った。 ・福祉学習の計画・実施に関わって連携することができた。	成果と課題 ・小坪地区を生かした年間計画に従って各学年の発達段階に応じた取り組みを行った。 ・福祉学習の計画・実施に関わって連携して進めることができた。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	・整理して実践事例を資料に残していく。	①4年生の総合的な学習の時間を中心に、その活動への協力等を通して、環境に対する意識を育てる。 ②地域の人と連携し多様な環境教育に取り組む。	①4年生の総合的な学習の時間を中心に、その活動への協力等を通して、環境に対する意識を育てる。 ②地域の人と連携した活動を通して多様な環境教育に取り組む。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	◆活動の精選と充実	成果と課題 ・教科・総合的な学習の時間等を通して環境学習に取り組んだ。 ・地域との連携について進めることができなかった。 ・環境に関する授業を教育課程上に位置づけることができなかった。	成果と課題 ・総合的な学習全体計画に基づき、計画的に環境学習に取り組んだ。 ・地域との連携を深め、地域の講師を招くことができた。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	・学年の段階を踏まえた年間計画を工夫する。	①「ICT」を活用した授業を積極的に行う。 ②情報の発信者としてのモラルの育成を図る。	①「ICT」を活用した授業の単元開発に取り組む。 ②情報の発信者としての発達段階に応じたモラルの育成を図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	◆リテラシー獲得のための指導の充実	成果と課題 ・外部講師の出前授業により専門性の高い授業を行うことができた。 ・情報リテラシーの育成とともに、校内研修を開催しネット上での情報交換の場における、エチケットやモラルの教育の推進を図った。	成果と課題 ・外部講師の出前授業や講習会により専門性の高い授業を行うことができた。 ・情報リテラシーの育成とともに、校内研修を開催しネット上での情報交換の場における、エチケットやモラルの教育の推進を積極的に進めた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	・HPの内容について検討し精選を図る。 ・行動目標が保護者・地域の協力を得た取り組みになるよう工夫する。 ・地域の方々の学校への意見を取り入れる方法を工夫する。	①ホームページの内容を精選し継続的な更新を図る。 ②研究会や授業公開を通して学校運営に対する理解を図る。	①ホームページの内容を精選し継続的な更新を図る。 ②研究会や授業公開を通して学校運営に対する理解を図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	◆学校HPの内容の精選と継続性を図る。	成果と課題 ・個人情報の保護に十分配慮しつつ、ホームページにおいて情報の発信ができた。ホームページの更新は2週間に1回行うことができた。 ・保護者の授業研究会への参加により学校教育への理解が図られた。	成果と課題 ・ホームページについては、情報担当を中心として積極的に校内外へと情報発信をしてきている。内容の精選と更新について、継続していきたい。 ・保護者の授業研究会の参加者が昨年よりも増えている。学校教育への理解を深めることができた。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部の設置～	・開発した単元を検証改善していく。 ・図書ボランティア・クラブボランティア。 ・花壇ボランティアを活動内容を改善する。	①地域コーディネーターとの連携を図り、小坪地域の特色を生かした人材活用を進める。 ②地域の方々、児童、教職員が共に育ち合う活動に取り組む。	①地域コーディネーターとの連携を図り、小坪地域の特色を生かした人材活用を計画的に進める。 ②地域の方々、児童、教職員が共に育ち合う活動に計画的に取り組む。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	◆地域支援本部事業の充実を目指す。	成果と課題 ・サマースクールや生活科等では、小坪地域の特色を生かした人材活用を進めることができた。さらに事業の一層の充実を図りたい。 ・小坪音頭、普遊び、お話し会の方々と交流を深めることができた。今後は担当学年の幅を広げ、内容の充実を図りたい。	成果と課題 ・地域支援本部の内容の再確認を行った。また、地域コーディネーターとの連携を密にするため、年間計画の確認や取り組み方の連絡を取り合い、事業を円滑に進めることができた。 ・年間を通して多くの地域講師に来ていただけるよう校内で活動計画づくりをして取り組んだ。

【小坪小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<ul style="list-style-type: none"> PDCAのサイクルをより短期間にするため工夫改善する。 ☆学校評価委員会の活用 ☆第三者評価を試行校として実施 ・評価の公開について意見を求める方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①視点を明らかにし、重点を置いた学校評価に取り組む ②評価の結果を次年度の活動に生かす 	<ul style="list-style-type: none"> ①評価結果を公開し、広く意見を求め学校の改善につなげる。 ②活動を公開し、改善の取り組みに理解や支援を求める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	◆第三者評価を次年度に生かしていく。	成果と課題 ・今までの学校評価を生かし、重点的に行うことができた。 ・児童と保護者のアンケートに記述部分を設けたことで、職員全体でそれらの意見を把握することができた。 ・評価結果を見るだけでなく学校全体で学校評価に取り組む必要がある。	成果と課題 ・児童・保護者・教職員のアンケートをとり、その結果を学校関係者評価委員会、学校評議員会、職員会議等で、今後の課題として話し合った。また、その結果を学校便り、ホームページ等で積極的に伝えることができた。 ・学校評価のあり方やアンケート内容について教職員で話し合い、課題解決に向けてさらに工夫改善を図ってきたい。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 授業研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力の向上が図られているのかどうかの検証の在り方を検討することを通じ、研究の総括をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内研究に引き続き取り組み、コミュニケーション力の向上が図られているかどうかの検証する。 ②人権教育の指定研究に取り組む。 ③外部講師の活用を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内研究に取り組み、教師の授業力の向上をめざす。 ②人権教育の指定研究に取り組む。 ③外部講師の活用を積極的に行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	◆評価の日常化をすすめた。	成果と課題 ・授業公開を通じ、校内研究における成果が見られた。 ・校内研修を行い、児童に人権感覚を身につけることができるよう授業研究を行い指定研究のねらいに向けて具体的な取り組みができた。 ・外部講師を招聘し他校の様子や研究の進め方について学んだ。 ・コミュニケーション力を育むために、学級を共同体として創り上げる学級経営の工夫に引き続き取り組む必要がある。	成果と課題 ・昨年度に引き続き、校内研究では「コミュニケーション力」の向上を目指して取り組んだ。お互いの研究授業を見合い、研究討議を重ね内容を深めることができた。 ・人権教育の指定研究発表に向けて全学年で取り組み、子ども達が「人権感覚」を身につける事ができるような授業を実施した。また、それらの実践内容を指定研究「人権教育発表会」で報告することができた。 ・外部から講師を計画的に招へいし、児童の見方や具体的な指導法について学ぶことができた。
② 授業評価の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉テストの結果を年間指導計画作成に生かす ☆評価規準の作成と指導要録の評定の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ①参観の視点や協議の観点を明確にした授業研究を行う。 ②児童相互の授業参観を行い、教師と児童が一体となった授業改善に取り組む。 ③外部講師による授業評価の計画的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①視点や協議の観点を明確にした授業研究に保護者の参加を促す。 ②児童相互の授業参観を行い、児童の評価活動を授業改善に生かす。 ③外部講師による授業評価の計画的な実施
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	◆児童による授業評価に取り組む	成果と課題 ・年間を通じた取り組みを通して、授業研究方法の充実が図られた。 ・児童相互の授業参観などを通して、児童の主体的な活動を重視する授業づくりが図られた。 ・研究授業の際に指導講評の中でしていただいた。	成果と課題 ・年間を通じた取り組みを通して、授業研究方法の充実を図ることができた。また、研究授業に保護者の参加を促し、より多くの方に参加いただき、本校の取り組みを説明することができた。 ・昨年度に引き続き、児童相互の授業参観を実施し、児童の評価活動を授業改善に活かす取り組みができた。 ・外部講師の計画的な招聘により、適宜、授業の指導講評をいただくことができた。
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を生かした授業を試みる 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域素材活用のために講師を招き研修会を行う。 ②地域教材を使った単元開発に取り組む。 ③わたしたちの小坪風土記を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①市内の学校と連携し教材の共有化を図る。 ②地域教材を使った授業の改善を図る。 ③小坪風土記を使った単元開発に取り組む。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した
	◆講師の招聘、郷土資料室の整理活用に取り組む	成果と課題 ・地域素材活用のための地域講師による研修を実施できなかった。 ・地域の特色を生かした新たな単元開発ができた。(矢の根井戸) ・4年生では、副読本として積極的に活用した。	成果と課題 ・市内学校との連携した教材共有化については、なかなかお互いの都合がとれずできなかった。 ・サマースクールをはじめとして、各学年において地域講師を積極的にお願いし、地域素材(小坪の自然、史跡)を利用した授業を行うことができた。 ・4年生での副読本の利用が定着化してきた。
④ 研修事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、現職教員の研修を計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校外の研修への参加を促し、専門的力量的向上を図る。 ②現職教員の資質を生かした校内研修を計画的に行う。 ③引き続き児童指導に関する研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校外の研修への参加を促し、専門的力量的向上を図る。 ②現職教員の資質を生かした校内研修を計画的に行う。 ③児童指導に関する研修を継続する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	◆研修と研究の一体化を目指す	成果と課題 ・計画的な研修が実施できた。 ・長年に渡り継続的に指導を受けている講師による研修は、職員の意欲を喚起する研修になっている。 ・ニーズを把握した研修をいかに実施するかが課題である。	成果と課題 ・校内外の研究を充実することにより、研究内容も深まり、計画的な研究ができた。 ・特に他校の研究発表会に参加し、それらの内容を共有できたことは、校内研究を進める際に参考となった。 ・児童指導・支援については、計画的な研修会を設定し、全教職員で取り組んできた。今後さらに、支援教育を必要とする子ども達についての研修を深めていきたい。

平成21年度～平成23年度 学校による点検及び評価の推移(池子小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み		①新学習指導要領の全面実施に向け、言語活動の充実を目指した教育課程を編成する。 ②総合的な学習の時間の全体計画を見直し、探求的な学習の充実を図る。	①新学習指導要領の全面実施に伴い、言語活動の充実に向けた教育課程の見直しを図る。 ②総合的な学習の時間の全体計画の改善に取り組む。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
		成果と課題 ①年間指導計画を見直し、新指導要領で求められている言語活動の充実を意識して改善に努めた。 ②総合的な学習の時間の全体計画を見直し、教員の共通理解を図った。 ・今年度の実践を足跡カリキュラムとして残し改善を積み重ねていくように取り組む。	成果と課題 ①各教科・道徳・総合的な学習の時間等様々な学習の場面で言語活動の充実を意識した授業に取り組んだ。 ・全体で、各学年の指導計画を見直し、学年間のたてのつながりを意識する取り組みに着手した。 ②総合的な学習の時間の全体計画を見直し、実態に即して改善を加え、共通理解を図った。 ・年度末に足跡カリキュラムを残すよう取り組んだが、まだ不十分であり今後の課題である。
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	H21(2009)年度取組内容 継続 ☆単学級への対応、児童指導支援部との連携を進める。	H22(2010)年度取組内容 ①少人数指導やチーム・ティーチング、小集団など多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ②指導方法の工夫・改善、ICTの活用を図り、学び合う中で活用し、探求する力を養う。	H23(2011)年度取組内容 ①多様な学習形態による授業を計画し、互いに見合うことで、学習効果について検討する。 ②ICTの活用場面に関する研修を校内でも行い、指導の充実を図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆児童指導支援体制の充実により支援の必要な児童への対応が進められた。単学級の学年へ多くの教師が関わる体制を一層進める。	成果と課題 ①多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図った。 ②教材提示装置等を活用し、自分の考えを発表したり、友だちの考えと自分の考えをつなげて考えたりする学習活動を多く取り入れた。	成果と課題 ①2学年ずつのブロックで授業研究をすすめ、互いに見合う機会を設定し、多様な学習形態を工夫したり、学習効果について検討したりした。 ②教材提示装置を活用した授業が増え、児童が学びあう場が工夫されるようになった。
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	H21(2009)年度取組内容 継続 ☆新指導要領に示された言語活動の充実を目指す。	H22(2010)年度取組内容 ①「逗子市読解力向上プラン」に基づき、各教科、総合的な学習の時間等を通じて言語活動の充実を図る。 ②文章や資料を読む機会や自分の意見を述べる機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。	H23(2011)年度取組内容 ①「読解力」の向上に関する年間計画および実践内容を学年ごとに集約する。 ②学力調査などの客観的なデータを分析し、コミュニケーション能力育成の指導の改善を図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題・新指導要領のねらいを踏まえた校内研究の推進により言語活動の充実に向け成果があった。この取り組みを継続する。	成果と課題 ①各教科、総合的な学習の時間等を通じて、自分の考えを伝えることができた。 ②資料活用機会を多く設定し、根拠を明確にして自分の意見をまとめる力の育成をめざした。	成果と課題 ①読解力の育成に向けた各学年の取り組みを集約することはできた。今後の課題は年間計画を毎年見直し、ねらいを達成するために充実した指導内容にしていることである。 ②学力調査が実施されなかったことにより、データを分析して活用する機会がなかった。
④ 読書活動の推進	H21(2009)年度取組内容 *学校図書館と市立図書館との連携を深めたり、保護者・地域との連携を深めたりしながら、読書活動のネットワークを広げる。	H22(2010)年度取組内容 ①学校図書館の機能向上のため、蔵書のよりよいデータベース化を調査する。 ②保護者や地域との連携を図りながら、読み聞かせ等、子どもの発達段階に応じた読書活動を推進する。	H23(2011)年度取組内容 ①図書室の環境向上のため壁面の塗装を行うとともに、エアコンの設置を市に要望していく。 また、蔵書のデータをパソコンに入力し検索を容易にするため、校内でのデータベース化を目指す。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した
	課題 ◆池子お話会の活動の他、保護者が朝の時間等に読み聞かせを行うボランティアの活用も進めることができた。継続した取り組みを進める。	成果と課題 ①データベース化の前段階として、蔵書の見直しを行い資料を新しいものに入れ替えるように努めた。理科や社会科・総合的な学習等の調べ学習に活用できるよう、資料がより新しい本を購入したり、複本のある学校に譲ってもらったりし、整備に努めた。 ②ボランティアによる「お話会」を年間計画に位置づけ、読み聞かせの機会を確保した。	成果と課題 ①学校支援地域本部で図書室壁面の塗装を行うことができ、また市教委の事業でエアコンが設置されたことで環境面の改善が大きく進んだ。 書籍のデータベース化は、校内の蔵書のデータの一部をパソコンに入力している段階である。
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	H21(2009)年度取組内容 *引き続き校内児童指導支援体制の充実を図る。 *幼保小中の連携を深め、一貫した視点で児童の指導に当たれるよう情報交換を密にする。	H22(2010)年度取組内容 ①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の機動性を高め、また関係機関との連携を推進する。 ②保護者と学校が子どものニーズに対して共通理解を深め、協働して支援の充実を図る。	H23(2011)年度取組内容 ①支援教育に関する研修の機会を増やし、児童理解を深め、情報の共有に努める。 ②保護者・地域に対して校内支援体制についての情報を発信し、理解を深める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆学校運営の大きな柱として支援教育を位置づけ、教育相談コーディネーターを中心に支援体制の充実を継続的に進める。	成果と課題 ①何か問題が起きたとき、外部機関と関連しながら速やかに対処できた。 ②配慮を要する児童について職員で情報を共有するとともに、児童支援のあり方や保護者対応について事例に基づく研修を行った。そのことにより、保護者との連携のあり方を見直し、個人懇談等により連携を深めることができた。 ・6年間の学びの中で児童指導支援のあり方についてさらに研修を深め、学校全体での組織的な児童指導をより充実させていく。	成果と課題 ①講師を招いての研修の機会を多く持ち、具体的な事例から児童理解を深めることができた。また、事例検討では、配慮が必要な児童の情報共有の場 つながり、対応について共通理解を図ることができた。 ②学校説明会、地域教育協議会等の機会に教育相談コーディネーターを中心とした本校の支援教育のあり方について説明し理解を深めた。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	* 継続 評価 S・A・B・C 課題 ・食育への取り組みが進んだ。保護者との連携を密にし、生活習慣改善を行う。	①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活の中で基本的な生活習慣の向上を目指す。 ②家庭と連携し、食習慣や家庭学習を含めた生活習慣の確立を目指す。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①あいさつ運動は浸透し、子どもたちもあいさつができるようになってきたので、今後も継続していく。 ②懇談会、PTAの会合等、折に触れ基本的な生活習慣の確立の重要性を保護者に伝え、協力を呼びかけてきた。	①あいさつ運動を継続して行うなど、基本的な生活習慣の充実を図る。 ②幼稚園・保育園との情報交換を密にしておく。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①学校評価アンケートの中でも、児童のあいさつについては評価されている。昨今の社会状況を考えると、今後は、校内での来校者へのあいさつを徹底するように指導を徹底していきたい。 ②新入学児童の観察と情報交換のため、今年度からは、教頭に代わり、教育相談コーディネーター、養護教諭、1年担任が幼稚園訪問を行うようになり、より具体的な情報交換ができるようになった。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	* 20年度までの実践を踏まえ、より豊かな人間関係づくりを目指す取り組みを推進する。 ☆あいさつ運動を継続して積極的に行う。 評価 S・A・B・C 課題 ◆ふれあい活動の成果が見られた。よりよい人間関係づくりのため取り組みの充実を図る。	①道徳教育を、道徳の時間を要として様々な学習活動の中で新学習指導要領の内容を計画的に推進する。 ②体験活動の充実を図り、体験を通した心に響く道徳授業の充実を図る。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①各教科の学習の中で、計画的に行うことができた。 ②様々な体験活動の中で、心に響き生活に活かされる授業の充実を図っていく。	①道徳の全体計画を見直し、その要としての道徳の授業の充実を図る。 ②学校支援地域本部と連携し、地域の人材・環境を生かした道徳の授業実践を展開する。 (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①年間指導計画の中で、各教科と道徳との関連が示されるように担当が働きかけ、道徳の授業だけでなく、様々な学習場面の中で、道徳的価値を見直すように努めた。 ②学校支援地域本部との連携は進んだが、道徳だけではなく学習面での新たな人材の掘り起こしまでは至らなかった。今後は様々な地域の人材・教材の掘り起こし、支援を求めていきたい。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	* 20年度までの実践を踏まえ、豊かな体験活動を推進する。 評価 S・A・B・C 課題 ◆文科省の芸術家派遣事業等も生かし、体験活動の充実に取り組めた。一層の充実を目指す。	①地域の特性を生かした自然体験や福祉体験学習、勤労体験を充実させ、社会性や協調性を養う。 ②集団宿泊活動を通して、規範意識の向上と、思いやり、信頼関係を高める。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①地域の教育力を活用し、充実させることができた。 ②キャンプ、修学旅行での5、6年たてわり活動を通し、集団生活のマナーや役割意識を育て、異学年とのふれあいの中で思いやりや信頼関係を育むことができた。	①学校支援地域本部と連携し、地域教育力を活用した体験活動の充実を図る。 ②授業時数確保の中で、集団宿泊活動の内容を精選し、指導計画の改善に取り組む。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①学校支援地域本部が1年生の学習にズシッ(老人会)が協力し、昔遊びや紙飛行機飛ばしなど、体験が充実した。 ②キャンプ・修学旅行の実施場所を、実地踏査するなどして検討し内容の充実と安全確保を図り、体験活動の充実をめざした。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	* 具体的な課題を持って健康教育の推進を図る。 ☆食育の充実を目指した指導計画を作成する。 評価 S・A・B・C 課題 ◆21年度、食育の充実に向けた取り組みが大きく進んだ。この成果を生かし、全体計画を基に実践を進める。	①健康の基本である食生活をはじめとする食育や、スポーツを通じた体力づくりを計画的に推進する。 ②家庭との連携のもと、発達段階に応じた禁煙・薬物・性教育等の健康教育を推進する。 (評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①全校で食育に取り組むことができ、共通理解が図れた。今後は家庭と連携して行っていきたい。 ②性教育の全体計画をもとに、発達段階に応じた性教育を実施するとともに、6年生を対象に、薬物防止キャンペーンでの学習を行った。養護教諭と担任が連携し、禁煙教育を推進した。	①食育の年間計画を見直し実践する力を育成する。 ②健康的な生活に関心を持たせるような取り組みをし、家庭と共に推進する。 (評価) ① 達成できなかった ② 達成した 成果と課題 ①前年度の継続として、様々な教科の中で食育への取り組みは見られたが、年間計画の見直しには至らなかった。年間反省の中でも教育課題に対する取り組みについて検討しているため、今後の課題としていきたい。 ②給食だより、ほげんだより、廊下の掲示物等を通して、児童の食に対する関心を深める働きかけはできた。食の安全に対する意識が社会的に高まる中、今後食育の重要性は増すと考えられるので、さらなる取り組みを検討していきたい。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進～防災教育の推進～	継続 評価 S・A・B・C 課題 ◆今年度進められた不審者対応訓練・サイバー犯罪防止研修・ケイタイ教室等を継続して行い、安全への意識を高める。	①保護者・地域と連携して、交通安全・不審者対応等の防犯に取り組み、また安全教室等を実施する。 ②防災教育・防災訓練を計画的に実施し、また緊急避難所としての施設・備品を整備する。 (評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①不審者対策は職員の役割分担を明確にし、訓練できた。来年度は児童の安心安全教室を実施する。 ②消防署等関係機関と連携し、計画的な防災訓練を実施するとともに、職員で校内の防災設備が使えるように研修をすすめた。避難所としての施設・設備を見直し、整備をすすめるよう取り組んだが、予算的な裏付けがなかったため、具体的にはすすんでいない。	①保護者・地域に日常的な協力を依頼し、地域と連携した防犯に取り組み。 ②生活科や道徳の授業・学級活動等を通して、子どもたちの安全に対する意識の向上を図る。 ③安心安全教室を実施し低学年の不審者対応訓練を行う。 (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 ①学校だよりや各種の会合の場で、防犯に対する協力を呼びかけ、地域で子供を見守る意識の醸成を図った。 ②生活科の単元で安全な登下校を取り上げ、通学路の安全を守ってくれる地域の協力に気づかせたり、自分の身を自分で守ることの大切さを学んだという機会を設定した。 ③1年生に職員室に危険を知らせ、避難する訓練を行い、他学年では各教室で机を積み上げ不審者の侵入を防ぐ訓練を実施するなど不審者対応に対する意識の向上を図った。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	<p>* 校内児童指導支援体制の充実を図る。 * 幼保小中の連携を深め、一貫した視点で児童の指導に当たれるよう情報交換を密にする。</p>	<p>①心の教育相談員と情報を共有し、素早い対応を可能にする校内相談体制の改善を図る。 ②子どもたちの実態を正確に把握し、温かい人間関係と人権に配慮した学級・学年経営を目指す。</p>	<p>①校内児童指導支援体制の充実を目指し、外部相談機関との連携をさらに深める。 ②校内研修を充実させ、児童理解の向上を目指す。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>
	<p>課題 ◆今年度、長期欠席0の成果を踏まえ、児童指導支援体制の一層の充実を図る。</p>	<p>成果と課題 ①校内の支援体制は充実してきている。今後は現状把握を行い児童理解を図る。 ②児童指導研修会を年3回実施し、配慮を要する児童への指導法を学び、日常の対応についても共通理解を図った。個々の児童の状況について実態の捉えにばらつきがあったが、研修を深めることでより、正確な捉えができるようになった。</p>	<p>成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心とした、校内支援体制が確立し、必要に応じて、外部機関と連携し、支援を受けることができた。また、スクールソーシャルワーカーが配置されたことにより、さらに外部機関との連携が深まり指導が充実した。 ②Y-Pアセスメントの研修を通して、児童理解の手法を学び、必要な支援のあり方を幅広く考えられるようになった。</p>
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<p>* 小中の効果的連携を考え、教職員の交流やカリキュラムの工夫、改善を検討する。 * 小中連携担当者会の活動充実を図り、連携を具体化する。</p>	<p>①個人情報の保護に十分配慮しつつ、幼保小中の連携を進め、学校生活の安心安全の向上を図る。 ②小中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消を目指す。</p>	<p>①幼・保連携では行事での交流だけでなく、児童に対する共通理解、情報の共有も図る。 ②小・中連携でも行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>
	<p>課題 ◆小中の教職員の交流や授業・行事を通じた交流を進める。</p>	<p>成果と課題 ①入学予定の児童が在園する幼稚園・保育園をほぼ全園訪問し、児童観察や保育士との情報交換を行い、指導の継続を図った。 ②6年生の中学校訪問を実施し、授業や部活の見学を行った。</p>	<p>成果と課題 ①「学校へ行く週間」での生活科学習の交流など、行事で交流するだけでなく、幼稚園訪問も教育相談コーディネーター、養護教諭、1年生担任で実施するように改善し、より児童に対する共通理解も進んだが、一部の幼稚園から個人情報への扱いの点で情報の提供を拒まれる事態を生じ、今後検討していく必要がある。 ②中学校訪問も2年目となり、ねらいを明確にした取り組みに改善されてきている。教員同士の交流が今後の課題である。</p>
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 国際教育の推進	<p>* 国際理解教育の年間指導計画作成を行い、実践化する。 * 指導要領移行期間の英語活動充実に取り組む。</p>	<p>* 異文化の理解では、外国語活動の授業の充実や池子ヒルズとの交流等を推進する。 * IEAの活用を広く、また学校行事等に地域の外国の方や海外生活経験のある方との交流を図る。</p>	<p>①池子ヒルズから通学している児童、保護者を含め、池子ヒルズとの交流の推進を図る。 ②学校支援地域本部と連携し、地域の教育力の掘り起こしを進め、国際教育の推進を図る。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p>	<p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p>
	<p>課題 ◆授業実践を一層進め、新指導要領本格実施に向け、取り組みを進める。</p>	<p>成果と課題 ①池子ヒルズのフィールドデーに参加するなど、交流の推進を図ることができた。 ②IEAの活用を広く、各学年での国際理解の学習を充実させることができた。総合的な学習の中で、保護者に海外生活経験の豊富な方から情報を提供していただくことはできたが、交流までには広げることができなかった。</p>	<p>成果と課題 ①東日本大震災以降、池子ヒルズ児童の転出が続き、またフィールドデー等池子ヒルズからの呼びかけもなくなり、交流が困難となった。今後は計画を見直す必要があると考える。 ②上記のような実態から、地域の教育力の掘り起こしはなかなかすめられなかったが、国際教育指導助手を活用し、国際理解のための学習を計画したり、講師を招いて、モンゴルの話を聞くなど、可能な限り国際教育の推進に努めた。</p>
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>継続</p>	<p>①子どもの発達段階に応じて、自己の生き方についての学習を、体験活動を取り入れる等、改善を図る。 ②保護者や地域の協力を得て、調べ学習や体験学習の改善を図る。</p>	<p>①キャリア教育に対する研修を実施し、教職員の共通理解を図り、指導力の向上を図る。 ②調べ学習や体験学習のねらいを明確にし、地域教育力の効果的な活用を図る。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p>
	<p>課題 ・キャリア教育の視点を学習内容に取り入れた実践を行う。</p>	<p>成果と課題 ①4年での「二分の一成入式」、5年での「高齢者との関わり」、6年での「卒業」等の体験的活動を通して自己の生き方について考えることができた。 ②理科ハウス、ゆめクラブ、高齢者センター等、地域で活躍している方々の協力を得て、調べ学習や体験学習が充実した。</p>	<p>成果と課題 ①様々な学習活動の中で、キャリア教育の視点は意識されているが、研修を実施したり、職員の共通理解を図るまでには至らなかった。今後の課題である。 ②調べ学習や体験学習のねらいを明確にするように努め、活動そのものの見直しを進めてきた。地域教材のさらなる掘り起こしが課題である。</p>
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	<p>継続</p>	<p>①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する。 ②NPOなどの外部団体や保護者と連携し、発達段階に配慮した福祉教育・人権教育を推進する。</p>	<p>①各学年の福祉体験活動を整理し、発達段階に応じた学校全体としての福祉教育の推進を図る。 ②日常的な人権教育を推進し、人権感覚の向上に意識的に取り組む。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p>
	<p>課題 ◆学校支援地域本部事業の活性化を図り、ボランティアの活用を一層進める。</p>	<p>成果と課題 ①社会福祉協議会に相談し、高齢者福祉に視点を当てた単元開発を行うことができた。 ②福祉教育のねらいに沿って発達段階に応じた体験的活動が実践できた。来年度は低・中・高2学年ずつのスパンで系統立てた教育活動ができるよう、方向を持たせていきたい。</p>	<p>成果と課題 ①4年生で地域講師を招き「福祉」について深く考える機会を持つことができたが、学校全体としての福祉体験活動の整理には至らなかった。今後は各教科の中で実施している「福祉」に視点を当てた授業を整理するとともに、「福祉体験学習」の充実を図ってきたい。 ②日常的な人権意識の啓発には学校全体で意図的に取り組んだ。指導者が人権感覚を醸成するための研修参加をさらに促していきたい。</p>

【池子小学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	* 課題に基づき環境教育を進めると共にその成果を地域に発信する活動を検討する。 ☆ 逗子市の施策を環境教育に生かす。	① 教職員が環境について研修し、共通理解を持ち、児童の発達段階に応じて計画的に環境教育を推進する。 ② 環境に関係する外部機関とも連携し、体験的な環境教育を目指す。	① 各学年の年間指導計画の中で環境教育に関わる活動を洗い出す。 ② 地域や外部団体との連携を深め、環境教育の充実を図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・今年度の取り組みを継続し、児童の環境への意識を高める活動を行う。	成果と課題 4年生での環境に関する調べ学習や発表等を中心に取り組むことが学校全体で共有され、継続されている。また、4年生の環境学習に教員も参加し、研修を深めることができた。	成果と課題 ① 環境教育担当を中心として、各学年の環境に関わる活動を洗い出し、見直すことができた。 ② PTA活動で「アースデイ池子」など、環境に関する積極的な取り組みがなされ児童の環境に関する関心を高めると同時に、地域や外部団体との連携を深めることができた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	* 発達段階に応じた情報機器の活用を行う。 * 情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行うと共に情報モラルの育成も図る。	① あふれる情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る。 ② 情報リテラシーの育成とともに、教員も積極的に ICT を活用した授業に取り組む。	① 学校教育全体の中で、情報の取捨選択能力を養う方法を検討する。 ② ICTに関わる研修を実施し、授業でのICTの活用を推進する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・情報リテラシーの育成を目指し、取り組みを充実させる。	成果と課題 ① 児童の発達段階に応じたICTの活用をすすめ、情報活用のモラルについても指導している。 ② ICT活用にはばつきがあるので、研修をさらに充実させることと、授業で活用しやすい環境の整備が課題である。ハード面では充実してきたが、校内ランが未整備のため、教室での活用がしにくく、その面での改善は学校単位では困難であった。	成果と課題 ① 情報の取捨選択は図書室での資料活用などICT以前の段階から育成が必要な能力であることを共通理解し、各教科、総合的な学習の時間の中で意識的に取り組んできている。 ② PCルームの活用、各教室でのプロジェクター、教材提示装置などの活用について研修した。さまざまな学習場面で活用が進んでいる。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	継続 ☆ ホームページ・学校だよりの一層の充実を図る。	① 学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで学校運営の充実を図る。 ② 個人情報の保護に十分配慮しつつ、学校だよりやホームページで情報の発信を進める。	① 学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで、学校運営の充実を図る。 ② 情報発信の手段の特性を生かした、より効果的な発信を行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆ ホームページ・学校だより・学級だよりの充実を図る。	成果と課題 ① 「学校へ行く週間」に学校説明会を実施し、地域や保護者に対して、学校の教育活動を知らせる機会を増やした。 ② さらに、情報の内容の充実を図っていく。	成果と課題 ① 学校だよりの地域への配布を継続し、情報発信を積極的に行った。 ② 「学校へ行く週間」案内を市内掲示したり、幼稚園に配布するなど取り組みを拡大した。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 地域教育力の活用～学校支援地域本部の設置～	継続 * 地域に提供できる学校資源の整理・発掘を行い、地域との一層の連携を検討する。 ☆ 学校支援地域本部立ち上げへの取り組みを行う。	① 地域コーディネーターを中心に、学校支援地域本部と連携を図り、学校教育の一層の充実を目指す。 ② 保護者や地域にボランティア登録をすすめ、学校支援地域本部のネットワークづくりを推進する。	① 学校支援地域本部と学校との円滑な連携を目指す。 ② 保護者や地域に求める活動の見直しを図り、より意義のある連携を推進する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆ 立ち上げた学校支援地域本部事業の充実を図る。	成果と課題 ① 学校支援地域本部で、草刈り、塗装など学校の環境整備に積極的に協力していただいた。 ② 学校支援地域本部の呼びかけで、地域の人材活用がすすんだ。 ・学校支援地域本部の実働化を図る。	成果と課題 ① 学校支援地域本部に新たに老人会の方に入っていたなど、連携を深めることを意図したメンバー構成に努めた結果、活動がさらに充実した。 ② 地域特性から活動を見直し、地域の活性化は十分なので、学校の環境整備を中心に活動していただき、結果として、より意義深い活動が展開された。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	継続 ☆ 学校評価委員会の活動を生かした学校評価を進め、学校運営の改善を図る。	① 学校評価の項目や方法を改善し、自校の分析を行い、学校改善の効果を高める。 ② 学校評価を生かして改善点を把握し、教育条件の整備を行い、それを保護者・地域に発信していく。	① 学校教育目標との関連という視点から、引き続き評価項目や評価方法の改善に取り組む。 ② 学校評価に基づく改善点を明らかにし、保護者・地域と課題を共有できるようにする。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆ 学校関係者評価委員会と学校評議員会を整理し、より学校運営に有効な活動を検討する。	成果と課題 ① アンケートの項目や評定方法を検討し、改善を加えた。まだ分析が不十分であるので、さらに精度の高いアンケートの内容を検討していく。 ② 評価の結果をもとに、職員間で今後の課題を共有すると共に、学校だよりで地域・保護者にも周知した。今年度より、地域のアンケートも実施し、その結果を学校支援地域本部等を通して発信し、主に環境整備面で地域の協力を得ることができた。	成果と課題 ① 評価項目については地域対象の評価項目を検討し、配布方法を工夫した結果、昨年を上回る回答を得ることができた。しかし、学校教育目標との関連という視点は学校関係者以外には難しいようであった。今後さらに、学校改善につながるような評価項目を検討していきたい。 ② 学校関係者評価委員の方々に具体的な取り組みを説明し、思たのないご意見をいただく中で、学校の課題が共有できた。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 授業研究の充実	* 20年度までの成果と課題を踏まえ、より質の高い授業研究に取り組む。 * 市内外の研究協力者・講師を招き、充実した研究会を計画する。 ☆新指導要領のねらいを踏まえたテーマで研究を進める。	①学習指導案の事前研究、研究授業を実施、研究協議の方法の改善など、校内研究の充実を図る。 ②外部講師を招いて校内研究の内容の向上を図り、教員の授業力の向上を目指す。	①研究テーマに基づき、6年間で育てたい力を明確にする。 ②校内研究を通して教員個々の指導力の向上を目指すとともに、チームとしての協働の意識を深める。
	評価 ㊟・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆継続して新指導要領のねらいを踏まえた授業研究を進め、学力向上及び教員の指導力向上を図る。	成果と課題 ①課題が明確になった。 ②ブロックでの研究体制が充実し、各学年とも年1回の研究授業を実施し、講師の指導を受けながら授業力の向上をめざした。	成果と課題 ①研究テーマについて再度共通理解を図る場を設け学校全体として6年間で取り組む方向性を再確認することができた。 ②ブロックを研究の単位とすることで、学年のつながりを意識した単元計画の設定や指導のあり方が検討されるようになってきた。
② 授業評価の活用	継続 ☆新指導要領を踏まえ、評価規準の検討を進める。	①授業評価を教員同士だけでなく保護者・地域にも依頼し、数値化して分析する等により授業改善を図る。 ②授業評価に対する教員の共通理解を深め、また評価項目・方法も改善していくことで、精度の向上を図る。	①保護者・地域と連携しながら、学校の教育力の向上につながるような評価のあり方を引き続き検討していく。 ②授業改善につながるような評価のあり方を引き続き検討していく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆継続して新指導要領のねらいを踏まえ、評価基準を検討すると共に授業評価に生かす。	成果と課題 ・授業評価に対する共通理解が不十分だった。	成果と課題 ①学校関係者評価委員の方に、研究授業や研究全体会に参加していただき、「保護者や地域の方」からの視点で授業を評価していただくことができた。数値化という点では難しかった。 ②今後の授業改善につなげていけるよう、保護者・地域から頂いた意見を共有した。
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	* 地域素材を取り入れた授業研究を通し、教師の指導力向上を目指す。 * 各学校で開発した地域教材を共有財産とする取り組みを検討する。 ☆特色ある学校づくり事業において郷土資料室整備・活用を進める。	①地域素材・教材を取り入れた授業を推進する。 ②郷土資料室・地域の郷土資料館、児童用副読本を活用した授業を推進する。	①地域素材の教材化を図るため、講師を招き研修会を実施する。 ②郷土資料室を活用した授業とともに、さらなる活用の仕方について検討する。
	評価 ㊟・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	課題 ◆今年度、郷土資料室の整備・活用を進めることができた。地域素材・郷土資料を生かした実践の推進を図る。	成果と課題 ①地域の公園での学習活動を計画したり、地域の高齢者施設を訪ねたりするなど、地域の素材を活用した単元開発をすすめた。 ②池子資料館の見学や、本校の郷土資料室を活用した授業を実施した。	成果と課題 ①今年度は地域をテーマにした授業を構想するために講師を招いて研修する機会を得ることはできなかったが、来年度に向けて学校支援地域本部と連携し研修の機会を設定する見通しが持てた。 ②他校が見学に来る機会が増え、本校でもその利用価値を再認識し、活用方法に広がりが見られた。今後はさらに地域講師等を活用し充実発展に努めたい。
④ 研修事業の充実	継続	①自主的な教員研修が行われるよう、時間の確保や機材等、環境の整備を図る。 ②学校内において、OJTを組織的に推進する。	①新学習指導要領を実施する中で、さらに研修の時間確保を工夫し、確保する。 ②校内研修の成果が学校全体の指導力の向上につながるように、組織的に取り組む。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆研究所や外部機関と連携した質の高い研修を行い、教員の指導力向上に生かす。	成果と課題 ①研修時間を確保できた。充実に向け、さらに環境整備を図る。 ②初任者に対し、学校全体で指導、支援していく体制がとられている。	成果と課題 ①学年会の中でできる限り、ブロック研究の時間を取り、校内研究について学びを深めたり、2学年にわたる教材研究を行ったりする機会を設けることができた。 ②研究授業のための研究ではなく、研究テーマについて日々の授業の中で取り組む意識が醸成されてきた。今後はさらにねらいを明確にした授業を心がけたい。

平成21年度～平成23年度 学校による点検及び評価の推移(逗子中学校)

I 子どもたちの学力向上		1 個に応じた指導の充実		
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容	
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み		①教科毎、学年毎の年間指導計画・評価計画を作成する。 ②単元や題材、単位時間毎の具体的な評価方法・場面を設定する。	①新学習指導要領実施に伴う、指導計画・評価計画の準備をする。 ②新学習指導要領の目標、および内容に準拠した具体的な評価規程を作成する。	
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	
		成果と課題 ・新学習指導要領全面実施をふまえた年間指導計画、および評価計画を作成した。 ・新学習指導要領全面実施にともなう、単元ごとの評価方法の検討など、教科会を中心に取り組むことができた ・新指導要領実施に伴う、指導計画評価計画の変更を本年度中に行う	成果と課題 ・新学習指導要領全面実施に備え、一年後を見越した今年度の指導・評価計画を手がけてきた。 ・単元や題材ごとにつき、細部にわたる具体的な評価方法や基準設定の完成までには至らず、若干が新年度まで食い込む見通しである。	
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	H21(2009)年度取組内容 少人数指導の充実 ☆学習支援シートを活用した評価の充実 ☆授業力の向上の研修・研究と子どもが主体的に学習を進めているような学習環境整備	H22(2010)年度取組内容 ①指導法の工夫改善を図り、基礎・基本や自ら学び考える力、読解力を育成していく。 ②学習支援シート(個人学習カルテ)を作成し、教科相談等の診断的支援体制を確立していく。	H23(2011)年度取組内容 ①指導法の工夫改善を図り、基礎・基本や自ら学び考える力、言語活動の充実を深めていく。 ②学習支援シート(個人学習カルテ)を作成し、教科相談等での支援体制の確立を図っていく。	
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	課題 ・少人数指導のさらなる充実 ・学習支援シートを改善し、教科指導 教科相談に役立てる ・生徒の意欲の深化を図る。	成果と課題 ・校内研究会や授業を通して、基礎・基本の深化や自ら学び考える力、読解力の育成を目指した授業の充実に取り組んだ ・学習支援シートの更なる有効活用について、担当部会を中心に話し合いを進め、23年度は教科相談の充実を目指している ・言語活動の充実についてさらなる研究を深めていく	成果と課題 ・言語活動および自己表現活動の充実については、教育課程全般を通して、その実現化を意識して取り組むことができた。 ・各教科担任から出される、生徒個々への学習支援シートは、保護者との相談を進める上でも、有効存在となっている。 ・基礎・基本の充実を図るために、学習支援シートが重要な役割を果たしているが、三年前から取り組み始めている教科相談(各教科における学習方法の相談)の取り組みも含めて、個に応じた指導・助言を果たす役割を担っている。	
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	H21(2009)年度取組内容 文字文化の奨励・発展 横浜中との連携・継続研究 音読活動の重視の継続 NIE活動の充実	H22(2010)年度取組内容 ①文章や資料などを正しく理解し、自分で判断し、評価しながら読みとる力を高める取り組みを進めていく。 ②文章や資料に基づいて論理的に考えを進めた後、自分の考えを書いたり、発信したりする力を高める取り組みを進めていく。	H23(2011)年度取組内容 ①様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を作り、コミュニケーション能力の育成を図る。 ②各教科で、言語活動の充実を年間計画の中に取り込む。	
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	課題 ・言語活動との結びつきをさらに深めていく。	成果と課題 ・各教科の中で言語活動の充実を図るために、特に文章や資料を正しく読み取り、課題解決型の授業実践を推進していくことができた。生徒はその到達度を、自分と他者とを評価することによって、お互いの理解力や判断力を高め合っていることができた ・学年ごとの総合的な学習の取り組みの中で、行事の個人研究発表について、自己表現活動の充実につとめることができた ・教科指導だけではなく教科外での活動も含めて実施していく。	成果と課題 ・各教科及び特別活動などを通して、自らの言葉で意見表明したり書いたりすることには、こだわりを持って取り組むことができた。 ・その発言や発表の聞き方や態度についても、評価シートなどを活用させ、具体的な効果も上がっていることがわかった。 ・各教科及び各学年におき、年間を通じた計画的な実施が果たせていた。	
④ 読書活動の推進	H21(2009)年度取組内容 ☆逗子中学校読書基本計画の継続実施 朝読書の継続 読み聞かせなどの工夫 集団読書の充実	H22(2010)年度取組内容 ①学校図書館指導員(司書免許所有者)の活用と連携の方法を検討していく。 ②一人ひとりの読書量を増やすため、朝読書や教職員による読み聞かせを実践していく。	H23(2011)年度取組内容 ①学校図書館指導員(司書免許所有者)と各教科との連携を推進していく。 ②一人ひとりの読書量を増やすため、新たな読書実践を探求していく。	
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	
	課題 ・教科での図書館利用の促進を通して計画的な利用を図る。	成果と課題 ・学校図書館指導員、司書免許所有者が中心となって委員会活動の充実(特に意識調査としてアンケートをとった)を図り、読書の楽しさや意義を促した。 ・朝読書期間に、CDを使った読み聞かせの工夫を実践してみた。 ・生徒の読書をサポートする活動を充実させていく。	成果と課題 ・司書教諭、図書館指導員が中心となり、委員会活動を通じて生徒の興味・関心となる意識を新聞にまとめた。それにもなつて新刊を職員会議でも紹介していたりした。図書館運営については、図書ボランティアを募り、休休みの開館・運営において、確かなる連携を果たしていた。総合的な学習の時間を中心に、調べ学習で図書館を利用した。 ・朝読書の工夫ということで、今年度は後期の取り組み後にアンケートをとり、読書の意義や機能についてふり返りをさせた。その中で、個々の実態を見つめることで読書活動を、必要と意識として追求していった。	
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	H21(2009)年度取組内容 ☆支援体制の強化・見直し 教育相談・ケース会議の見直し 補習体制の見直し ☆学習支援シートの活用	H22(2010)年度取組内容 ①校内支援体制の構築に向けて、教育相談コーディネーター中心に個に応じた課題の共通理解を図り、解決に向けての手だてを工夫していく。 ②支援教育推進校として市内での情報提供していく。	H23(2011)年度取組内容 ①校内支援体制の運用を通じて、教育相談コーディネーター中心に個に応じた課題の共通理解を図り、解決に向けての手だてを工夫していく。 ②ボランティアによる学習支援の推進を図っていく。	
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	
	課題 ・支援教育委員会を中心として校内と校外を連携をすすめていく。	成果と課題 ・教育相談コーディネーターが全クラスの中から、支援を必要とする生徒に目を向け、個に応じた指導というものについて追及し、チームティーチングや取り出し授業などの方途を尽くした。 ・校内支援体制の基盤を確立し、個に応じた指導を追求していくことができた。具体的な成果を得たり、組織運営を進めたりしながら、その経過や結果について、教育相談コーディネーター担当者会を通じ、推進校として他校への情報提供を行ない、年度末には本校としてのまとめを発表することができた ・校内支援体制を確立させ、早い段階からの支援ができるようにしている。	成果と課題 ・個に応じた指導計画につき、教育相談コーディネーターをはじめとする諸担当から、支援を要する生徒およびその具体的な指導が提示され、全教職員の協力で、チームティーチングや個別指導などの方策を投じていった。 ・支援教育の充実が、現教職員の取り組みで運営していくのが精一杯であり、学習ボランティアを募る余裕がなかった。 ・多くの多種多様な生徒を抱えているために、外部者となる学習ボランティアを授業に入れることには、生徒の個人情報遵守の観点から考え、今後慎重に考えていきたい。	

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>☆基本的な生活習慣についての地域連携・協働の実践 新標準服導入二年目</p> <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題・◆地域との協働により生徒の基本的な生活習慣について改善する。</p>	<p>①学校でのきまりや暮らし方について、子どもたちの実態や発達段階に応じた計画的な指導をする。 ②学校便り・保健便り・給食便り等で積極的に学校から、家庭に向けて情報発信する。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・学級指導を基本とし、必要に応じて学年・学校の臨時集会を持つことにより、生徒の心身の安全保持や学校生活の充実が図れるようにとめた。年間計画における学校・学年行事の中で、各ねらいに迫るための心構えや努力・工夫点などを、集団生活を営む中で培っていくべき生きる力として、年間を通じて取り扱うことができた。 ・学校だより、学年だより、学級だより等を通じて、保護者・地域への情報発信につとめたが、メール配信については、今後の課題とする必要がある ・学校から家庭に向けた情報が家庭に届かないことが多い。 この点を改善していきたい。</p>	<p>①小学校との連携において、基本的な生活習慣の育成を果たしていく。 ②学校だより・保健室だより等で、積極的に学校から家庭に向けて情報発信をしていく。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・小学校との連携の柱は、授業参観したり直接授業を行ったりすることで、生徒個々の実態を把握することができた。 それは教育相談コーディネーターや、スクールカウンセラーの訪問参観や英語の出前授業が主な事業であった。基本的な生活習慣の確立を目指すために、小学生時代からの基礎づくりを見直し、中学生時代へ発展したものとつなげていけるよう、一つひとつの事業が活かされた。 ・生徒への励みと、小学校時代に比べた成長度やその逆などもうかがえ、基本的な生活習慣の確立につとめた。 ・学級(各担任の実態は様々である)・学年・学校・保健室だよりは定期的に発行されていて、十分な役割を果たしている。 ・特に学校だよりの内容については、各学年の折々の活動が伝えられるよう計画・実行することができた。 ・各家庭への情報提供の深化を図るためにプリント配付時には、その補助的な役割として、下半期はメール配信を多く利用してきた。</p>

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<p>道徳の時間の工夫 家庭・地域との連携 逗子中あいさつ新運動 人権学習実施</p> <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題・地域講師による全校道徳を定期開催する。</p>	<p>①全校道徳等、道徳の時間の工夫をする。 ②学校支援地域本部の協力による、地域人材活用の授業実践を進める。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できていない</p> <p>成果と課題 ・学校の特色の一つとして、全校道徳の存在と価値が定着してきている。 ・今後の大きな課題点として受けとめている。 ・学校支援地域本部の協力による地域人材が学校のニーズと合わない場面があったので改善していきたい。</p>	<p>①全校道徳等、道徳の時間を充実を図っていく。 ②学校支援地域本部の協力による、地域人材活用の授業を発展させていく。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・全校道徳の存在と意義は学校の特色として定着し、効果も上がっている。 ・地域教育力の活用については、その人材発掘をデータベース化できることが、最優先として取り組んでいくべきものと思っている。担当者への指導・助言を深めていくことにする。</p>

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	<p>自然体験活動の見直し 福祉体験活動の見直し 職場体験活動の見直し 交流体験活動の見直し 防災体験活動の見直し</p> <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題・◆新教育課程実施に伴う体験活動を見直す。</p>	<p>①逗子の豊かで恵まれた自然にふれるとともに、自然のすばらしさや大切さを学ぶ自然体験学習を実施していく。 ②発達段階に応じた勤労体験(職業体験)に取り組み、働くことや学ぶことの意義についての学習を進めていく。</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・逗子市内における自然体験については十分にできなかった。しかし、二年生における自然体験学習においては、年々、生徒の興味・関心を重んじた内容の充実と工夫が成されるようになってきた。その興味・関心の視点は、その地域ならではの自然の素晴らしさや価値として、課題解決型の取り組み方で進められている。それは事前調査(調べ学習)に始まって、実地調査といった学習経緯の末に、事後学習である実証結果として研究発表が行なわれ、充実した行事として定着してきている。 ・保護者・地域の協力により、選択幅の広い職業体験学習を行うことができた ・体験的な学習の回数が増やせるような工夫を行っている。</p>	<p>①逗子の豊かで恵まれた自然にふれるとともに、自然のすばらしさや大切さを学ぶ、自然体験学習を推進していく。 ②発達段階に応じた勤労体験(職業体験)に取り組み、働くことや学ぶことの意義について地域の方から学習をしていく。</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・学校の立地条件や環境から考えて、自然の恵みについては十分に意識できている。それだけに改めてという場面を設定するところまで、指導者が必要に迫られるイメージが持てていない感がある。 ・その分、二年生の自然体験学習には、課題解決型の工夫のある取り組みがなされている。 ・各学年におけるキャリア教育が進められている中で、実体験とすると二年生の職業体験学習だが、年々保護者・地域の協力により、生徒の主眼的な見地から、幅広い選択が成されるようになってきた。</p>

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	<p>☆食育全体計画の実施 イキイキスクールの推進 ☆体力づくり運動の実施 救命・救急法講習会実施</p> <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題・◆食育全体計画による食育指導の実施 救命救急法講習会の実施</p>	<p>①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践していく。 ②学校支援地域本部の協力による地域人材活用による食育の体系化を図る。</p> <p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・学年ごとに健康教育のテーマを年間計画の中で設定していて、具体的には一年生たばこの害、二年生薬物乱用防止、三年生エイズの正しい理解と予防につき、講師を招いて授業が行なわれている。 ・食育の取り組みについては総合的学習や特別活動の自然体験学習でおこなうことが多いので本校の学校支援地域本部との関連をつけるようにしていく。</p>	<p>①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践し、充実を図っていく。 ②PTAとの連携による、食育の体系化を推進していく。</p> <p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・学年ごとに健康教育として位置づけられていたが、今年度においては未消化(三年生の性感染症予防のみ実施)の学年があった。 ・熱中症対策として、水分補給のすすめの取り組みが定着してきたのは大きな成果の一つとらえている。 ・教育課程の中で、重点項目の一つにされているにもかかわらず、なかなか具体的な取り組みが滞っているのが実態である。家庭科の授業として一・二年生を対象に、管理栄養士を招いて一時間の食育の授業を行い、生徒たちの興味・関心を促してきた。この実績を起爆剤にして、PTAと連携した活動につなげていけるように次のステップとして考えていく。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	<p>防犯と不審者対策の強化 CAPの実施 地域防災への参画・訓練 校外防災体験学習の実施 登下校指導(逗子高と連携)の発展 安全点検日の充実</p>	<p>①不審者対策・防災教育の強化を推進していく。 ②地域連携による防災強化を図っていく。</p>	<p>①不審者対策・防災の強化の推進と、有事に対応した訓練を実施していく。 ②地域連携による、防災訓練を実施していく。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題・地域防災行事への参加体制の確立</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・CAP、携帯電話教室など、入学時において情報モラルの基盤を培うことは、大変意義のある取り組みとして定着が図られてきている。 ・従来の防災計画につき、津波対策を含めた訓練を実施し、火災・地震・津波・風水害を含めた避難所運営訓練への生徒参加が実現した。 ・池子地区避難所運営訓練に生徒を参加させていきたい。</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・一年生には学校生活の初期に、例年の取り組みを計画・実施することができ、情報モラルを身につけさせることができた。 ・避難訓練を含めた防災対策については、担当分掌を中心に、これからも有事を想定した取り組みが実施できるようにしていく。 ・生徒たちの訓練姿勢もよく、地震・火災・津波などに対して、自ら命を守る大切さと必要性を身につけた。 ・池子地区避難所運営訓練には、今年は部活動単位で参加を果たすことができた。</p>
② いじめ・不登校等への対応の推進	<p>人権学習 不登校の予防と早期対応 行事を利用した人間関係づくり</p>	<p>①スクールカウンセラー(心の教室相談員)を活用し、組織的に校内相談体制の確立を図る。 ②保護者と学校が子どもの支援ニーズに対する共通理解を促し、協働して支援していく。</p>	<p>①スクールカウンセラー(心の教室相談員)を活用し、組織的に校内相談体制の充実を図る。 ②保護者と学校が子どもの支援ニーズに対する共通理解を促し、協働して支援していく。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題・不登校生徒や保護者に手厚く接する。</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・教育相談コーディネーター、SC、うるふれを中心とした校内相談・支援態勢が確立されている。 ・生徒への支援態勢として、そのニーズに応えられるよう外部機関との連携も、組織的な機能果たすようになってきた。 ・外部機関とも積極的に連携していきたい。</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、心の教室相談員、生徒指導担当の連携のもとで、教育相談やケース会議、支援体制の具体策がとられている。 ・支援教育の充実を果たすべく、その具体的な支援体制を確立し、組織的な機能果たしていた。 ・外部機関との連携は、必要に応じて積極的に取り組めるようになってきた。生徒一人ひとりに対する支援体制及びその具体的な手立てが、保護者の理解のもとで協働できるようになってきた。</p>
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<p>☆出前授業の拡大 学区内の小中教職員の交流 ☆小中連携担当者会の継続開催 ☆中高連携担当者会の定期開催 部活交流の計画・実践(中高)</p>	<p>①小学校と中学校間では、「体育」や「保健体育」、「外国語活動」や「国際教育」などを活用した授業や行事などの交流を推進していく。 ②小学校・中学校の連携では、教職員の授業等における交流や9年間を見通したカリキュラムの共同研修などの工夫・改善をしていく。</p>	<p>①小学校と中学校間で、「保健体育」、「外国語活動」や「国際教育」を活用した。授業などの交流を推進していく。 ②小学校・中学校の連携では、教職員の授業等における交流や、9年間を見通したカリキュラムの共同研修などの工夫・改善をしていく。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題・小学校への出前授業を深化させる。 ・連携担当者会を定期的に開催する。 ・部活動の交流の実施</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・小学校との連携は出前授業や授業参観を通じて行なわれてきているが、情報提供という観点や年間計画の中で計画的実施という点では、今後の課題点の一つとして考えていく必要がある。 ・学区の小学校との、教職員の交流や共同研修については、時期的な接点というものを見出して調整していく必要がある。 ・各学校との連絡会を年間計画の中に入れて計画的に実施する。</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・外国語活動については、今年度計画されていた全研修に必ず最低一人は参加し、その内容伝達を行った。英語科としては、これまでの認識とは変わって、逗子市外国語活動ガイドラインを真に理解した上で、中学校英語の授業に入れる実感を持つことができた。 ・他教科でも同じような取り組みが理想とは考える一方で、時間的な工夫や融通は難しいものがあると思っている。共同研修という設定で、まずは年間に数回、無理のないところから着手していく。</p>
④ 国際教育の推進	<p>☆IEA、地域講師による計画的な授業 異文化理解・教材開発</p>	<p>①異文化を理解し、多文化と共生するために、英語科の授業を通して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。 ②IEAの効果的な活用を図っていく。</p>	<p>①異文化を理解し、多文化と共生するために、各教科の授業を通して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。 ②IEAの、効果的な活用を発展させていく。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題・IEAによる教材作成をおこなった授業</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・英語科を中心に異文化理解の浸透を図り、豊かなコミュニケーション活動のもとに、プレゼン能力の向上につとめることができた。 ・様々な資料提示をもとに、IEAによる異文化理解への効果的な働きかけが顕著に行なわれた。 ・国際教育の推進のために他教科でも活用がはかれるようになる。</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ・異文化理解や多文化共生については、どうしても英語科が中心にはなるものの、コミュニケーション能力の成長を知るために、各教科ならびに特別活動や総合的な学習においてプレゼンを行い、自己表現活動の向上を認めることができた。 ・今年度の国際教育指導手からは、国際理解教育のための資料提供が活発に行われていて、それを生徒がしっかりと受けとめることができた。 ・今後はその企画・実行が、更に他教科へと広げていけるよう課題にしていく。</p>
⑤ キャリア教育の推進	<p>☆地域講師による計画的な授業 職場体験活動地域の拡大 自己理解・職業学習 進路選択・決定</p>	<p>①職業体験学習を実施することで、将来のビジョンを描かせる。 ②学校行事・生徒会活動を利用し、社会性や集団性を育成していく。</p>	<p>①職業体験学習を実施(体験場所の拡大)していく。 ②学校行事・生徒会活動の充実を図り、社会性や集団性を育成していく。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題・キャリア教育のプログラム化をおこない、実施する。</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・二年生で職業体験学習を行うことにより、自己の将来について見つめる機会を得ることができた。 ・集団形成の意義や価値は、学校生活や生徒会活動を通じて得られるものの、社会性を身につけさせるためには、三年間を見通した立案が必要だと考える。 ・公立高校選抜改革についても早めの対応を図れるようにしたい。</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ・二年生で職業体験学習を実施していく中で、生徒の主体性を大切にできたために、その希望範囲がおのずと広がってきたが、保護者や地域の協力を得ながら、体験場所の拡大につとめてきた。 ・生徒会活動では、生徒の企画力や行動力、そしてリーダー性が求められる中で、生徒会がより力を発揮できるようにするためには、一層の研修時間を要するものと考えられる。</p>

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	福祉体験学習の充実(小学校との連携) 福祉作文・人権作文 福祉施設との交流	①福祉体験学習を実施する。 ②福祉の理解を深め、思いやりの心の育成していく。	①体験種目を増やした。福祉体験学習を実施していく。 ②社会福祉の理解を深め、他者への思いやりの心の育成していく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	課題・福祉体験学習と総合学習の時間のリンクをはかる。	成果と課題 ・3年生の卒業前に計画され、点字、手話、車いす、その他の福祉疑似体験学習が生徒の興味・関心を中心に、分野別選択で取り組むことができた。系統的に3年間を見通して、どこの学年でどんな体験学習が望ましいか、そこを検討していくことが今後の課題である(例…1年 高齢者介護体験、2年 視覚・聴覚障がい者の介護体験、3年疑似体験など)。 ・ねらいに即した取り組みができていないものの、その心の一般化、および実践化というねらいの深化を求めると、更なる内容の工夫と充実が求められる。 ・体験を通して、考えて行動する力を生徒に育成したい。	成果と課題 ・福祉体験学習については、その位置づけを再確認することで、本校としての出ししを図る必要がある。 ・特に道徳の授業で、一番多く取り扱われていた。本校の重点目標である「3あい(認め合い、学び合い、高め合い)」にあるように、他者への思いやりの心が持てるよう、日々の学校生活における様々な場面で意識させ、校内での実践は果たせている。 ・その実践の一般化と別であり、校外での個々の実生活の中で言動に出せるよう育成していく。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	逗子市学校環境ISO取得 ☆「虫の里づくり」運動の取組	①生徒会活動でホタルの里づくりの推進 ②牛乳パックリサイクルの実践を通して、環境教育の視点を明確化	①生徒会活動で、ホタルの里づくりの推進を図る。 ②牛乳パックリサイクルの実践を通して、環境教育の視点を重視していく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題・学校地域支援本部と生徒会を中心とした生徒全員での取り組みとする。	成果と課題 ・まだまだ受け身的ではあるが、生態系の縮図について理解できるようになり、次に果たすべきことに興味・関心が出てきた。 ・牛乳パックのリサイクルについては、リサイクルに関する情報提供が少なく、なかなか意識が高まっていない。	成果と課題 ・学校支援地域本部事業の一環でもあり、ホタルの里づくりの基盤構築として、川の生息物を示す掲示板を設置した。生徒会活動においても、川の定期的な清掃や見守りを行っていた。 ・リサイクルのための洗浄処理として、十分にその意識を感じて見守っている。毎月の牛乳パックリサイクル結果(重さ)について、学校だよりなどを通して知らせた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	情報モラルの推進 普通教室へのLAN配線 情報活用能力の充実(映像を活用したプレゼンテーションの充実)	映像を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を実践し、情報活用能力の育成を図っていく。	①映像を活用したプレゼンテーションを学年ごとに実践し、情報活用能力の育成を目指していく。
	評価 S・A・B・C	(評価) 達成した	(評価) 達成した
	課題・映像を使ったプレゼンテーション能力を育成する。	成果と課題 ・発達段階に応じて、プレゼンテーション能力を育成し、深化させることができた。	成果と課題 ・本校の重点指導項目の一つでもあるプレゼンテーション能力の向上につき、実物投影機及びプロジェクターの活用によって、自己表現活動が身近な取り組みとして定着してきている。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	HPI「保護者の声コーナー」の設置 学校へ行こう週間の充実 個人情報保護の基本方針の検討 保護に関する規定の検討	①毎月初日の「学校公開日」を設定し、家庭・地域との連携を図っていく。 ②研究授業の保護者・地域への公開を実施する。 ③情報を積極的に発信していくために学校便りの工夫：目に見える教育活動の実施につとめていく。	①学校公開日(本校では毎日)の位置づけやねらいを明確にし、保護者及び地域に対して、学校との連携の重要性を呼びかけていく。 ②研究授業の保護者・地域への公開を実施する。 ③情報を積極的に発信し、学校だよりの工夫：目に見える教育活動を実施していく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題・個人情報について、教職員だけでなく生徒保護者にとっても理解を深めていく。	成果と課題 ・以前から、その定着は十分に図られているものの、実際の来校者がいない状態が続いているため、その数を増やしたり実働を働きかけたりする、具体的な手立ての工夫は必要だと考える。 ・学校・学年だより等を通して発信は試みているものの、実際の校数となると極めて限られた数や顔ぶれとなっているのが現状である。 ・学校・学年だよりはもとより、メール配信も利用したりする中で、教育活動の公開や広報活動について、リアルタイムに発信できる体制作りができていく。 ・学校公開日の参加者を増やすようにしたい。	成果と課題 ・本校では毎日公開日としている中で、実際には生徒の特別な活動や発表などが無いと、保護者の来校はほとんどない。(PTA活動があった日には、ご案内の声をかけをし、授業参観を促している。) ・今年度の具体的な試みとしては、学校・学年だよりによる情報提供が中心となっている。保護者が、来校・参観の必要性までに至っていない現状を、どのように受けとめ分析していくべきかが課題である。 ・学校だよりは、内容も発行数も安定している。今年度は、結果・記録報告よりも、諸活動の進捗状況について重点をおいた記事を掲載した。タイムリーさを大切に取り組んできた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部 の設置～	職業体験の年間拡散型への検討 避難訓練での消防署による消火活動実施 ボランティアとともに創る図書室のコーディネート	①地域の担い手としての、生徒の育成を図っていく。 ②学校関係者評価委員・学校評議員・PTA・役員との連携を強化させる。 ③学校支援地域本部における、地域コーディネーターの役割の明確化していく。	①地域の担い手としての生徒の育成を図り、地域行事に参加させていく。 ②学校関係者評価委員・学校評議員・PTA役員との連携を強化していく。 ③学校支援地域本部における、地域コーディネーターの役割を明確化していく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	課題・学校支援地域本部を活用した取り組みをおこなう。	成果と課題 ・地域に根ざす存在感や、地域の担い手を意識した学校生活を送らせてきた。 ・いずれの会もその充実を図る中で、学校の教育活動の中に活かされていく。 ・池子地区の青少年育成団体が解散してしまったので池子地区に根付いたコーディネーターをお願いできるようにしたい。	成果と課題 ・地域における存在感を自覚した学校生活のもと、様々な地域行事に参加することができた。地域の方から、お褒めの言葉をいただく場面もあった。 ・各会ともその主旨を重んじた中で、学校運営に直接活かしていけるよう、次回への課題解決につとめてきた。 ・事業としては、生徒が主体となって担当教師がまとめて形に残していく方式だったので、地域コーディネーターの方に企画・運営を手がけてもらうために、十分な話し合いを継続的に持っていないかった。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	横浜中との評価研究会 成果の検証、改善の実施 評価結果、改善策・成果の公表 (学校関係者評価の実施)	学校目標との関連を明確にしつつ、評価項目を設定して 評価のポイントを絞り、自己評価に基づいた学校関係者 評価を生かし、具体的な学校改善を行うとともに、 開かれた学校づくりの推進を図っていく。	①学校目標との関連を明確にしつつ、視点や重点を明らか にした目標や、評価項目を設定して評価のポイントを絞 り、実効ある評価活動を実施していく。 ②学校の自己評価に基づいた、学校関係者評価を生かし、 具体的な学校改善を行うとともに、開かれた学校づくり の推進を図っていく。
	評価 S・A・B・C	(評価) 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・異校種間連携を行いながら、学校評価を進め られるようにしていく。	成果と課題 ・学校目標と評価項目との関連で、学校運営の中へ具 体的に活かし、開かれた学校づくりを目指すことがで きた。	成果と課題 ・学校目標とどのように関連しているのか、その達成のた めにどのような手立てをとっていく必要があるのか、その 評価が必要と考えられる場面において、実効を求めた積 極的な取り組みを実施してきた。 ・助言・指導を受けたことについては、次回までを最短目 標にして、その一方では年間を通じて計画的な具体策を 投じ、実効を果たしていけるように、開かれた学校づくり の推進につとめてきた。

③ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 授業研究の充実	テーマ別研究授業(教材教具) 横浜中との評価研究会 学校研究の発表会(研究紀要)	①研究授業の積極的実践(1人年2回)を実施していく。 ②保護者・外部者による授業評価を実施していく。 ③教科会の充実に図っていく。	①研究授業の積極的実践(1人年2回)を実施していく。 ②保護者・外部者による授業評価を実施していく。 ③教科会の充実に図っていく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した
	課題・研究発表会の実施を通してわかった課題を次 年度に生かす。	成果と課題 ・前期・後期で各一回の研究授業において、指導案に 自分が授業者としての考えをまとめることは、とても深 い意義を感じている。 ・授業参観や学校公開日が中心となるが、授業評価に ついてその項目内容を精選していけると、今後に更に 活かせるものになっていくものとする。 ・毎週一時間の教科会が時間割の中で保証されてお り、それぞれが目的意識をもった会の運営がなされる と、有効に能率的な授業改善につながっていくもの と考える。 ・授業評価を通して授業改善につなげていきたい。	成果と課題 ・今年度においては、次年度からの新学習指導要領全面 実施の準備のために後れをとってしまったのか、各自が 年に二回という回数は達成できていない者が多かった。 ・授業参観日は勿論のこと、外部評価を積極的に求めて それを集約し、個々の授業者および教職員全体へ課題提 起を試みてきた。 ・毎週一時間ずつ、各教科における打ち合わせが時間割 内で保障される中、授業内容の充実と指導力の向上を目 指した情報交換などが行なわれ、有効に活用することが できた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 授業評価の活用	学習サイクルについての学習会 授業評価シートを活用した研究授業の実践	①多様な観点から授業評価を行い、評価の幅や精度の 向上を図っていく。 ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評 価」から、視点や観点を明確にし、授業研究の充実を 図っていく。	①多様な観点から授業評価を行い、評価の幅や精度の 向上を図っていく。 ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」か ら、視点や観点を明確にし、授業研究を充実させていく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・全職員の授業評価や学習支援シートの効果 的な利用	成果と課題 ・各教科とも三人体制が主流であるが、特に少人数担 当者同士では、授業案の検討や実践例の工夫を話し 合うことができていた。 ・授業は、授業者と生徒の双方の協力により創られ、 その充実が図れることをお互いが十分な認識のもと に、授業評価結果を活かそうとしている。 ・教科会を通じて研究授業の事前研究会事後研究会 を実施させていきたい。	成果と課題 ・言語活動や自己表現活動の充実を目指すために、各教 科内で有意義な取り組みが進められていた。特に少人数 担当教科においては、指導案の検討や実践例の工夫・改 善に向けた話し合いがなされていた。 ・授業は生徒の協力と授業者の創意工夫がなされた結 果、その相互関係が良好であって、充実した授業創りが 果たせるものと意識させている。授業に対して事前・事 後評価までを充実させることにより、更なる深化が果た せるものとする。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活 用・開発の促進	☆地域環境の教材化とその授業実践	①地域教材のデジタル化を推進していく。 ②地域素材発掘のため、講師を招き研修会の実施し ていく。	①地域教材をデジタル化し、教材の制作を手がけていく。 ②地域素材活用のため、講師を招き研修会の実施を図 っていく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・地域素材の教材化について対象学年を絞り 込む	成果と課題 ・豊かな自然環境に囲まれた立地条件下にある本校 では、一年生の理科教材作りとして、植物や虫の生息 状況や生態系の変化を観察してきた経緯がある。その 結果、「ホタルの里づくり」と「珍しい野鳥」についての デジタル資料づくりが始まっている。 ・地域素材の講師を招いての研修を行えなかった。な かなか適した講師を見つけることができない。	成果と課題 ・池子の森に囲まれる本校の立地条件の中で、自然界に 深く関係する動物、植物、様々な生息物につき、その状況 や生態系の実態を、一年生理科の授業での観察が、継続 して行なわれている。野鳥のデジタル資料作りが始まった 中で、カメラの性能が問われるようになってきたために、そ の条件整備が課題となっている。 ・一年生の環境学習において、逗子の自然環境…特に河 川の整備、美化がとても大切で、それが大きな役割を果た していると講演で伝えてもらった。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 研修事業の充実	校内講師による研修会 評価評定意見交流会 研修情報のデータベース化(共有フォルダ)	①校内研修会を通して、研修参加時の報告の共有化 を図っていく。 ②研修・研究会・担当者会等へ積極的に参加するよ う、教職員の意識の高揚を図っていく。	①校内研修会を通して、研修内容の報告の共有化を図 っていく。 ②研修・研究会・担当者会等での情報を職員で共有する 取り組みを行うよう、教職員の意識の高揚を図っていく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題・研修会や担当者会での内容を共有化を図る。	成果と課題 ・月一度の顔合わせであるが、全体主題を達成させる ために、四つの分野に分かれて基盤になる研究がすす められ、実践的な方法が話し合われている。 ・希望参加の研究会については、グループウェアを 使って能率よく紹介・提示をすることになっている。 ・グループウェアを利用して研修会などで配られた資 料を共有化し素材として利用できるようにする。	成果と課題 ・毎月一度行なわれる校内研修会において、全体主題に 迫るために、四つのグループ活動で共同研究を進めた。 今年度末には、それを一つの冊子にまとめることがで きた。 ・希望参加の研修会については、能率よく迅速に組み 組を進めるようになって来ている。連絡事項などについて も、その他についてもグループウェア利用の充実と徹底を 図ってきた。

平成21年度～平成23年度 学校による点検及び評価の推移(久木中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み		①数学・理科に加え、他教科に関しても可能な範囲で授業時数を増加する。 ②学習指導要領の総則や道徳、総合的な学習の時間、特別活動については新学習指導要領の規定を着実に実施する。	①学習指導要領にほぼそった内容で教育課程が編成されている。 ②各教科等の年間指導計画が学習指導要領にそったものとなっている。 ③言語活動の充実に向けた全教科単元計画の作成
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
		成果と課題 ①については英語・保健体育・社会も一部の学年で実施できた。 ②については全職員で研修を行い認識・確認ができた。	成果と課題 ・指導計画・単元計画などが次年度の全面実施に際して、着実に実施できるようにする。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	①指導方法の工夫・改善を継続する。 ②理科の1年生一部のIT授業の実施をする。 ③個人用のカルテを活用する。 ④放課後の補習、学習相談を実施する。 ☆評価基準を明確にし、指導の一体化を図る。	①指導法の工夫改善を図る。 ②少人数指導での習熟度別指導の充実と成果の明確化。 ③個人カルテの利用の推進。 ④補習体制の充実。＝長期休業中及び日常的な実施の工夫 ⑤英検・数検・漢検等への積極的な支援。	①委託研究「授業のユニバーサル化」と連携し指導法の工夫改善を図る。 ②少人数指導での習熟度別指導の充実と成果の明確化を進める。 ③補習体制の充実＝長期休業中及び日常的な実施の工夫
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した ⑤ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 ・日常的及び長期休業中の計画的な補習体制が必要である。 ・更なる指導法の工夫と改善が必要である。	成果と課題 ①・②については授業のユニバーサル化を含めて更に推進していく。 ③については⑤の支援教育と連携して更に推進していく。 ④については実施方法を見直し推進していく。 ⑤については補習を含め推進していく。	成果と課題 ①については研究を進める中で、視聴覚機器の利用などを始め充実した実践ができた。 ②についてはクラス分け、担当の変更など柔軟な工夫を行った。 ③については定期試験前や夏期休業中に補習を行った。多数の生徒が参加した。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	①「読解力向上プラン」をもとにした各教科・総合的な時間の読解力向上のための実践をする。 ☆一人ひとりの学習状況を把握し改善を生かす。	①国語科を始めし各教科、総合的な学習の時間を通して言語活動の充実を図る。 ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。	①久木中学校としての言語活動の充実を計画的に進める。 ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・全教科において言語活動の充実を実践できる授業実践が必要である。	成果と課題 ①・②については道徳・総合的な学習の時間・各教科の学習の中にテーマについて班で話し合う環境作りを行った。	成果と課題 ①、②ともに日常的に意識して進めることが重要である。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 読書活動の推進	①PTAと図書委員会との共同活動の定着化を図る。 ②授業での図書室利用を含めた読書活動の充実をめざす。 ③読書記録カードの活用をめざす。 ☆地域やPTA等を活用した読み聞かせを実施する。	①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める。 ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる。 ③朝の読書を推進する。(全職員による読み聞かせを取り入れる)	①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める。(ICT、市立図書館との連携) ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる。(カウンター業務など) ③朝の読書を推進する。(読み聞かせを進める。)
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 一部達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題 ・学校支援ボランティアやPTAを活用し学校図書館の機能を活性化し、読書の推進をすすめる。	成果と課題 ①については総合的な学習との連携を持ち生徒が調べ学習がしやすい環境作りを行った。 ②については学校支援ボランティアとの連携ができなかった。 ③については担任以外の教職員がクラスを回り読み聞かせにも取り組んだ。	成果と課題 ①学習情報センターとしての利用は十分に行った。しかし外部との連携については今後の課題である。 ②学校支援ボランティアの活用はできなかった。 ③朝読書は着実に実施した。教職員による読み聞かせを計画的に行った。
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	①教育相談コーディネーターを中心とした校内体制による支援教育を推進する。 ②一人ひとりの実態把握に努め、ケース会議開催を定期化する。 ③個人用カルテの活用をする。 ④支援教育研修会の開催し、教職員、保護者の共通認識を図る。 ☆学校全体で教育支援の取り組みをする。	①生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究を進める。 ②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに生徒が授業に意欲的に参加でき「わかった」と思える授業づくりを進める。 ③学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る。	①生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究の成果に基づき支援教育を進める。 ②生徒が安心して学べる学習集団を形成し、授業に意欲的に参加できる授業づくりを進める。 ③学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る。(①②③は研究Iとの連携により進める。)
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 ・生徒の正しい見立て方、状況に応じた支援・指導の仕方の研究・研修を引き続き行う。	成果と課題 ①については支援教育委員会を中心に全職員が支援を要する生徒を理解し支援できる体制作りをしている。 ②については授業のユニバーサル化と連携して取り組んでいる。 ③については地域の連携・協力により進めることができた。	成果と課題 ①生徒の見立てや、情報の共有化を日常的に確実に行い、支援教育を実践できた。特に地域講師による研修会などで、委託研究の目的の一つである教職員のパフォーマンス能力の向上が進められた。 ②委託研究の実践の中で着実に進めた。 ③地域の方々から様々な支援を得て教育活動を進めることができた。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	①家庭・地域・学校がそれぞれの役割分担を決め活動をする。 ②授業規律の確立・集団生活のルールを守る等の基本的態度の育成を徹底する。 ☆学年や分掌での組織的な取り組みや手立ての工夫をする。	①家庭・学校・地域との連携の基に基本的生活習慣の育成を図る。 ②学校から情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める。	①生徒指導マニュアルに基づき、全教職員の共通理解、保護者との連携のもと生徒指導を進める。 ②学校からの積極的な情報発信により、保護者・地域との情報の共有化、課題の明確化により、家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める。(PTA・地区健全育成会、青少年指導員、学校評議員会)
	評価 S・(A)・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① ほぼ達成した ② 達成した
	課題 ・生徒指導マニュアルの見直しを行い全職員の共通理解が必要。	成果と課題 ①については基本的な生活習慣の育成が図れた。 ②については学校だより・メールサーブिस・各たよりにより共有化が図れた。	成果と課題 ①マニュアルが明文化できていないが、あらゆる連携のもとに生徒指導を行った。 ②地域教育協議会や青少年育成会などを通じて、地域と密接な連携が進められた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	①学級活動・生徒会活動また、行事におけるブロック活動の充実をめざす。ブロック活動の定着化を図る。 ②あいさつ運動の定着化を図る。 ③ブロック活動の発展として、奉仕活動の充実を図る。	①道徳教育を道徳の時間を要した学校の教育活動全体で行う。 ②発達段階に応じた指導内容の重点化を行い道徳推進教師を中心に全教師が協力して道徳教育を推進する。 ③体験活動を重視するとともに地域講師の採用、生徒が感動を覚える題材の開発と活用を行う。	①道徳教育の全体計画の整備、実践・活用しやすい道徳の時間の年間指導計画の作成・見直しを行う。 ②体験活動を中心として道徳的心情、判断力、実践力を育てる。また地域講師の活用を進める。
	評価 S・(A)・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② ほぼ達成した
	課題 ・教科と道徳の関連性を進める。 ・体験学習に地域講師の活用を進める。	成果と課題 ①については全ての学校生活の中で取り組みを行った。 ②については3年間という流れの中からの取り組みを行っている。 ③については準備不足であり課題を要する。	成果と課題 ①実践・活用しやすい年間指導計画の見直しを行った。 ②様々な体験活動を通じて、指導を進めたが、さらに地域講師の活用を進める必要がある。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	①課題を分析し、計画の定着を図る。 ②環境学習＝1年、福祉学習・職業体験学習＝2年、保育士体験＝3年、ボランティア活動、ディベート大会等への積極的な参加を図る。 ③青少年指導員や地域の団体との連携体制づくりをする。	①行事や生徒会活動の特別活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める。 ②地域との連携による体験的な学習を積極的に進める。	①行事、生徒会活動等の特別活動、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める。 ②地域との連携による体験的な学習を積極的に進める。また各団体の行事等に積極的に参加する。(保育士体験、ディベート大会、職業体験、避難所訓練その他)
	評価 S・(A)・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・地域との連携による体験的な学習を推進する。(保育士体験、ディベート大会、職業体験、避難所訓練等)	成果と課題 ①については修学旅行・野外合宿・横浜めぐり等で進めることができた。 ②については職業体験学習、進路学習等での協力を得ることができた。	成果と課題 ①職業体験など、地域との連携による体験学習を進めた。 ②計画通りに進めることができた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	①指導計画の実施および定着化を図る。 ②地域講師による健康教育・安全教育の定着化を図る。(喫煙防止・薬物乱用防止・エイズ教育・不審者対策) ③地域講師を活用した性教育・食育指導の推進をする。 ☆食育委員会の設置	①食育の推進のための特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づき、久木中学校としての食教育について指導方針を明確にする。 ②飲酒・喫煙・薬物乱用に関する問題などについても、家庭と学校との連携を基にして外部機関等との連携により健康教育を積極的に進める。	①食育全体計画に基づき、具体的な指導内容についての検討を行い、効果的な指導を行う。また外部団体との連携を進める。 ②健康教育について、学習すべき内容、教科での取り組み、総合的な学習の時間の活用など、全体的な見直しをする。
	評価 S・(A)・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・食育委員会を設置し外部団体と連携のもと食育全体計画を作成・活用。 ・外部講師を招いての健康教育の推進と充実。	成果と課題 ①については食育全体計画に基づいて各教科で取り組み、推進できた。 ②については地域や外部機関との協力連携により進めることができた。今年度は水の安全や携帯電話教室・情報モラル等についても取り組みができた。	成果と課題 ①外部団体との連携を進められた。 ②各学年で計画的に実施できた。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進～防災教育の推進～	①安全管理マニュアルを活用する。 ②授業中、休み時間等校舎巡回をする。 ③家庭、地域、関係機関との連携を強化する。 ④事故防止研修会を開催する。 ☆緊急時の対応マニュアルを生徒・職員への周知を図る	①CAPをはじめとする安全教育や防犯教室などに加え携帯電話、パソコンに関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく。 ②従来の学校防災計画を見直し、市との連携を密接にする。 ③校内の避難訓練を計画的に行うとともに、地域避難所訓練に積極的に参加する。	①安全管理マニュアルを改善し、教職員の共通理解のもと、安全・安心な教育活動を進める。 ②新しい学校防災計画に基づく防災体制を確立する。 ③校内の避難訓練を計画的に行うとともに、地域の避難所訓練との協働を進める。
	評価 S・(A)・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 ・安全教育や防犯教育に積極的に取り組んでいく。 ・市との連携を密とした学校防災計画の見直しが必要。	成果と課題 ①についてはCAP携帯電話教室・情報モラル教室等実施した。 ②については逗子市学校防災計画に基づいた防災計画の手直しを図った。 ③については火災・地震等を見据えた計画的訓練を行うことができた。	成果と課題 ①防犯・防災に関する教職員の対応に関し共通理解を進めた。 ②特に大震災、津波の想定部分を改善した。 ③避難訓練の内容を見直したり、地域の避難所訓練に積極的に協力した。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② いじめ・不登校等への 対応の推進	①マニュアルを活用し、迅速に対処する。 ②アンケートや個人ノートを活用し、生徒理解を図る。 ③全教育活動を通しての人間尊重教育の推進を図る。 ④SC.心の教室相談員、外部機関との連携を図り活用する。	①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識を高め、全職員がいじめを許さない姿勢で臨む。 ②生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって、管理職・学年と密な連携を取りながら、組織的な指導体制を確立する。	①生徒指導を充実し、生徒の規範意識を高め、全教職員がいじめを許さない姿勢で臨む。 ②生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって、管理職・学年と密な連携を取りながら、組織的な指導を行っている。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・生徒の規範意識を高め、学校全体でいじめを許さない姿勢で挑む。 ・教育相談CDを中心に組織的指導体制の確立が必要。	成果と課題 ①については学校全体での取り組みにより生徒・教職員の意識改革が図れた。 ②については毎日の打ち合わせの中に生徒支援について連絡し全教職員で問題解決にあたる事ができた。	成果と課題 ①全教職員の協力の下に実行できた。 ②組織的な指導を行った。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学 校・中学校の連携の 推進	①幼・保・小・中との連携推進をめざし、課題に取り組む。 ②引継ぎ支援シートの活用をする。 ③各行事や教科における交流を積極的に図る。(保育士体験・合唱発表・運動会・英語・保体) ☆支援シートに取り扱いについて小中の連携と深め、合同の支援会議ができるようにする。 ☆指導要領の改訂を踏まえて、教科等での連携を図る。	①小学校から入学してくる生徒が、スムーズに中学校生活のスタートがきれ、安心して学校生活が送れる。また、一人一人の生徒の成長を支え、個に応じた指導を進めるために必要な情報の共有と連携を積極的に図る。 ②義務教育9年間を見通したカリキュラムの工夫、授業交流、部活体験など体験活動などを進め、小中学校の密な連携のもと、児童生徒の成長を図る。	①義務教育9年間での児童・生徒の成長を図るため、継続的なカリキュラムの工夫、授業交流、部活体験などの体験活動などを進めるなど、小・中学校の密接な連携を進める。 ②小学校から入学してくる児童が、中学校にスムーズに適応できるように必要な情報の共有を進める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 一部達成した ② 達成した
	課題 ・義務教育9年間での継続的なカリキュラムの工夫、授業交流などの計画的推進を進める。	成果と課題 ①については教育相談CDが学区小学校を巡回し6年生の情報提供を行い、中学校での指導に役立させている。 ②については学区小学校が3校係わるために3校一貫した連携ができず、3小学校一緒の調整が必要。	成果と課題 ①情報交換は行ったが、その他については今後も努力しなければならない。 ②十分に行ったが、今後も継続する必要がある。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①年間指導計画の推進を図る。 ②IEAを活用しての、少数英会話授業の充実を図る。 ③ゲストティーチャーによる異文化体験授業を実施する。 ④国際交流センターの利用した異文化体験学習を計画する。	①国際社会に生きる日本人として資質の向上を目指し、現在派遣されているIEAの様々な教育活動において積極的な活用を進める。 ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体との交流を行う。	①現在派遣されている国際教育指導助手を様々な教育活動において積極的に活用する。 ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体等との交流を行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・IEA講師の様々な教育活動での積極的な活用を行う。 ・学習において外国人留学生や団体との積極的な交流を行う。	成果と課題 ①については英語の授業だけでなく普段の生活からIEAを活用した。 ②については韓国留学生等を活用した国際理解教育を行った。	成果と課題 ①外国語の指導が中心であったが、さらに積極的な活用を進めたい。 ②2学年の総合的な学習の時間に、フェリス女子大学の韓国大学生と交流を行った。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①進路学習の計画的実施と指導内容の充実を図る。 ②地域講師の活用を意図的計画的に行う。 ③職業・進路講演会の充実を図る。 ④職業体験日数の検討をする。 ⑤職業体験学習の時期の検討を始めていく。	①職業の選択を始めとし、自分の未来ビジョンを描いたり、有意義な人生のあり方を自ら体験的に学ぶために、3年間の指導計画を作成する。 ②既に、地域・保護者による講師を活用した授業、地域での職業体験学習を行っているが更に充実したものにしていく。	①総合的な学習、学級指導の時間を効果的に使い、「生き方の学習」について自ら体験的に学ぶ事も含めた指導計画にそってキャリア教育を実践している。 ②市民・保護者などの講師による授業、地域での職業体験学習を学校支援地域本部との協働の中で進めている。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② ほぼ達成した
	課題 ・「生き方の学習」について3年間を見通した指導計画が必要。	成果と課題 ①については総合的な学習の時間の中で3年間を見通した進路指導計画を作成している。 ②については職業体験学習や進路学習を地域・保護者・卒業生を活用した取り組みを図っている。	成果と課題 ①計画通りに行った。 ②学校支援地域本部との関わりを深める必要がある。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①福祉に対する理解と関心を高める学習会を開催し意識の向上を図る。 ②福祉体験学習の充実を図る。 ③コーディネーターを活用する。 ☆実施学年や本校としての狙いなどを明確にした教育課程の編成をする。	①社会福祉について理解を深める。 ②思いやりの心、社会奉仕の精神などの育成をする。	①教育活動全体において計画的な福祉教育や人権教育を進める。 ②地域と連携した体験活動を通じて、人を思いやる心、温かい人間関係を築く心を育てる。(保育体験、地域行事への参加、地域清掃など)
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・教育活動全体において計画的な福祉教育や人権教育を進める。 ・地域と連携した体験学習を通じて、人を思いやる心、温かい人間関係を築く心を育てる。	成果と課題 ①については理解・関心を深めるための福祉体験学習を開催した。 ②については生徒会を中心とした地域清掃活動や募金活動を通して意識向上を図った。	成果と課題 ①人権移動教室や福祉体験学習などを計画的に行った。 ②隣接の保育園での保育士体験、地域の方々の地域清掃などを行い豊かな心の育成に努めた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①地域の環境問題に関心を高める。 ②生徒会が中心となつての身近な環境について取り組む。(MIX用紙の回収・用紙のリサイクル見学・生徒大会での取組み等) ③ディベート等で環境問題を考える。☆指導要領の改訂を踏まえて、本校における考え方やねらい、実施学年など明確にする。 ☆グリーンカーテンの取り組みから意識の高揚を図る。	①環境に対する意識・熱意・見識を育てる。 ②指導計画に基づく環境学習を充実する。 ③身近にある太陽光発電についての理解を進める。	①生徒会活動の中で身近な環境保護の実践活動をする。(ミックスペーパーの回収、エコキャップ回収、募金活動) ②地域講師による環境学習の実施。 ③身近にある太陽光発電についての理解を進める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ ほぼ達成した
	課題 ・生徒会中心に身近な環境保護の実践活動を実施する。 ・地域講師による環境学習の実施。	成果と課題 ①については水質検査を通して環境意識を育てることができた。 ②については理科・保健体育の教科での取り組みの中で逗子市環境会議に講師をお願いし充実を図った。 ③についてはデータの活用が生かされていない。	成果と課題 ①計画通りに実施できた。 ②計画通りに実施できた。 ③地域講師による環境学習で学ぶことができた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	①3学年を見通した、情報モラル教育の充実を図る。 ②情報活用能力を高める実践の工夫をする。 ③教職員の情報教育モラル向上のための研修会を開催する。 ☆管理マニュアルを作成し活用する。	①情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を育成する。 ②情報モラルの育成を図る。	①指導計画に基づき「情報活用能力」を育成するとともに指導するシステムを作成する。 ②教職員が講習会等により最新の情報を学び指導を進める。 ③情報機器が整備された学習環境を十分に把握し、ICTを利用した授業を行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① ほぼ達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題 ・「情報活用能力」育成のための指導計画の育成。 ・ICTを活用した指導法の研究。	成果と課題 ①については指導計画上及び普段の生活の中で指導を図った。 ②については携帯電話教室や情報モラル教室の実施を行った。	成果と課題 ①教科学習を中心に進めている。 ②最新の情報を学ぶことが個々に任されている。 ③委託研究と並行して進められた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	①久中だより、HPについて時期、内容、目的等を調査し、充実した情報発信に生かす。 ②メールマガジンの体制づくりと実施をする。 ③学校説明会・授業参観・学校へ行こう週間等で地域や家庭への学校経営について情報提供・公開をする。☆ホームページの計画的な更新を図る。	①学校だよりを地域へ配布する。またホームページの構成を見直すとともに、更新を積極的に行う。 ②青少年育成推進の会を始めとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深めていただく。	①情報発信の内容や方法について地域の方々からご意見・感想を集め、改善に努める。 ②定例会や各団体主催の行事などに積極的に参加していく。また地域清掃等の地域との協働も進める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・ホームページの構成を見直し更新を積極的に行う。 ・地域団体との関係を深め学校への理解を得る。	成果と課題 ①については更新は行う事ができたが構成については見直しが遅れている。 ②については青少年育成推進の会が3地区、体育会が4地区に参加でき関係が深められた。	成果と課題 ①、②地域教育協議会、地域の会などから意見・感想をいただき改善に努めた。地域行事に積極的に参加するとともに、様々な協働に努めた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 地域教育力の活用～学校支援地域本部の設置～	①人材バンクの整理、活用の仕方。 ②長期にわたり安定した地域組織との連携づくりをする。 ③教師の専門性を生かした地域交流のあり方を考える。 ④定期的に地域協力者会を開催し、地域と協働の授業展開を考える。	①学校評議員会を学校支援地域本部の組織に整理統合し、地域コーディネーターを中心とした学校支援の体制づくりを進める。 ②学校関係者評価委員会、学校評議員会、保護者・地域個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映する。	①学校支援地域本部が学校支援、地域連携の中心として確立し、地域コーディネーターと学校側の連携が進められている。 ②学校支援地域本部の活動について積極的に情報発信して、地域・保護者等から具体的な学校支援や協力を得られている。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・地域コーディネーターを中心とした学校支援の体制づくりを進める。	成果と課題 ①については整理統合し体制づくりができた。 ②については委員会を年3回計画し実施した。反省・意見は次年度に反映できるようにした。	成果と課題 ①、②地域コーディネーターとの連携、支援本部の活動を進めた。教員側が中心で行っている部分を改善していきたい。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	①外部評価の導入を再検討する。 ②評価後の改善点を明らかにし、評価方法を検討する。 ☆学校評価を見直し、改善していく。 ☆関係者評価の活用	①生徒・保護者にアンケートを実施し、自己評価に取り入れる。 ②自己評価に対する保護者、学校評価委員会、学校評議員委員会、地域等から改善の指摘を、次年度の学習運営に反映する。	①生徒・保護者向けアンケートの内容や、回数などを検討するとともに公開の方法を改善する。 ②学校評価の作成について年間の日程を再検討し、自己評価の作成時期、改善方法の作成、学校評価委員などの外部からの意見を取り入れ学校評価としてまとめる時期を確定する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・自己評価の内容を見直しわかりやすいものとする。 ・行事ごとにアンケートを実施し自己評価に取り入れる。	成果と課題 ①については行事ごとに生徒・保護者・地域の方々に実施している。 ②については意見について精査し次年度に反映していく。	成果と課題 ①公開の方法として、ホームページなども利用したい。 ②例年と同じ時期となったが、教職員の反省の時期を受けて実施すると、速く進めることは難しい。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>研究授業を多く実施し、多数の教師の参加体制を作る。</p> <p>①全員による授業公開を行い、外部指導者を招いての研究会の充実を図る。</p> <p>②個人、教科テーマを設定し授業力向上を推進する。</p> <p>③教員の世代間交流を通じて、教員の資質・力量の向上を図る。</p> <p>☆指導要領改訂に伴い、教科や学年のねらいを明確にしながら授業研究を継続する。</p>	<p>①研究授業の積極的な実践・課題研修レポートの作成。</p> <p>②指導助言に適切な講師を依頼し、研究会における研修の充実を図る。</p> <p>③教科会を充実する。</p>	<p>①わかりやすい授業への取り組みを校内研究、課題研修の実践により進めている。</p> <p>②研究会が充実し、指導助言により授業力を向上する。</p> <p>③教科会により教科ごとの授業改善を進める。</p>
	<p>評価 S・(A)・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>課題</p> <p>・研究授業の積極的な実施、課題研修レポートの作成を行う。</p> <p>・研究会の実施、適切な助言者の依頼を図る。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については年2回の研究授業とレポート提出の義務化。</p> <p>②については外部講師を招いての研修会が4回、実施された。</p> <p>③については授業のユニバーサル化や新指導要領の取り組みで充実した。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①、②、③、委託研究を進める中でそれぞれの目標に向けて、十分努力できた。</p>
② 授業評価の活用	<p>①評価規準の見直しと検討を行う。</p> <p>②授業評価シート項目の検討する。</p> <p>③外部講師等の専門家を活用した授業評価を取り入れる。</p> <p>④評価基準の公表をする。</p> <p>☆関係者評価の導入を進める。</p>	<p>①校内研究における授業を中心として授業評価を進める。</p> <p>②学校評価の重要な部分として、生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、よりよい授業づくり为学校全体として取り組む。</p>	<p>①授業評価を積極的に進め、授業改善に反映している。</p> <p>②授業公開等の機会を利用して、多くの方々からの授業評価を得て、よりよい授業づくりを進めている。</p>
	<p>評価 S・(A)・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>課題</p> <p>・校内研究における授業を中心とした授業評価の推進。</p> <p>・生徒、保護者、外部関係者の授業評価を生かした授業づくりの推進。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については全教員が意識を持って取り組むことができた。</p> <p>②については評価をして頂き次年度に生かしていきたい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①、②それぞれ実践できた。しかし今後も継続していくことが重要である。</p>
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	<p>①地域教材活用のため、講師を招き研修会を行う。</p> <p>②行事、昔話、文化財など地域、郷土を知る活動を行う。</p> <p>☆地域教材の開発に取り組む。</p>	<p>①保護者・地域の外部人材の積極的な活用を推進する。</p>	<p>①保護者・地域の外部人材の積極的な活用を推進する。</p> <p>②地域団体の行事、学校との協働など様々な連携を進める。</p>
	<p>評価 S・(A)・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>課題</p> <p>・保護者、地域の外部人材の積極的な活用の推進。</p> <p>・地域団体の行事、学校との協働などの連携推進。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については地域団体を積極的に活用できた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①水質検査、環境学習など積極的に外部講師を活用できた。</p> <p>②地域との連携、協働を積極的に進めた。</p>
④ 研修事業の充実	<p>①初任者研修や年次経験者研修等、経験年数や職務内容に応じた各種研修の積極的な参加を促す。</p> <p>②参加体制づくりを確認する。</p> <p>③研修会および研究会への参加を推進する。</p> <p>④研修の成果を伝達し、情報の共有化を図る。</p>	<p>①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画的に進める。</p>	<p>①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの校内研修を計画的に進める。</p> <p>②市、県の主催する研修について個々の経験、職務に応じた研修会への参加を促す。</p> <p>③校内での自主的な研修会の実践を促す。</p>
	<p>評価 S・(A)・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>課題</p> <p>・教育活動全体において、教師が身につけるべきものの校内研修の計画。</p> <p>・県、市などの主催する研修会への参加を促す。</p> <p>・校内研究の計画的実施。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については授業のユニバーサル化と係わって計画的に研修を行うことができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①委託研究を通じて実践できた。</p> <p>②指定研修を受講する教職員が多く、自主的なものは少なかった。</p> <p>③十分ではないが実践を進めた。今後の継続が重要である。</p>

平成21年度～平成23年度 学校による点検及び評価の推移(沼間中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み(教育課程部)		①選択授業の時間の削減と数学・理科時間の拡大を図る。 ②全教科における言語活動・体験活動のあり方を視野に入れた授業実践を行う。	①週授業時数29時間を導入する。(試行) ②言語活動を取り入れた授業を実践する。 ③体験活動を取り入れた授業を実践する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した
		成果と課題 ①については、3年では選択授業時数を年間17時間削減する等、理科授業数年間35時間拡大した。 ②については、次年度も校内研究会で研究を進め、より日常的な授業実践に結びつけていくことが、課題である。	成果と課題 ①については、週29時間の全面実施を前に過程について考えることはできた。 ②については、研究授業を通して授業づくり・実践をすることができた。 ③については宿泊行事、職場体験、ピーチコミング等、体験を授業に取り入れた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実(支援・教育課程部)	・全校生徒一人ひとりの3年間継続の個人学習支援シートを作成し、9教科を総合的に捉えた学力の向上を図る。 →読解力、思考力、発表力等	①生徒一人ひとりの能力に応じた補習を定期試験前や夏休み、さらに定期的に実施する。 ②生徒一人ひとりの学習状況の把握とそれに対応する授業を工夫する。 ③個人学習カルテの改善を行う。	①生徒一人ひとりの能力や学習状況に応じた補習や授業の有効性の検証に努め、さらなる工夫・改善を行う。 ②生徒一人ひとりの学習状況の把握とそれに対応する授業を工夫する。 ③個人学習カルテの改善を行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題◆個人学習カルテの改善と個別学習支援は充実できたが、休業中の補充学習には改善すべき点も残った。	成果と課題 ①については、支援部が中心となり、サマーチャレンジ10日間、テスト前補習年4回4日間を学校体制で実施することができた。 ②については、学習状況把握を校内研究会のテーマの1つに掲げ、研究授業を実施し、講師の助言を仰ぎ、日常の授業に生かした。 ③については、評定や親別学習評価との違いが明確になるよう記号を変え、保護者・生徒の理解しやすいよう改善できた。 ・学習意欲の向上に努め工夫も重ねたが、生徒の理解力向上にややつながっていない。さらに努力が必要である。	成果と課題 ①については、支援部が中心となり、夏季休業中のサマーチャレンジを10日間学校体制で実施することができた。 ②については、研究の5つの視点の中に「学習状況把握・課題分析」があり、それを盛り込んだ研究授業を行った。 ③については、カルテの項目や文言等を部内で話し合い、保護者・生徒が今後の学習に生かせるようにいくつかが改善できた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 「読解力」向上の取り組みの推進(教育課程部)	・読解力向上について、さらに発展と向上を図る。	①各教科における「読解力」とはどのような能力が周知を図る。 ②教科外での「読解力」育成が可能な内容を洗い出す。	①各教科における「読解力」とはどのような能力が確実に周知する。各教科での実践計画を作成し、授業実践する。 ②教科外での「読解力」育成が可能な内容を洗い出す。教科外での指導計画を作成し、実践する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題 新学習指導要領を考慮し、1年で国語の少人数指導を試行した。また、各教科言語活動の指導を授業に取り入れる等、全面実施に向けて取り組んだ。	成果と課題 ①については、今後は新学習指導要領における言語活動との整合性を図るところから再検討する必要がある。 ②については、読解力に焦点を当てた校内研修会をもったが、「内容」の洗い出しには至らなかった。 ・事前の取り組みが不十分だった。返子市の捉え方、新学習指導要領における捉え方の周知を図るとともに、沼間小学校での実践についても周知をはかるために研修会を設定する必要がある。	成果と課題 ①については、校内研究会テーマとなっている言語活動と絡めて各教科ごとに授業実践することができたが、実践計画作成は次年度の課題である。 ②については、次年度は教科外での指導計画も教科での実践計画と併せて作成し、実践していきたい。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 読書活動の推進(図書委員会)	読書週間を中心に ・朝読書を生徒自らの活動で充実させる。 ・朝読書を充実させるためにブックトークの取り組みも積極的に取り入れる。	①保護者や地域との連携をとりながら、図書委員会を中心とした読書活動を検討する。 ②「学校版子ども読書活動推進計画」を検討する。 ③司書教諭・学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能の活性化を検討する。	①保護者や地域との連携をとりながら、図書委員会を中心とした読書活動を実施する。 ②「学校版子ども読書活動推進計画」を策定する。 ③司書教諭・学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能を活性化させる。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題 読書週間間隔及び昼休み等を使い、読書活動や読み聞かせ等を行った。さらに充実を図りたい。	成果と課題 ①については、保護者・地域の協力を得て、県図書館教育研究会で本校の取り組みを発表し、図書委員会指導の課題を洗い出すことができた。 ②については、「学校版子ども読書活動推進計画」の検討はまだ中途なので、来年度も継続する。 ③については、学校支援ボランティアは試行できたので、来年度本格実施する。	成果と課題 ①については、年2回の読書週間の取り組みを通して、図書委員会が中心となって全校体制で読書活動を実施することができた。 ②については、検討中の段階なので、今後も継続する。 ③については、学校支援ボランティアにご協力いただき毎日の開館を実現し、学校図書館の機能を活性化することができた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進(支援部)	・特別に支援が必要な生徒への具体的な支援方法を学習面、メンタル面両輪で体系的に実践する。	①生徒一人ひとりの状況把握に努め、その支援のあり方を共通理解する。 ②教育相談コーディネーターが中心となり、校内支援体制の構築を図る。	①生徒・保護者・学校の共通理解のもとに、個別支援・共同学習が必要な生徒に行っていく。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した
	課題 ◆支援委員会で検討された事項を全体会で報告し全職員に共通理解を図った。また、外部講師による校内研修会を実施する必要がある。	成果と課題 全教職員の意識が向上し生徒の支援のあり方を共有することができた。体制は概ね構築できたが、円滑に実施させていくことが課題であるので、来年度も継続したい。	成果と課題 ①支援ファイルを作成し、支援キャビネットに保管し職員の共通理解を図った。また、「気になる生徒一覧」を作成し、職員会議で情報を共有することができた。今後は支援教室をより有効に使えるよう努めていきたい。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成(支援部)	・服装、食生活、時間、マナー面等、義務教育終了後、規範意識の高い社会人の育成を目指す。	①学活、道徳の時間における教師による意識改革と呼びかけや、地域講師等の講演会を通しての指導の充実を図る。 ②挨拶、言葉遣い等の日常的指導を継続する。 ③生徒会活動としてのルールを守る呼びかけを行うよう助言していく。	①生徒による学級、学年の達成目標として位置づけ、自ら検証させるよう継続指導していく。 ②学校だより等を利用して、生徒の意識向上と家庭・地域の協力を促す。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆ 生徒会、保護者、地域の方、職員で登校指導を行ったが、服装、マナー面の指導について徹底できなかった。	成果と課題 ①については、教師が朝会等あらゆる機会に規範意識の熟成を図るとともに、弁護士、客室乗務員をはじめ、多くの地域講師を招へいし指導の徹底を図った。 ②については、挨拶については一定の指導の効果は得られたが、言葉遣いについてははたらきかけをしたものの、生徒の問題行動が多く意識向上への支援が難しかった。来年度はさらに組織的な取り組みをしたい。 ③については、教職員の意識の熟成は図れたものの、生徒の自主的な活動を十分に引き出す指導にまでは至れなかった。	成果と課題 ①については、「学校生活のきまりプリント」を作成し、生徒に配布し、基本的な学校における生活習慣を徹底できるように努めた。 ②に関しては、学校生活の様子、朝会等での校長・教頭の話が学校便りに載せ、家庭・地域に情報を提供することによって、協力を促した。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進(教育課程部)	・人権問題の課題を日常生活の中に見つけ、その解決に向けて行動できる力を生徒が身につけられるよう支援する。	①道徳担当教諭がリーダーシップを取り、豊かな心を育む道徳教育を全教科・領域において推進する。 ②学校支援地域本部の協力による地域人材活用の授業を実践する。	①道徳推進担当教諭がリーダーシップを取り、豊かな心を育む道徳教育を全教科・領域において実践する。 ②学校支援地域本部の協力による地域人材活用の授業がカリキュラムに位置づけられる。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題 1学年はCAP(暴力防止)カリキュラムの実施。外部講師の全学年対象の人権講話も実施した。	成果と課題 ①については、生徒指導に時間がかかり、道徳教育については学年ごとにはばらつきがあったので、来年度は、教育課程部で計画的かつ組織的に進める必要がある。 ②については心の教育としては、鎌倉ユネスコ、逗子葡萄の木等の協力を得て、3学年合わせて、10時間程度の実践ができた。	成果と課題 ①については、学年のその時の状況に合わせて、年間指導計画をもとに、臨機応変に教材設定ができた。次年度に向けて使用教材の共有をするための準備を行なった。 ②に関しては、なかなか実施できなかったため、次年度は、年間計画に明記する必要がある。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進(指導部)	☆1年生は、環境教育を年間指導の柱とし逗子海岸での清掃活動等を実施する。 ☆2年生では、自然体験学習(1泊)において、環境教育に関わる取り組みを計画・実践する。	①生徒の実態を把握し、さまざまな活動に取り組むことができるように体験活動を計画する。 ②様々な活動に自主的に取り組めるように学習を進める。	①様々な活動を通して、課題をみつけ、解決が自らの学習において図れるような企画・立案をしていき、学習を進める。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した
	課題 2学年対象の自然体験学習(一泊)、職業体験学習(1日)を実施したが、職業体験学習の期間については受け入れ先及び学校事情等が許せば2日間が望ましい。	成果と課題 ①については、3年修学旅行・2年自然体験学習・1年ビーチコーミング等、発達段階に応じて実施できた。 ②については、しっかりとできればシールを貼る等、自主的に取り組める工夫に努め、その結果、生徒の意欲を喚起することができた。	成果と課題 ①3年生修学旅行・2年生自然体験学習・1年生横浜めぐりなど、生徒組織を中心に自らの学習を進めることができた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進(教育課程部)	・健康教育全体計画にしたがって、体系的に実践する。	①家庭、地域などとの連携により食べ物に興味関心を持ち、食事が社会生活においても重要であることを理解させる。 ②運動そのものに対して自らの能力に応じて興味、関心を持てるようにする。	①心身の健康と食事の関係を理解させる。 ②新体力テストの結果を活用しながら、自己の体力を伸ばす意識を持てるようにする。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 今年度も食育で地域の方を招いて調理実習を行った。さらに充実を図りたい。	成果と課題 ①については、地域協力者による調理実習等実践することができ、理解を促すことができた。 ②については、体育の授業では自己評価カードを有効に利用することにより、興味・関心を促すことができた。	成果と課題 ①技術・家庭科、保健体育の授業内で扱い、理解を促すことができた。 ②保健体育の授業内で扱い、意識付けができた。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進～防災教育の推進～(総務部)	・生徒も参加する月末の「安全点検」のより効果的な方法を検討する。	①校舎危険箇所、修繕箇所等を複数職員体制で点検し、改善を図る。 ②教職員の防災研修を実施し、地域の避難所運営訓練に生徒を参加させる。 ③防災安全管理マニュアルを試作する。	①毎月の安全点検に生徒の意見も取り入れる等、より効果的な方法を検討する。 ②生徒が参加する防犯訓練を実施する。 ③防災安全管理マニュアルを完成させる。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	課題 ◆ 学校の安全確保のため安全点検は不可欠なので、複数職員で点検する日を年間3回実施した。今年度は生徒参加の安全点検までは実施できなかった。	成果と課題 ①については、総務安全担当の下に、校舎内外の徹底的な危険箇所の洗い出しを行い、速やかに修繕等実施した。 ②では、予行、本番あわせて生徒延べ、50人を参加させることができた。 ③では、教職員役割分担として住民対応・避難所支援班を新設し、試行できた。	成果と課題 ①は、各担当が毎月の安全点検チェック表を提出することで対応することができた。 ②は、1年生でCAP(子ども暴力防止プログラム)、また全学年でサイバー犯罪防止講演会を実施した。 ③は、安全防災関係のさまざまな検討を通して、年度末には原案ができる予定である。

【沼間中学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② いじめ・不登校等への 対応の推進(支援部)	<p>・生徒が学級活動の中で互いに支援し合えるような学級集団を実現する。</p> <p>・教育相談を必要とする生徒への支援体制の充実を図る。</p>	<p>①生徒本人、家庭との相談、連絡を密にすることにより、学校との信頼関係を構築する。</p> <p>②道徳、学活などの授業を通して自己肯定感の啓発を図る。</p> <p>③生徒間の問題解決能力を培える方法を模索する。</p>	<p>①教育相談コーディネーターが中心となってスクールカウンセラー、うるおいフレンドとの連携を深め、カウンセリングの充実を図る。</p> <p>②生徒会の問題提起等の機会を与え、問題解決能力の育成を図る企画を実践する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p>
	<p>課題 人権教育の実施、支援員会での支援が必要な生徒の把握、全職員の情報の共有、校内研修等で職員間の共通理解は深まった。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については、教師の情報交換、保護者との連絡はよくとれたが、生徒の理解がやや深まらなかった。さらに来年度は学級づくりを基盤とし、取り組みの強化をはかりたい。</p> <p>②については、校内研究会等で、リフレーミングの視点やコミュニケーションを取り入れた研究授業を行うなど、生徒の自己肯定感啓発を行った。</p> <p>③については、授業の中で生徒が互いに高めあい、問題解決に向かって論理的な筋道を立てて説明しあうことができる場面を、多く設定していくことが課題である。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については教育相談コーディネーターが中心になり「気になる生徒一覧」を作成し、会議等で情報共有し、職員の連携を図った。そのおかげで問題を抱えた生徒たちに適切な対応ができた。今後はさらに職員間の情報共有を徹底していきたい。</p> <p>②に関して、生徒会では、挨拶運動を通して、生徒間、生徒・教師間のコミュニケーションを図ることで、いじめ・不登校への対応を考えたが、必ずしも問題提起の機会を十分に与えたとは言えない。今後は具体的な企画を考えていきたい。</p>
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校 ・中学校の連携の 推進(総務部)	<p>・教科毎に連絡会をもち、小中一貫カリキュラムの在り方を模索する。</p>	<p>①小中合同研究会を設定し、できるだけ多くの教職員が参加する。</p> <p>②全教科で小学校のカリキュラムを学び、小学校での体育・英語の交流授業や新入生対象体験学習を実践する。</p>	<p>①小・中合同研究会を共同企画し、全教職員が参加する。</p> <p>②全教科で小学校のカリキュラムを学び、小学校での交流授業や新入生対象体験学習を実践する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p>
	<p>課題 沼間小学校小中連携で小学校に向いて授業を実施した。小中連携の充実。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については、逗子市の研究を受けていたので、小中職員の合同情報交換会を新たに実施した。</p> <p>②については、小学校の交流授業はできなかったが、今年度新入生対象体験学習は実施した。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については、2回実施した。</p> <p>②については、「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」で沼間小との共同研究を受けて、小学校の意見も考慮し、授業参観形式、新入生・保護者学校見学を実施した。</p>
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 国際教育の推進 (教育課程部・英語科)	<p>・地域講師(海外在留経験者又は日本に留学生として来られている方々等)を迎えての授業実践をカリキュラムの中に位置づける。</p>	<p>①小学校外国活動を受けるにあたって、IEAの積極的な活用方法を課題として掲げ、その改善方法を模索する。</p> <p>②修学旅行において、日本文化を理解するとともに、様々な国からの旅行者との交流を促し、生きた国際理解教育を推進する。</p>	<p>①国際教育指導助手を積極的に活用する方法を実践検証することにより、授業のねらいの深化を図る。</p> <p>②教科や総合の時間での年間指導計画に、地域講師を迎えての授業実践等位置づけ、推進する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成できなかった</p>
	<p>課題 今年度は特に海外在留経験者等の講師を迎えての授業は実施できなかった。来年度は実施したい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については、IEAが積極的に生徒たちと会話する機会を多く設ける工夫を行った。</p> <p>②では、修学旅行での総合的な学習の時間における課題設定を再検討する必要がある。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については授業づくりの際に国際教育指導助手が生徒たちとコミュニケーションをとる機会を多く持つよう心がけた。</p> <p>②については、年間カリキュラムの中で時間確保が難しかった。</p>
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進 (支援部)	<p>・職業体験学習では内容の充実を図ることと生徒に日程及び内容の選択を広げる。</p>	<p>①地域講師を迎えての授業を通して、働く人々の生きた教材により学習のねらいを深化させる。</p> <p>②職業体験学習の2日間の実施を実現させる。</p>	<p>①地域講師を迎えての授業を通して、働く人々の生きた教材により学習のねらいを深化させる。</p> <p>②職業体験学習の2日間の実施を実現させる。</p> <p>③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>課題 新型インフルエンザ及び学級閉鎖による授業時数確保のため、職業体験を今年度は、1日で実施した。次年度以降2日日程で実施したい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については、ふれあいディの地域講師を迎えての授業では2・3年でキャリア教育の地域講師を招へいして授業を行った。延べ15人を導入できた。</p> <p>②については、2年において、2日間受け入れ事業所30箇所を探し、2日間実施できた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については、地域講師を迎えての授業を行い、学習のねらいを深化させることができた。</p> <p>②については、2日間の実施ができた。</p> <p>③については、発表の場を設けて、各学年実施できた。</p>
行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進 (指導部)	<p>・全校の発表の場を設け、福祉体験を共有していく。</p>	<p>①小学校でのカリキュラムとの連携を図り、福祉体験学習を定着させる。</p> <p>②地域講師を迎えての授業実践を推進する。</p>	<p>①小学校でのカリキュラムとの連携を図り、福祉体験学習を定着させる。</p> <p>②地域講師を迎えての授業実践を推進する。</p> <p>③体験学習に対する発表の場を設け、全体で共有する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>課題 今年度の福祉体験学習は個人選択で夏休みに実施。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については、小学校との授業の重なりを避け、本校では、キャリア教育を視点に据えた福祉教育を定着させることになり、その一環として、サービス業より地域講師を招へいし、マナー講習会等実施することができた。</p> <p>②については、小学校カリキュラムとの重複をさけるため、今年度は福祉を勤労や法秩序という観点まで拡大し、実践することができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①、②については福祉体験はこころの教育という視点で3年生で試行した。</p> <p>③今年度は震災支援活動やピースメッセンジャー体験等、全校集会の場で共有することができた。</p>

【沼間中学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進 (指導部・環境局)	☆学校版ISO取得に向け環境局を中心に全校で取り組む。	①地域の環境改善の取り組み(ピーチコーミング・地域清掃等)を実施する。 ②地域・保護者との共同参画による企画も導入する。	①3R(リサイクル・リユース・リデュース)運動を生徒会活動中心に徹底する。 ②環境に対する意識を高め、自ら環境に対する活動を行うとする姿勢を育てる。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 生徒会(総務会)、環境局等で取り組んだが、ISO取得には至っていないので、引き続き取り組む必要がある。	成果と課題 ①については、地域・保護者の協力を得た全校生徒参加の年2回の地域清掃を始めとして、1年では地域講師の指導の下にピーチコーミングを行い、調べた結果を発表することができた。 ②については、学校支援地域本部の協力を得て、美術部・環境局の生徒が中心となって昇降口前の花壇をレンガで造り、メダカの飼育を始める準備をした。 ・少し保護者や地域への呼びかけが弱かった。来年度は地域清掃以外にも地域・保護者との共同参画による企画を増やしていきたい。	成果と課題 ①については、牛乳パックの回収と分別を学校全体で定着させた。 ②については、1学年のピーチコーミングや、2学年の自然体験学習を通して、環境に関する課題を見つけ出し学ぶことができた。全校での取り組みとしては、地域清掃を年2回行った。次年度への課題は、学校全体で取り組めるような環境に関する活動を、もっと増やすことである。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進 (教育課程部)	・情報モラル等についても生徒に課題を投げかけながら、日常の授業に生かしていく。 ☆情報モラル向上を図りつつ、インターネットを含めた情報機器の活用を広げる。	①授業でICTを活用できるよう環境整備する。 ②小学校と連携し、情報機器の活用状況を知る。 ③ネット、メールなどの被害事例を知り、対策を考える	①ICTを活用した授業計画を推進する。 ②小学校と連携し、小学校での情報機器の活用能力を図る。 ③情報の発信者として被害者・加害者ともにならないように指導する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 情報モラルについて、技術・家庭科の授業で実施。インターネットのマナー等。	成果と課題 ①については、ICT支援員を活用した校内研修を3回設定し、教職員のスキルアップを図り、その結果、プロジェクター等多くの授業で活用された。 ②については、沼間小学校との授業参観を共有し、発達段階にあった使用法を共有した。 ③では、警察等の地域講師を招いて保護者・地域にも呼びかけ研修会をもつことができた。	成果と課題 ①校内研修を行った結果、書画カメラの活用が多く見られた。電子黒板はソフト面が課題となっている。 ②1年の初めに文書処理ソフトウェア、インターネットなどの使い方を確認。ローマ字入力ができない生徒が多いことがわかったので、次年度からの新学習指導要領全面実施に向けて、より小学校との連携を密にしていきたい。 ③全校生徒対象に警察のサイバー犯罪に関する講演を行った。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫 (地域連携部)	・学校へ行く週間や公開日を利用して保護者・地域来校者の増加を図る。研究会は地域、保護者の参加を募り、意見反映を促す。	①P&Tのあり方を検討(PTAへの移行の提言)していく。 ②学校公開等におけるあらゆる場面で地域・保護者との学校課題の共有を図る。 ③情報発信(学校だより、HP、メール配信等)の充実に向けた計画を作成する。	①P&T(ペアレント&ティーチャー)活動をさらに活性化するにはさらきかけ、PTAへの移行を具体的に検討する。 ②諸課題への具体的対策の実践、公開および協力の呼びかけを行う。 ③情報発信(学校だより、ホームページ等)の充実を図る。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 授業参観年間3回実施。全教師の授業研究を実施。さらに、外部講師を招いての講演会等に保護者、地域の方にも参加いただいている。	成果と課題 ①についてはP&T活動の活性化を図ることはできたが、PTAへの移行を検討課題として視野に入れるまで進めることができたものの、具体的な検討に至るには時期尚早であった。 ②については、6月には地域・保護者・教職員の茶話会、9月に臨時保護者・教職員の懇親会を学年ごとに開き、学校の現状の課題とその解決策を話し合った。 ③についてはメール配信制度を導入、HPでの情報拡大等工夫し、有効な活用方法の施行に至った。	成果と課題 ①については活性化は達成したが、PTAへの移行の課題が新たに認識されたので、その検討に止まった。 ②、③については、ホームページの刷新、学校案内の制作等、大幅に進んだ。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部 の設置～(地域連携部)	・個別な学習支援・図書館に地域協力者の参加を定着させる。 ・地域講師参画型の授業づくりを継続的に実施する。	①地域講師を迎えての授業のあり方を提示し、共通理解の下に実践する。 ②地域教育協議会(評議員会)の一体化を視野に入れながら、より機能的な運営を行うことで、学校支援地域本部の活動を軌道に乗せる。	①地域講師等地域力による支援体制の整理・充実に向けた計画づくりを行う。 ②地域教育協議会の企画・運営によって、学校支援地域本部が地域主体で活動を始めよう具体的な支援活動を計画・実践する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆ 地域講師授業の実施。食育では地域の方を招いて家庭科で調理実習を実施したが、園芸でも実施していきたい。	成果と課題 ①については、地域コーディネーターが教職員と密な打ち合わせを持つことで、学校のニーズを的確に把握し、生徒に有意義となる授業実践ができた。 ②については、生徒を地域行事に参加させることで、学ばせる機会も積極的に提供できた。	成果と課題 ①については、支援体制の計画までは進んだが、対象となる生徒がおらず、具体的な計画までには至らなかった。 ②については、地域主導型に返ることができた。

【沼間中学校】

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 学校評価を生かした学校の改善(地域連携部)	・客観性のある学校評価も一部取り入れ、その結果を真摯に受け止め検討し、最優先課題として解決を図る。	①学校の実態の把握・分析と評価活動とのつながりについての具体的検討を行う。 ②学校評価に基づいた改善・支援・公開等の整備・基盤づくりを行う。	①視点、重点を明らかにした評価項目設定と、それに基づいた教育活動向上への実践提言による改善を実行する。 ②学校評価に基づいた改善点実践に対する検証を行い、年度末に評価委員会にて報告し、保護者にも公開する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 生徒、保護者、地域の方、学校評価委員、評議委員、職員のアンケートを実施し、課題を見つけ、優先課題から解決を図った。	成果と課題 ①については、学校評価の質問項目を再検討し、学校経営方針との整合性を図った。 ②については、学校経営方針に沿った学校評価集計結果であったため、学校関係者評価委員会での評価を、的確な改善案として学校経営方針に反映させることができた。さらに、年間行事では予定していなかった保護者懇談会を設定し、学校運営についての生の声としての要望を聞く機会を持って学校運営に反映させた。	成果と課題 ①、②共に、本校の一連のサイクルが定着し、学校経営にも反映できた。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
① 授業研究の充実(教育課程部)	☆基礎・基本の定着を基盤に、活用する力の育成を目指した授業研究に取り組む。	①授業改善のための校内研究組織の強化と研究時間の確保を実行する。 ②小学校カリキュラムの研究を取り入れ、生徒の関心・意欲を高める。 ③校内研究会充実のために適切な講師を招き、授業力向上を図る。	①校内研究会の充実を継続させる。 ②来年度にむけたシラバスを研究する。 ③小中連携の下に、学区内小学校の研究協力者を活用し、授業改善のための研修を行う。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題 ◆校内研究は全教師が授業参観以外に外部講師を招いて研究授業を実施したが、さらに、校内研究会を充実させ、機会を増やしていく必要がある。	成果と課題 ①については、教育課程部と総務部の連携の下、年間10回の校内研究会を実施できた。 ②については、小学校との連携が不十分だったが、来年度は県学びづくりの研究指定を柱に、強力に推進を図る必要がある。 ③については、講師を年間6回招へいし、学級づくりを礎とした学力向上の方法を研究・研修した。	成果と課題 ①については教育課程部と支援部、総務部の連携の下、年間10回の研究会を実施できた。 ②については評価基準の課題を提示することができた。 ③については講師を年間5回招へいし、研究テーマに沿った言語活動を取り入れた授業づくりについて研究・研修した。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
② 授業評価の活用(教育課程部)	☆授業評価を授業改善に生かして、授業力向上を目指す。	①教師相互の授業評価、及び、生徒による授業評価を行う。 ②評価結果を考察し、自らの授業の弱点を認識する。	①評価結果の考察から、自らの授業の改善策を講じ、再度、授業評価によって検証する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した
	課題 ◆ 全教科、全学年の授業評価アンケートを実施し、課題解決の方針を出したが、授業に反映させるところまでには至らなかった。	成果と課題 ①、②については、自ら考察し認識するに留まらず、校内研究会で発表し、共有することができた。	成果と課題 授業評価を実施し、その結果から課題を見つけ、その解決方法を考え、授業改善に役立てた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進(地域連携部)	・地域教材を活用して、授業の充実と公開を積極的に行う。	①小学校との連携を利用して、教科・学年などで、地域素材の活用の工夫について検討する。 ②保護者・地域講師の活用について、学校としての経過をまとめ、今後の課題を提示する。	①教科・学年などでの地域素材の活用について、計画作成・授業研究等を推進する。 ②保護者・地域講師の活用について、学校独自の個性を打ち出しつつ、共有化について他校との連携を密にしている。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 食育で地域講師を招いての調理実習授業を実施した。地元の食材を使用(地産地消)した。	成果と課題 ①については、小学校との連携については、より具体的実践につながるように検討していく必要がある。 ②については、学校支援地域本部が組織として動き始め、それぞれの教科・部活動・委員会活動が積極的に地域講師導入に動き出した。また、本校では地域活動そのものを教材と捕らえ、休日も生徒を地域ボランティアとして、送り出す体制もできた。	成果と課題 ①、②とも、1年生のピーチコーミングや保健体育のダンスの授業などで、実現できた。ダンスについては、逗子教育研究会の体育部会を通じて、小学校も含めて共有化を図ることができた。

行動プラン	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容	H23(2011)年度取組内容
④ 研修事業の充実(総務部)	・危機管理意識、情報モラル等の高揚等、今日的な課題についての研修会を実施。	①小中合同研修会を実施し、相互理解を深める。 ②支援教育等、生徒理解・人権に関する研修を積極的に計画する。 ③ICT研修に積極的に参加し、技術の向上に努める。	①小・中合同研修会を実施し、相互理解を深める。 ②危機管理意識、情報モラル等の今日的課題について研修会を設定する。
	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 危機管理(安全な学校)研修として、防災では全職員対象で火災報知器等が作動した場合の対応。防犯研修では外部講師を招いての不審者対応訓練研修を行った。	成果と課題 ①については、研究会相互乗り入れや合同研修会等実施し、小学校・中学校の違いや共通点等明らかにすることができ、その結果、教職員の相互理解が深まった。 ②については、支援教育研修会及び全体会を全教職員参加で5回以上もつことができた。 ③については、全職員参加での、ICT研修会を3回実施できた。	成果と課題 ①については、「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の共同研究で実施した。 ②については、毎月職員会議前に事故防止会議で実施できた。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（事務の委任等）

第二十六条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。
 - 一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
 - 二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
 - 三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
 - 四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
 - 五 次条の規定による点検及び評価に関すること。
 - 六 第二十九条に規定する意見の申出に関すること。
- 3 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（教育委員会の意見聴取）

第二十九条 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかなければならない。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（抜粋）
（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

逗子市教育委員会 教育部教育総務課

〒249-8686

神奈川県逗子市逗子5 - 2 -16

TEL046-873-1111

FAX046-872-3115

E-mail kyouiku@city.zushi.kanagawa.jp